

## 地域福祉に関する市民意識調査結果のポイント

- 【P 3】日常生活上の不安として、前回調査時には老後や健康関連が多かったが、今回は半数が「経済的なこと」と回答し最多。前回調査時（H29：約3割）から家庭の経済面に不安を感じる人の割合が大きく上昇。
- 【P 7】近所付き合いとして普段から助け合っている人の割合が前回調査時から減少し、「近所付き合いはしていない」と回答した人の割合が上昇。地域差も顕著で、東小校区は助け合っている人の割合が他校区に比べ高く、南小校区は近所付き合いをしていない人の割合が高い。
- 【P 10】近所で助け合いたいと感じている人の割合が半数。世代差はあまり無く、30歳代以降全ての世代で半数が助け合いが必要だと感じている。前回調査時から助け合える関係性を望む人は減少。
- 【P 13】自分と地域のつながりが強いと感じている人は約2割。地域差としては、長小校区、東小校区は他校区と比べ、つながりが強いと感じている人の割合が高い。
- 【P 17】近所の独居高齢者や子育て世帯が困っていたら、約2割の人が支援したいと考えている。ひきこもりの人やその家族への支援については、他の支援対象と比べ、支援の方法が分からなかったり、支援しないと考える人の割合が高い。
- 【P 24】近所の支援が必要な家庭に対して、半数の人が見守りや安否確認、災害時の手助けが可能と考えている。特に災害時の手助けについては前回調査時（H29：約3割）から大幅に上昇している。
- 【P 26】近所の人に支援をしてほしい内容についても、半数の人が見守りや安否確認、災害時の手助けを望んでいる。
- 【P 27】大切な地域のあり方として、半数の人が「気軽に相談できる場の充実」「見守りを必要とする人への支援」と回答。
- 【P 29】地域の課題として約6割の人が「近所付き合いが減っていること」と回答。
- 【P 30】地域で助けを求めることができる人の割合が前回調査時から減少し、助けを求められない人や誰に求めていいか分からないと考える人の割合が増加。
- 【P 33】日常生活での移動について約3割の人が不便を感じているが、80歳代以上ではほぼ半数が不便を感じている。地域差としては、他校区に比べて東小校区、市が洞小校区で不便に感じている人の割合が高い。
- 【P 37】地域活動について約6割の人が参加したいと考えているが、前回調査時から減少し

ている。

- 【P38】参加してもよいと思う地域活動について、前回調査では「災害時の援助に関する活動」への回答が最多であったのに対し、今回は「芸術・文化・スポーツに関する活動」が最多で、次いで「緑化・自然環境に関する活動」となっている。
- 【P40】民生委員・児童委員の認知度について「知らない」と回答した人は約1割で前回調査時とほとんど変化なし。
- 【P40】避難行動要支援者登録やながくて地域スマイルポイントについて「知らない」と回答した人は約7割で前回調査時とほとんど変化なし。
- 【P40】コミュニティソーシャルワーカーについて「知らない」と回答した人は約6割、ヤングケアラーについて「知らない」と回答した人は約3割、N-ジョイについて「知らない」と回答した人は約9割となっている。
- 【P49】災害時に自ら避難することが困難な方の支援のために日ごろから地域で声をかけあうことが必要だと考える人の割合は前回調査時と同様に9割を超えている。
- 【P53】ゲートキーパーの認知度は約1割。
- 【P56】成年後見制度の認知度について「知らない」と回答した人は約2割で前回調査時から減少。
- 【P59】市民後見人について、興味がある人の割合は約3割。
- 【P60】社会を明るくする運動の認知度について「知らない」と回答した人の割合は約7割。
- 【P60】過去に罪を犯した人の立ち直りについて協力したい人の割合は約2割。

長久手市  
地域福祉に関する市民意識調査  
調査結果報告書

令和5年3月  
長久手市

# 目次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査対象者及び調査方法、調査回収状況	1
4. 報告書の見方	1
II 調査結果	3
1. 「すべての人に役割のあるまち」を目指す上で、あなたの考えに近いもの	3
2. 自殺対策に関する考え	51
3. 権利擁護・成年後見に関する考え	55
4. 再犯防止に関する考え	60
5. あなたご自身について	62
6. 長久手市の良いところや、まちづくりについてのご提案等（抜粋）	64
III 調査票	75

# I 調査概要

## 1. 調査の目的

本調査は「長久手市地域福祉計画」及び「長久手市地域福祉活動計画」策定にあたり、市民の意見を伺い、策定の基礎資料とすることを目的として、実施したものです。

## 2. 調査対象

長久手市在住の15歳以上を無作為抽出

## 3. 調査対象者及び調査方法、調査回収状況

調査対象者	令和4年●月1日現在、長久手市に在住する16歳以上の市民5,600人を無作為抽出
調査手法	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和4年11月●日～12月5日
有効回答率	35.6% (有効回答数 1,993件)

## 4. 報告書の見方

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してあります。  
また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。  
なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを網かけしています。（無回答を除く）

## II 調査結果

### 1. 「すべての人に役割のあるまち」を目指す上で、あなたの考えに近いもの

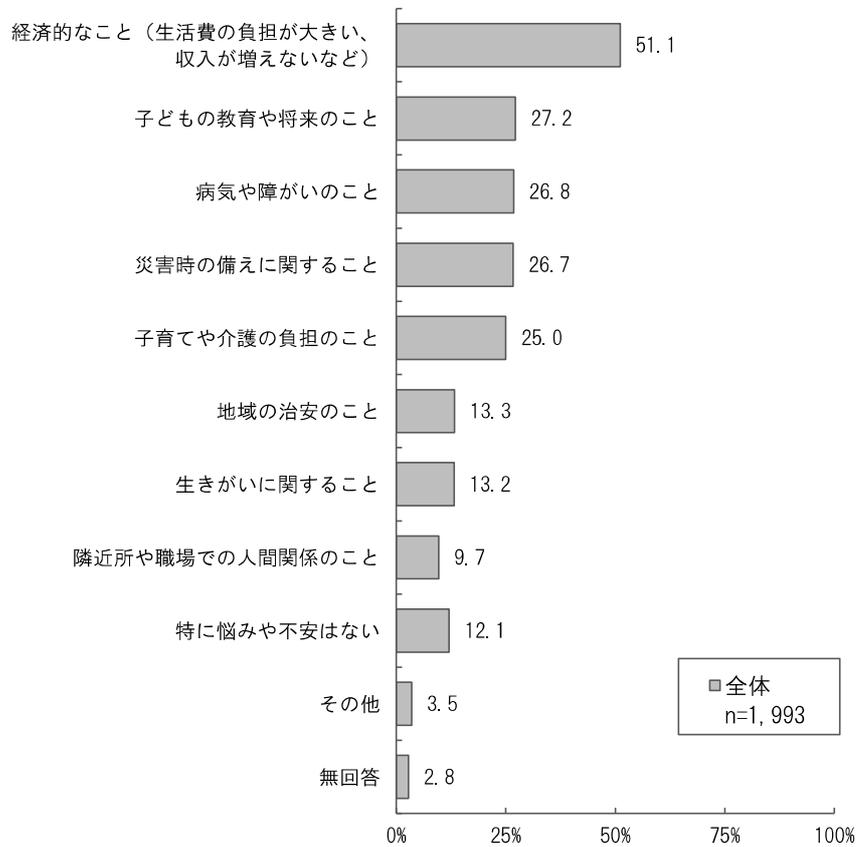
問1 あなたは現在、日ごろの生活において、どのようなことに不安を感じていますか。

【〇はあてはまるものすべて】

「経済的なこと（生活費の負担が大きい、収入が増えないなど）」（51.1%）が最も高く、次いで「子どもの教育や将来のこと」（27.2%）、「病気や障がいのこと」（26.8%）、「災害時の備えに関すること」（26.7%）、「子育てや介護の負担のこと」（25.0%）となっています。

一方で、「特に悩みや不安はない」（12.1%）となっています。

■ どのような不安を感じているか（複数回答）

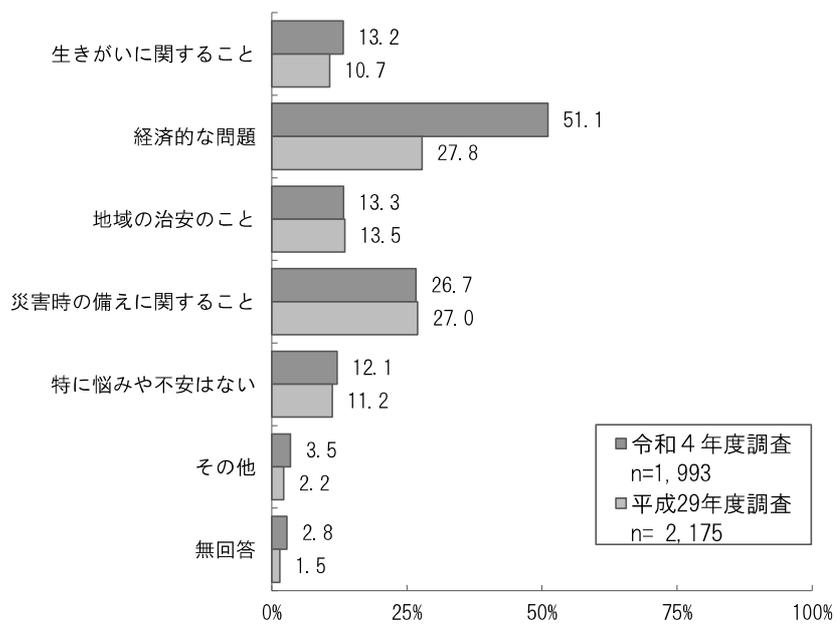


## 前回調査比較

平成29年度調査と比較すると、「経済的な問題」「生きがいに関すること」についての割合が増加しています。

※前回調査と経年比較できる設問のみ掲載。

### ■ どのような不安を感じているか



資料：平成30年度 長久手市地域福祉に関する市民意識調査 調査結果報告書

## 年代別

年代別でみると、75～79歳、80歳以上を除くすべての年代で「経済的なこと」の割合が高くなっています。また、年代が高くなるにつれ「病気や障がいのこと」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、30歳代、40代で「子育てや介護の負担のこと」「子どもの教育や将来のこと」の割合が、20歳代、50歳代、60歳代で「生きがいに関すること」の割合が高くなっています。

単位：(%)

	有効回答数(件)	経済的なこと	病気や障がいのこと	子育てや介護の負担のこと	子どもの教育や将来のこと	生きがいに関すること	隣近所や職場での人間関係のこと	災害時の備えに関すること	地域の治安のこと	特に悩みや不安はない	その他	無回答
19歳以下	62	35.5	6.5	1.6	3.2	6.5	9.7	24.2	4.8	32.3	9.7	4.8
20歳代	145	64.8	10.3	22.1	23.4	14.5	8.3	26.9	11.7	13.8	2.8	0.7
30歳代	275	63.6	16.0	42.9	58.9	8.7	12.7	29.1	16.0	6.2	1.8	1.5
40歳代	422	54.5	19.4	33.6	50.0	11.8	12.8	25.6	14.5	6.6	3.1	1.7
50歳代	356	55.3	25.3	26.4	25.0	15.4	12.1	28.7	14.3	9.6	4.5	1.1
60～64歳	139	51.1	29.5	29.5	11.5	23.0	8.6	26.6	18.0	8.6	6.5	3.6
65～69歳	120	54.2	39.2	15.8	8.3	13.3	5.0	32.5	11.7	14.2	1.7	2.5
70～74歳	151	41.1	37.1	15.2	5.3	11.3	4.6	27.8	15.2	16.6	3.3	4.0
75～79歳	130	33.8	43.8	6.2	3.1	13.1	6.9	20.0	8.5	23.8	2.3	6.9
80歳以上	142	28.2	59.9	7.0	2.8	13.4	4.9	23.9	9.2	21.1	2.8	6.3

## 地区別

地区別でみると、すべての地区で「経済的なこと」の割合が高くなっています。

また、市が洞小学校区で「子どもの教育や将来のこと」の割合が、他地域より高い傾向にあります。

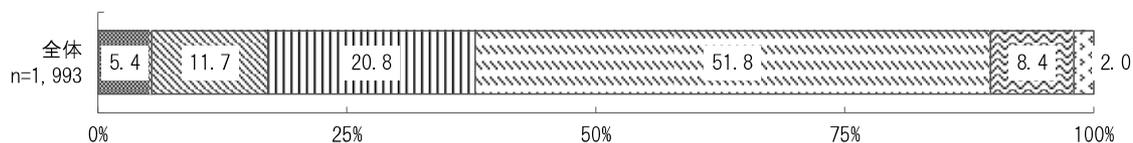
単位：(%)

	有効回答数(件)	経済的なこと	病気や障がいのこと	子育てや介護の負担のこと	子どもの教育や将来のこと	生きがいに関すること	隣近所や職場での人間関係のこと	災害時の備えに関すること	地域の治安のこと	特に悩みや不安はない	その他	無回答
長久手小学校区	281	54.1	29.2	26.3	28.1	12.1	10.7	24.2	12.8	14.2	2.1	2.5
西小学校区	320	52.5	27.5	24.7	24.1	11.9	7.5	25.0	14.7	11.3	4.7	3.1
東小学校区	304	52.9	26.0	29.4	29.4	12.3	11.3	28.4	16.7	8.8	3.9	3.9
北小学校区	404	48.5	24.8	26.7	32.7	12.9	9.2	27.7	10.4	12.1	3.2	2.0
南小学校区	311	48.2	29.6	20.9	24.4	12.5	9.0	25.4	15.4	15.1	3.2	2.6
市が洞小学校区	286	52.8	25.5	27.6	35.3	17.5	11.5	29.7	11.9	8.7	3.5	2.1

問2 あなたは、「つながりづくり」をするために、日ごろ近所の人たちとどのような付き合いをしていますか。

「会えばあいさつをかわす程度」(51.8%)が最も高く、次いで「相談ごとはしないが、世間話をする程度」(20.8%)、「内容によっては相談し、助け合っている」(11.7%)となっています。

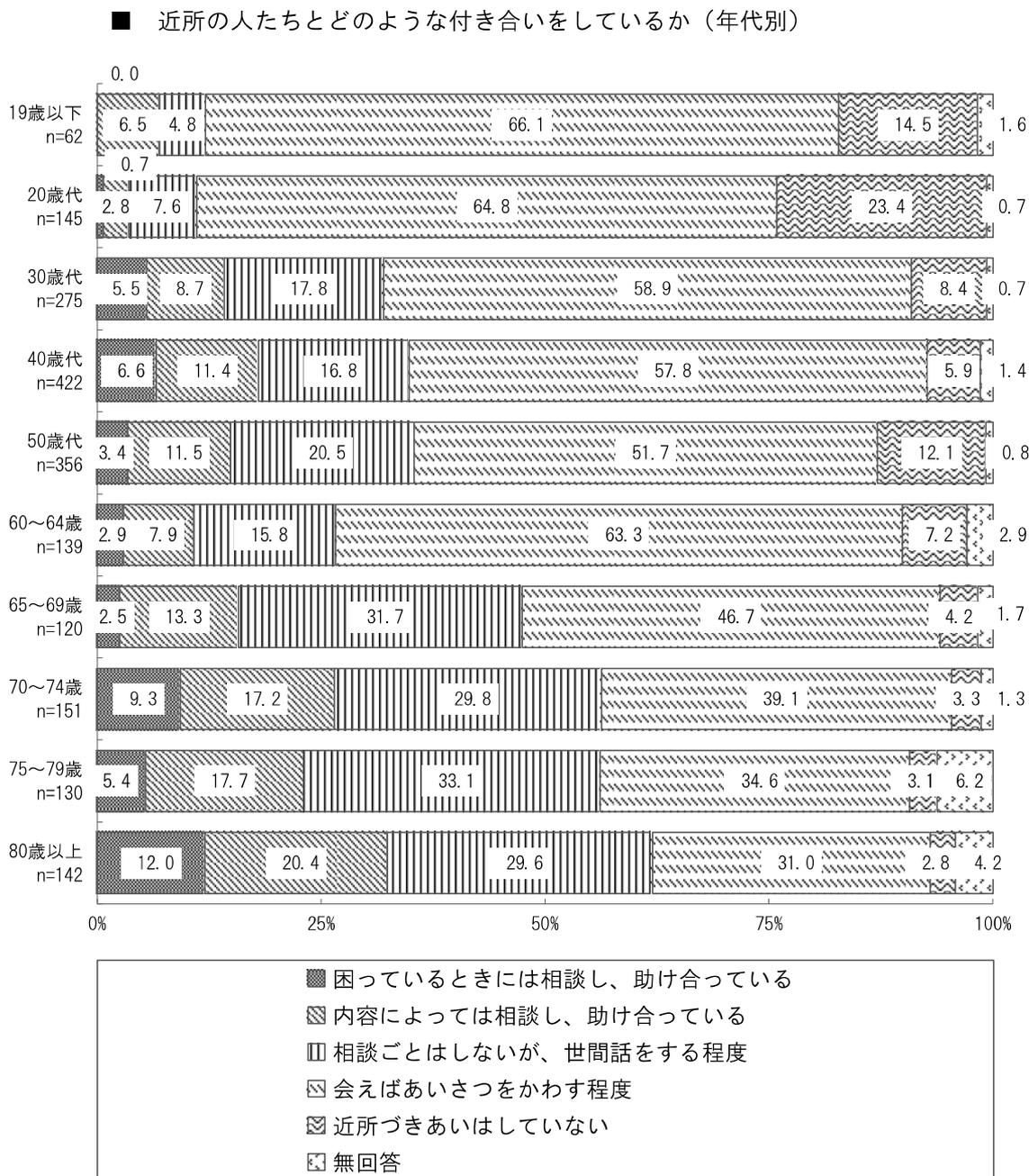
■ 近所の人たちとどのような付き合いをしているか



- 困っているときには相談し、助け合っている
- ▨ 内容によっては相談し、助け合っている
- ▧ 相談ごとはしないが、世間話をする程度
- ▩ 会えばあいさつをかわす程度
- 近所づきあいをしていない
- 無回答

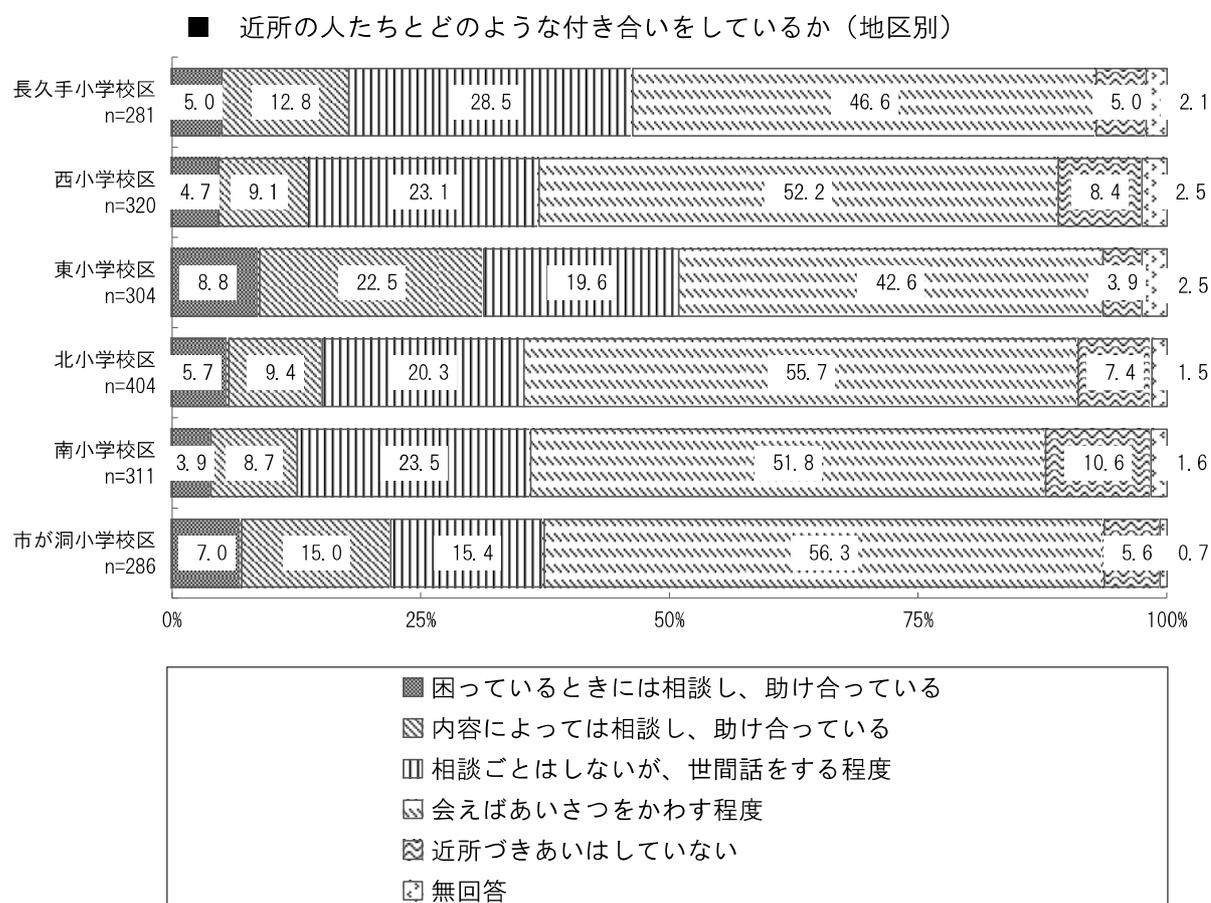
## 年代別

年代別でみると、年代が高くなると「相談ごとはないが、世間話をする程度」の割合が高く、年代が低くなると「会えばあいさつをかわす程度」の割合が高くなる傾向がみられます。



## 地区別

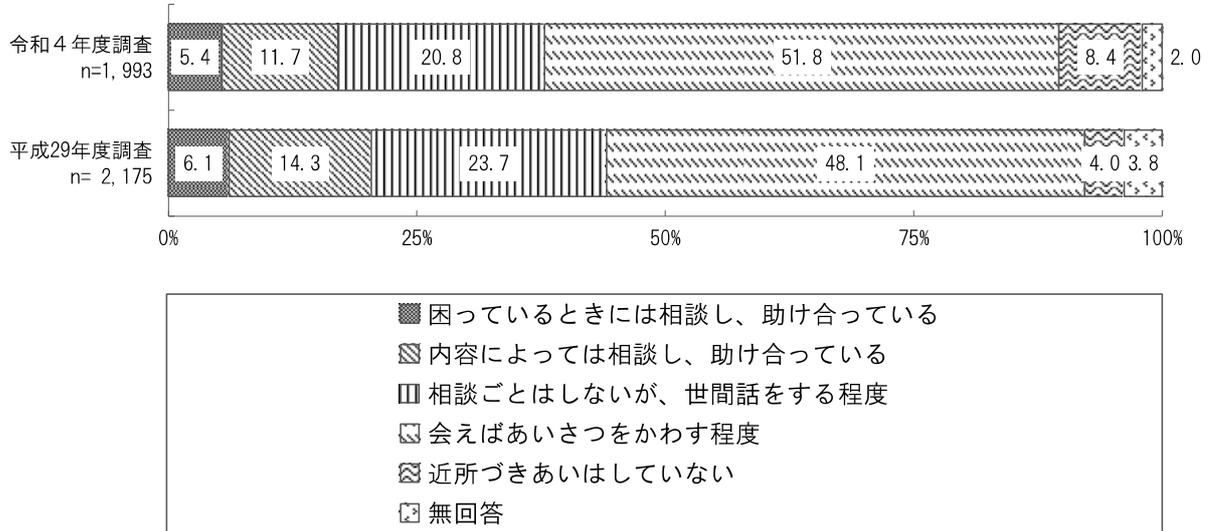
地区別でみると、他の地区に比べ、東小学校区で「内容によっては相談し、助け合っている」の割合が高くなっています。



## 前回調査比較

平成29年度調査と比較すると、「会えば挨拶をかわす程度」、「近所づきあいはしていない」についての割合が増加しています。

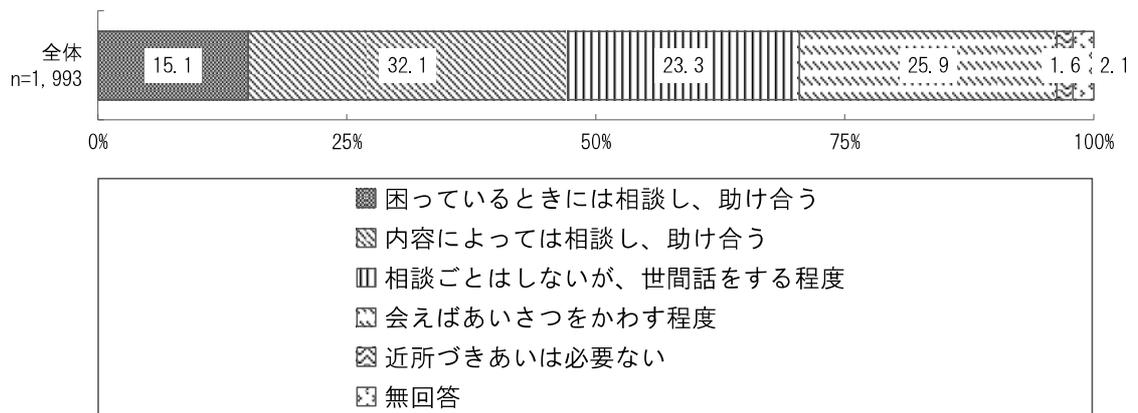
### ■ 近所の人たちとどのような付き合いをしているか



資料：平成30年度 長久手市地域福祉に関する市民意識調査 調査結果報告書

問3 あなたは今後、「つながり」をつくるために、近所の人たちとどのような付き合い方を望みますか。  
 「内容によっては相談し、助け合う」(32.1%)が最も高く、次いで「会えばあいさつをかわす程度」(25.9%)、「相談ごとはしないが、世間話をする程度」(23.3%)となっています。

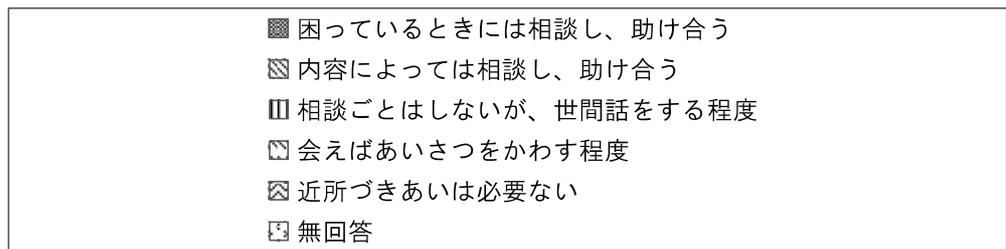
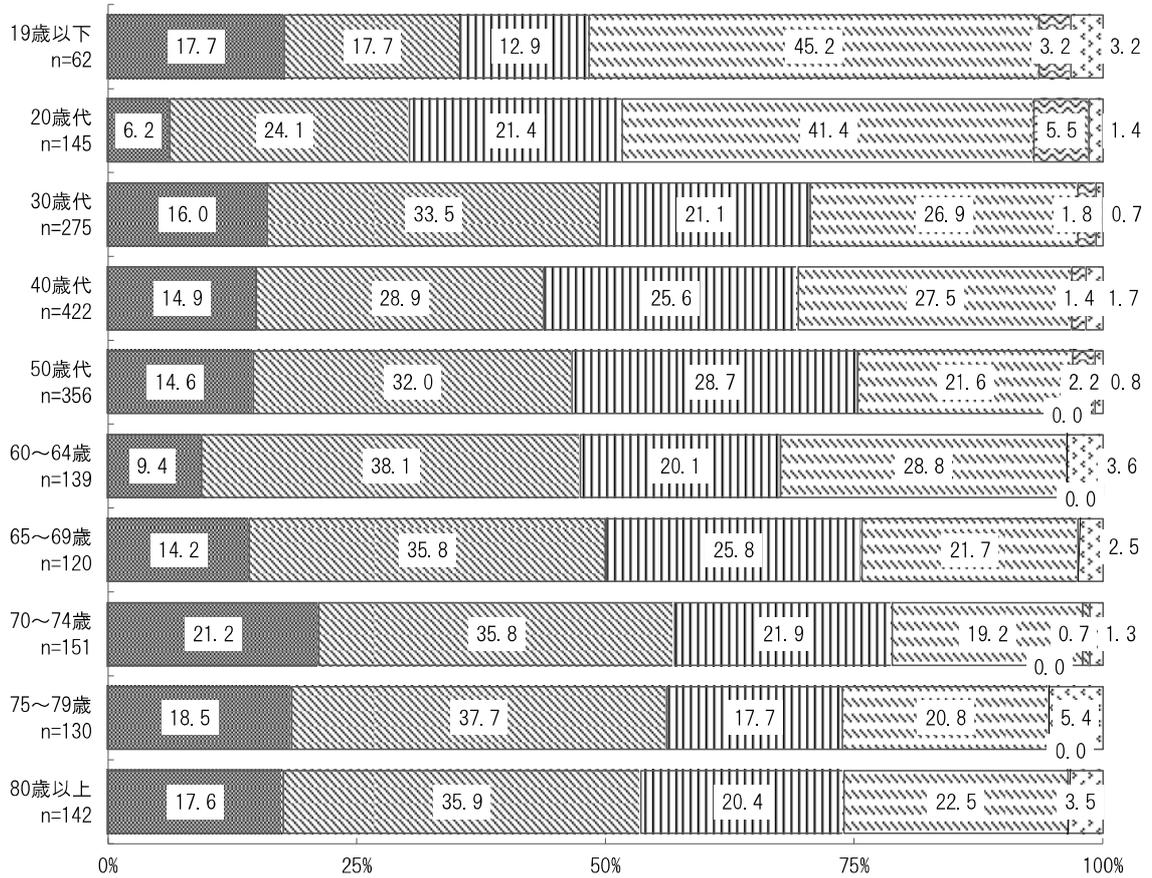
### ■ 近所の人たちとどのような付き合い方を望むか



## 年代別

年代別でみると、70歳～74歳で「困っているときには相談し、助け合う」(21.2%)、19歳以下20歳代で「会えばあいさつをかわす程度」(45.2%・41.4%)の割合が高くなっています。

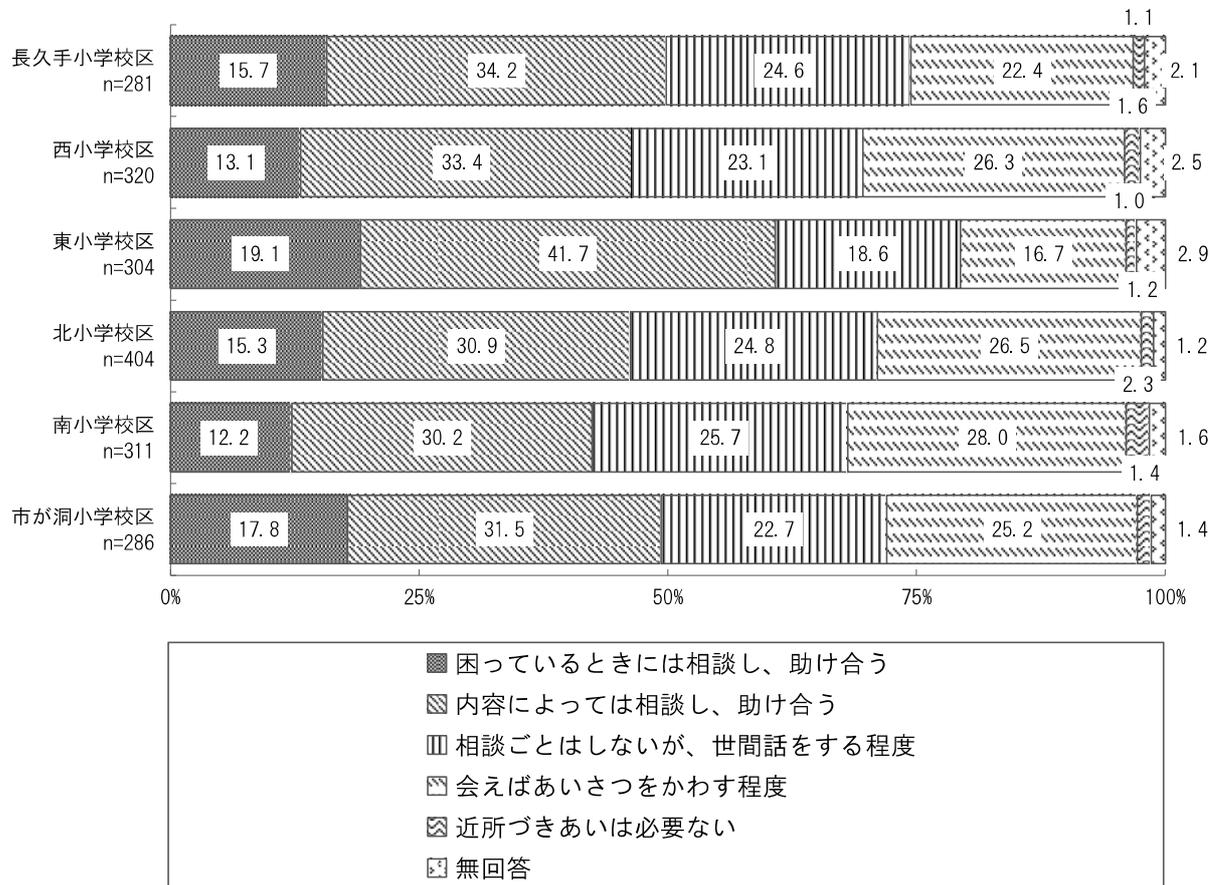
■ 近所の人たちとどのような付き合い方を望むか（年代別）



## 地区別

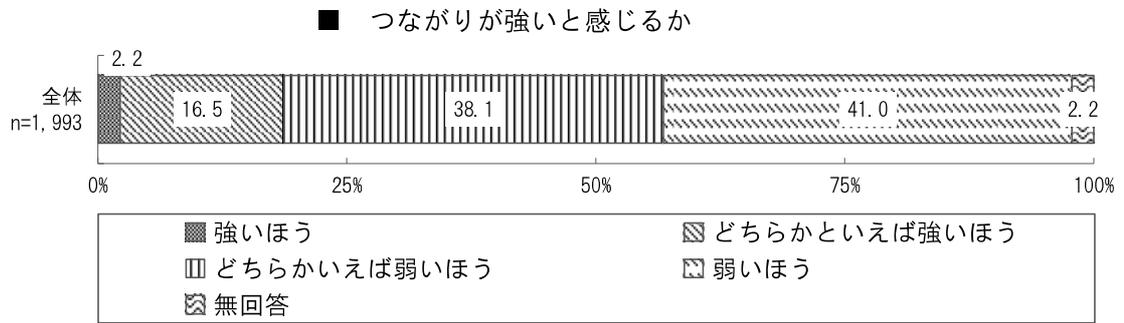
地区別で見ると、東小学校区で「困っているときには相談し、助け合う」、「内容によっては相談し、助け合う」の割合が高くなっています。

■ 近所の人たちとどのような付き合い方を望むか（地区別）



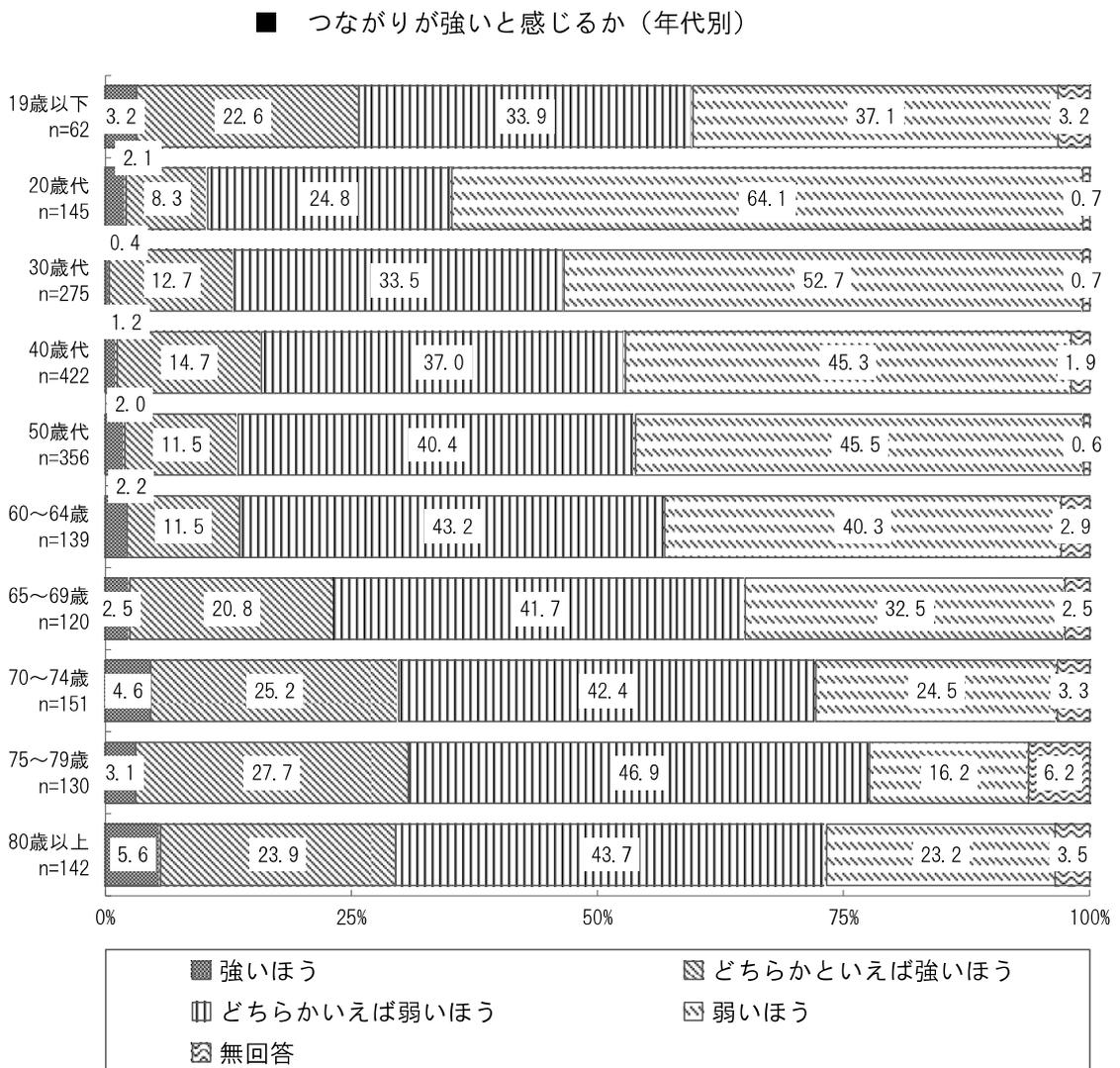
問4 あなたは、自分と地域の人たちとのつながりが強いと感じますか。

「弱いほう」(41.0%) が最も高く、次いで「どちらかといえば弱いほう」(38.1%)、「どちらかといえば強いほう」(16.5%) となっています。



年代別

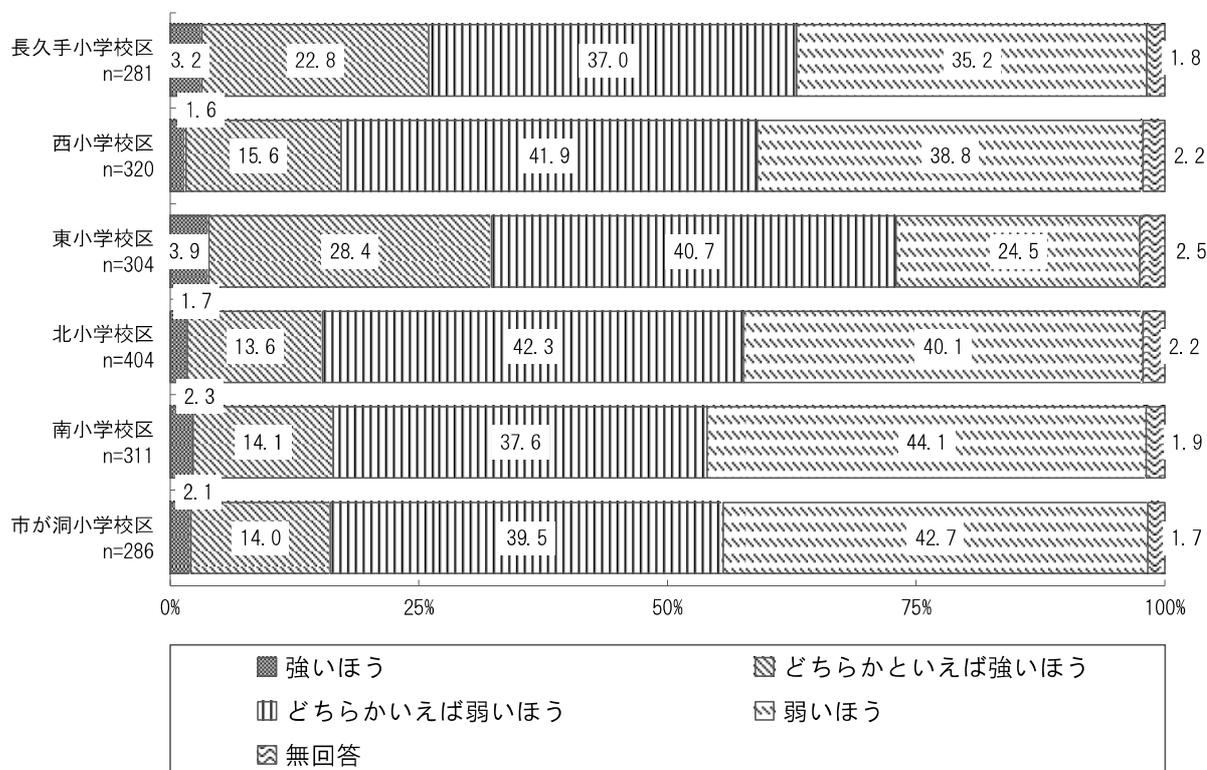
年代別で見ると、他の年代に比べ、80歳以上で「強いほう」(5.6%)、20歳代で「弱いほう」(64.1%) の割合が高くなっています。



## 地区別

地区別でみると、長久手小学校区、東小学校区で「強い」、「どちらかといえば強いほう」の割合が高くなっています。

■ つながりが強いと感じるか（地区別）

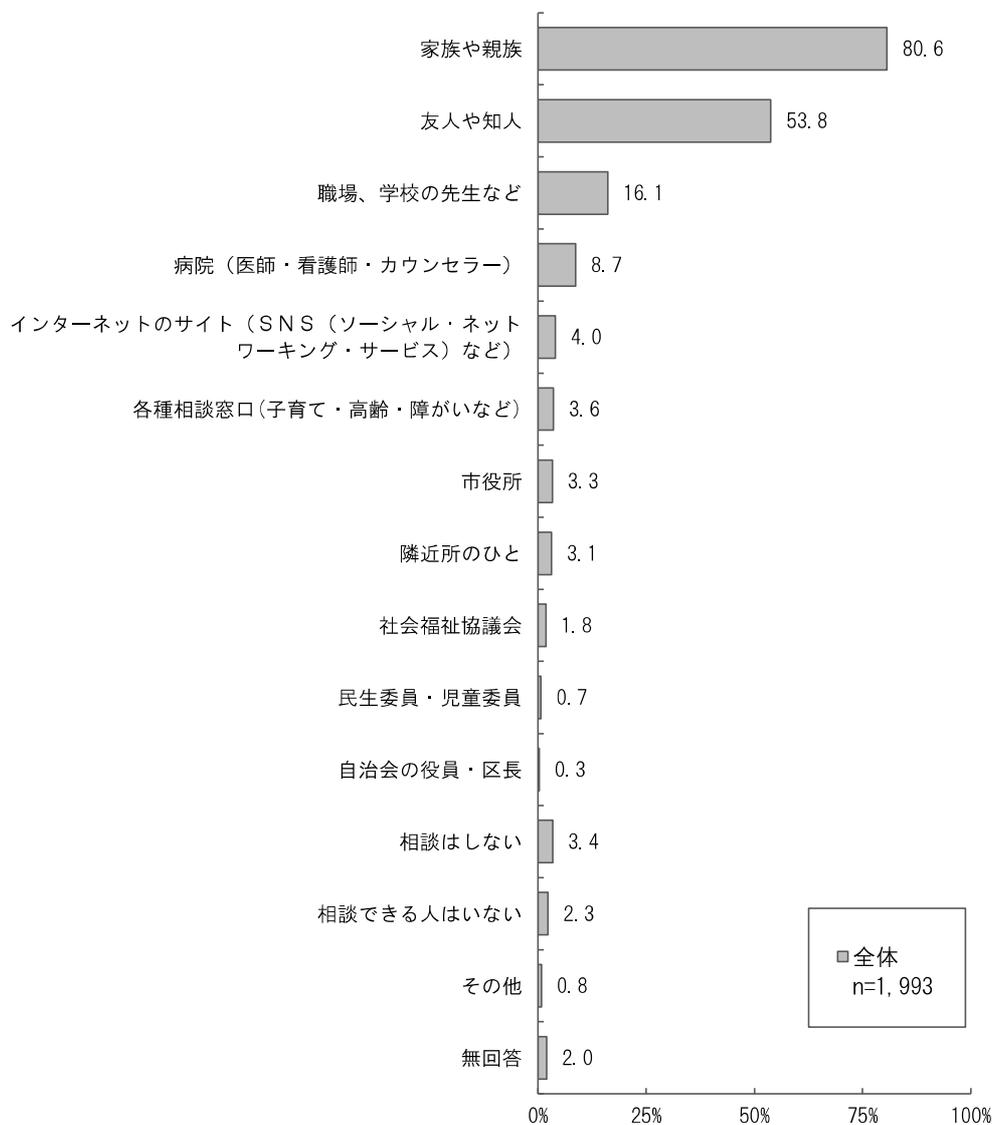


問5 あなたは、悩みごとを主に誰（どこ）に相談していますか。【○はあてはまるものすべて】

「家族や親族」（80.6%）と最も高く、次いで「友人や知人」（53.8%）、「職場、学校の先生など」（16.1%）となっています。

一方で、「相談はしない」（3.4%）、「相談できる人はいない」（2.3%）となっています。

■ 悩みごとを主に誰（どこ）に相談しているか（複数回答）



## 年代別

年代別でみると、すべての年代で「家族や親族」の割合が最も高く、次いで「友人や知人」となっています。

一方で80歳以上で「相談できる人はいない」、65～69歳で「相談はしない」の割合が他の年代よりも高くなっています。

単位：(%)

	有効回答数 (件)	家族や親族	友人や知人	職場、 学校の先生 など	隣近所のひと	民生委員・児童委員	自治会の役員・区長	市役所	社会福祉協議会
19歳以下	62	79.0	79.0	19.4	-	-	-	-	-
20歳代	145	83.4	71.7	23.4	-	-	0.7	1.4	0.7
30歳代	275	87.6	61.8	26.2	2.9	-	-	1.1	1.5
40歳代	422	82.2	60.4	27.7	2.6	-	0.2	1.4	1.2
50歳代	356	78.1	53.9	16.3	2.5	-	0.3	2.0	1.1
60～64歳	139	78.4	41.7	10.8	1.4	-	-	4.3	2.2
65～69歳	120	79.2	45.0	5.0	5.0	-	0.8	5.0	2.5
70～74歳	151	78.8	51.7	0.7	6.0	-	-	6.0	1.3
75～79歳	130	77.7	38.5	1.5	6.9	2.3	-	9.2	3.8
80歳以上	142	77.5	30.3	-	3.5	6.3	-	9.2	4.9

単位：(%)

	有効回答数 (件)	各種相談窓口	病院(医師・看護師・ カウンセラー)	インターネットの サイト	相談できる人はいない	相談はしない	その他	無回答
19歳以下	62	-	4.8	8.1	1.6	3.2	-	1.6
20歳代	145	-	3.4	4.8	0.7	0.7	-	0.7
30歳代	275	2.9	5.5	7.3	2.2	1.5	1.5	0.7
40歳代	422	4.5	5.5	4.5	2.4	3.8	0.7	1.9
50歳代	356	2.5	7.9	3.9	3.1	3.7	0.6	1.1
60～64歳	139	3.6	10.1	3.6	0.7	5.8	0.7	2.9
65～69歳	120	2.5	9.2	-	1.7	6.7	-	1.7
70～74歳	151	6.6	13.2	2.6	3.3	3.3	-	1.3
75～79歳	130	4.6	15.4	0.8	1.5	3.8	2.3	4.6
80歳以上	142	7.7	21.1	2.1	4.2	2.8	1.4	3.5

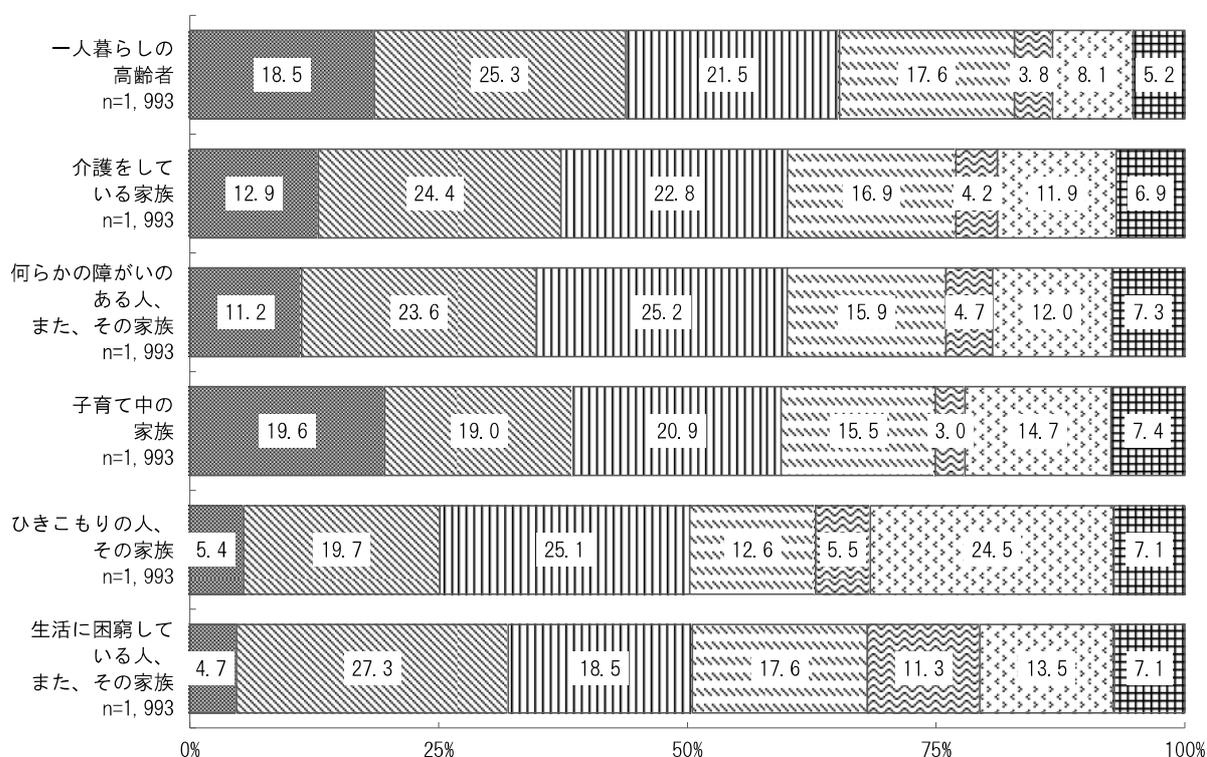
問6 あなたが、何らかの支援を必要としている次の(1)から(6)の方が近所で困っていることに「気付いた」とき、どのように考えますか。あなたの考えにもっとも近いものを教えてください。

一人暮らしの高齢者、介護をしている家族、生活に困窮している人、また、その家族に対しては「直接的な支援はできないが、市役所等の関係機関に知らせる」(25.3%・24.4%・27.3%)が最も高くなっています。

また、何らかの障害のある人、またその家族、子育て中の家族に対しては、「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」(25.2%・20.9%)が最も高くなっています。

ひきこもりの人、その家族に対しては「余計なお世話になってしまうので支援はしない」(24.5%)が最も高くなっています。

■ 近所で困っていることに「気付いた」とき、どのように考えるか



- 近所に住む者として、できる範囲で支援したい
- ▨ 直接的な支援はできないが、市役所等の関係機関に知らせる
- ▧ 支援をしたいが、何をすればいいのかわからない
- ▩ 支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない
- 支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい
- 余計なお世話になってしまうので支援はしない
- ▬ 無回答

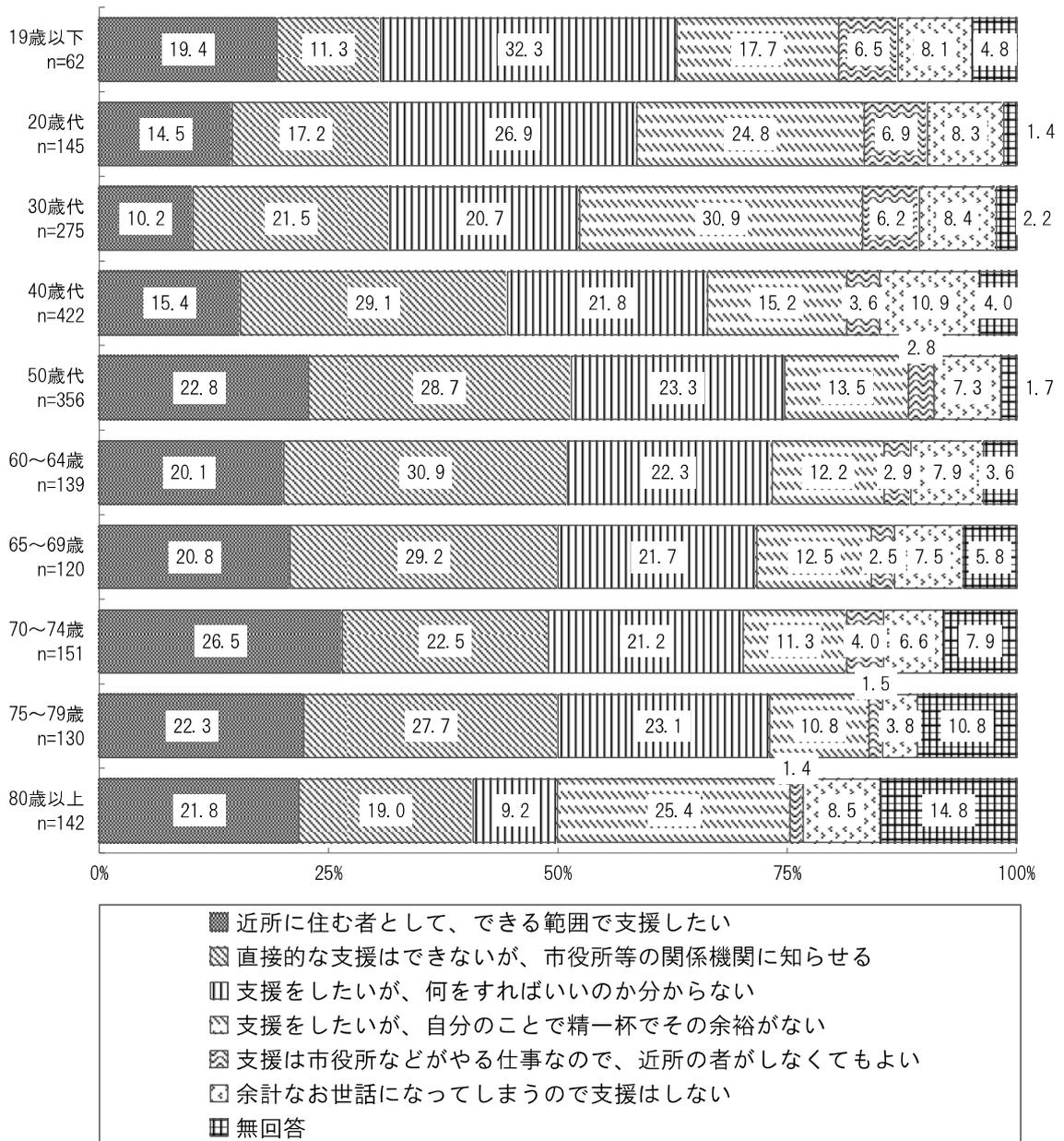
# (1)一人暮らしの高齢者

## 年代別

年代別でみると、70～74歳で「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」、19歳以下で「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」、20歳代、30歳代、80歳以上で「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」の割合が高くなっています。

また、若い年代で、「支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい」、40歳代で「余計なお世話になってしまうので支援はしない」の割合が高くなっています。

■ 近所で困っている一人暮らしの高齢者（年代別）

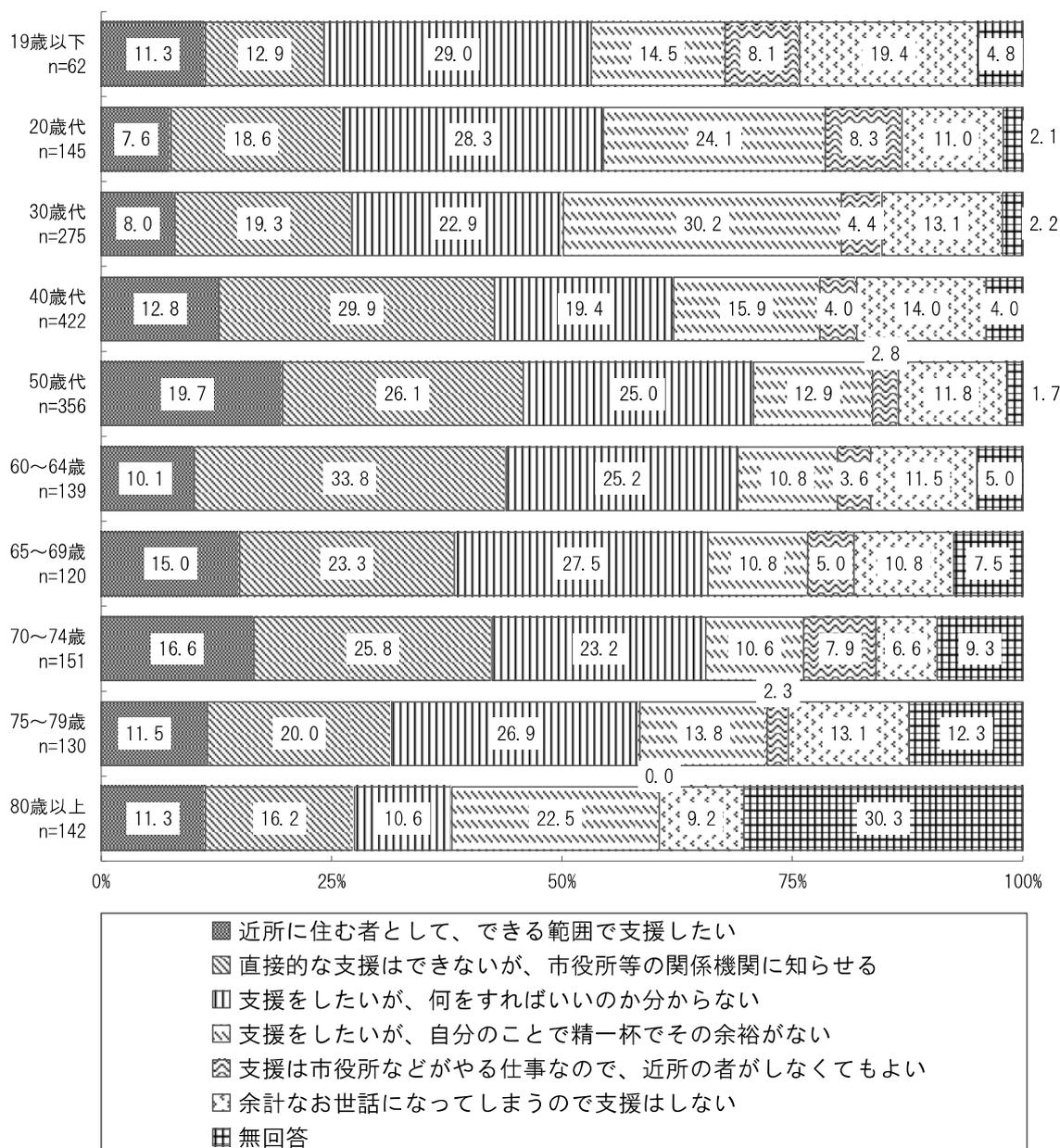


(2)介護をしている家族  
年代別

年代別でみると、50歳代で「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」、60歳～64歳で「直接的な支援はできないが、市役所等の関係機関に知らせる」30歳代で「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」の割合が高くなっています。

また、19歳以下、20歳代、70～74歳で「支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい」、19歳以下で「余計なお世話になってしまうので支援はしない」の割合が高くなっています。

■ 近所で困っている介護をしている家族（年代別）

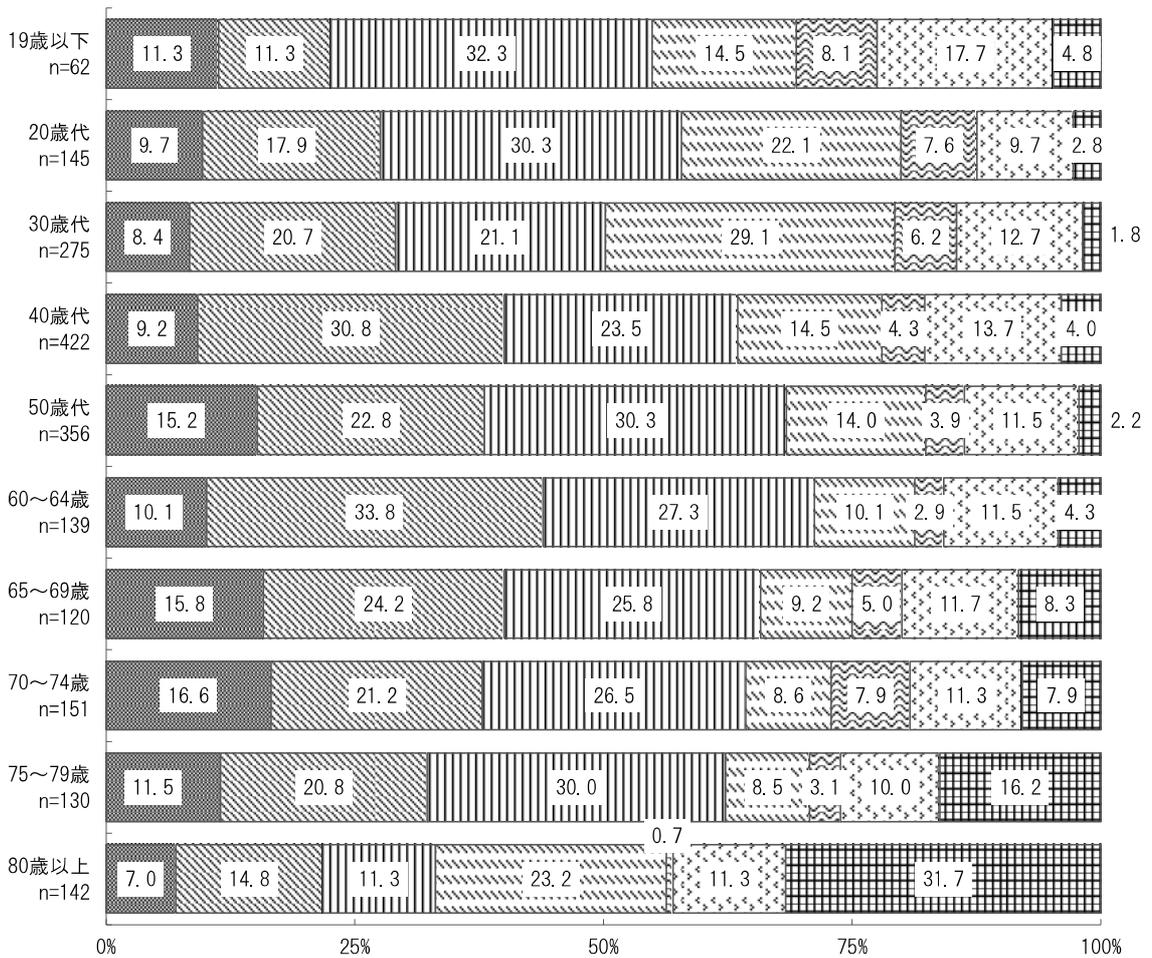


(3)何らかの障がいのある人、また、その家族  
年代別

年代別でみると、40歳代、50歳代で「直接的な支援はできないが、市役所等の関係機関に知らせる」、20歳代、30歳代、80歳以上で「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」の割合が高くなっています。

また、19歳以下、20歳代、30歳代、70～74歳で「支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい」、19歳以下で「余計なお世話になってしまうので支援はしない」の割合が高くなっています。

■ 近所で困っている何らかの障がいのある人、また、その家族（年代別）

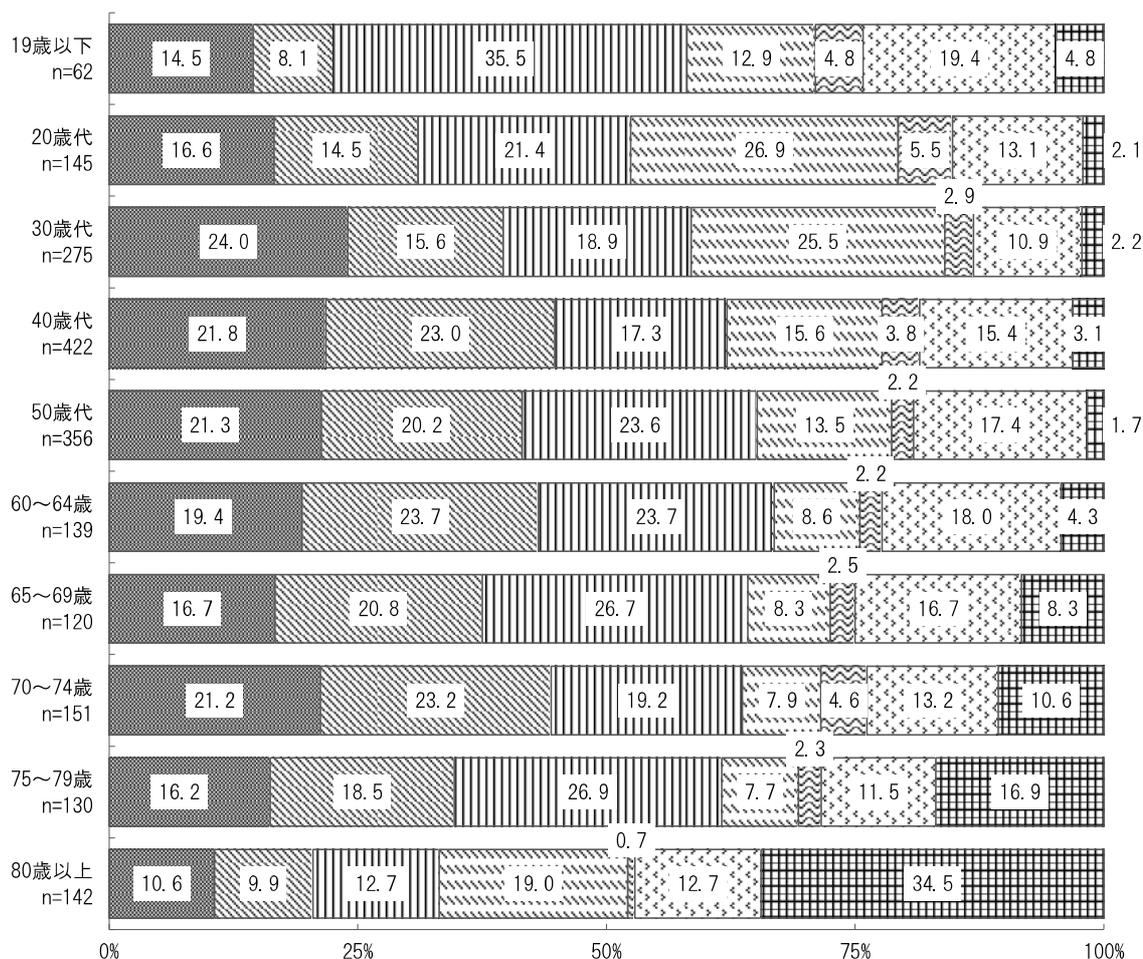


- 近所に住む者として、できる範囲で支援したい
- ▨ 直接的な支援はできないが、市役所等の関係機関に知らせる
- ▧ 支援をしたいが、何をすればいいのかわからない
- ▩ 支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない
- ▦ 支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい
- ▤ 余計なお世話になってしまうので支援はしない
- ▥ 無回答

(4)子育て中の家族  
年代別

年代別でみると、30歳代で「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」、19歳以下で「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」、20歳代、30歳代で「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」の割合が高くなっています。

■ 近所で困っている子育て中の家族（年代別）



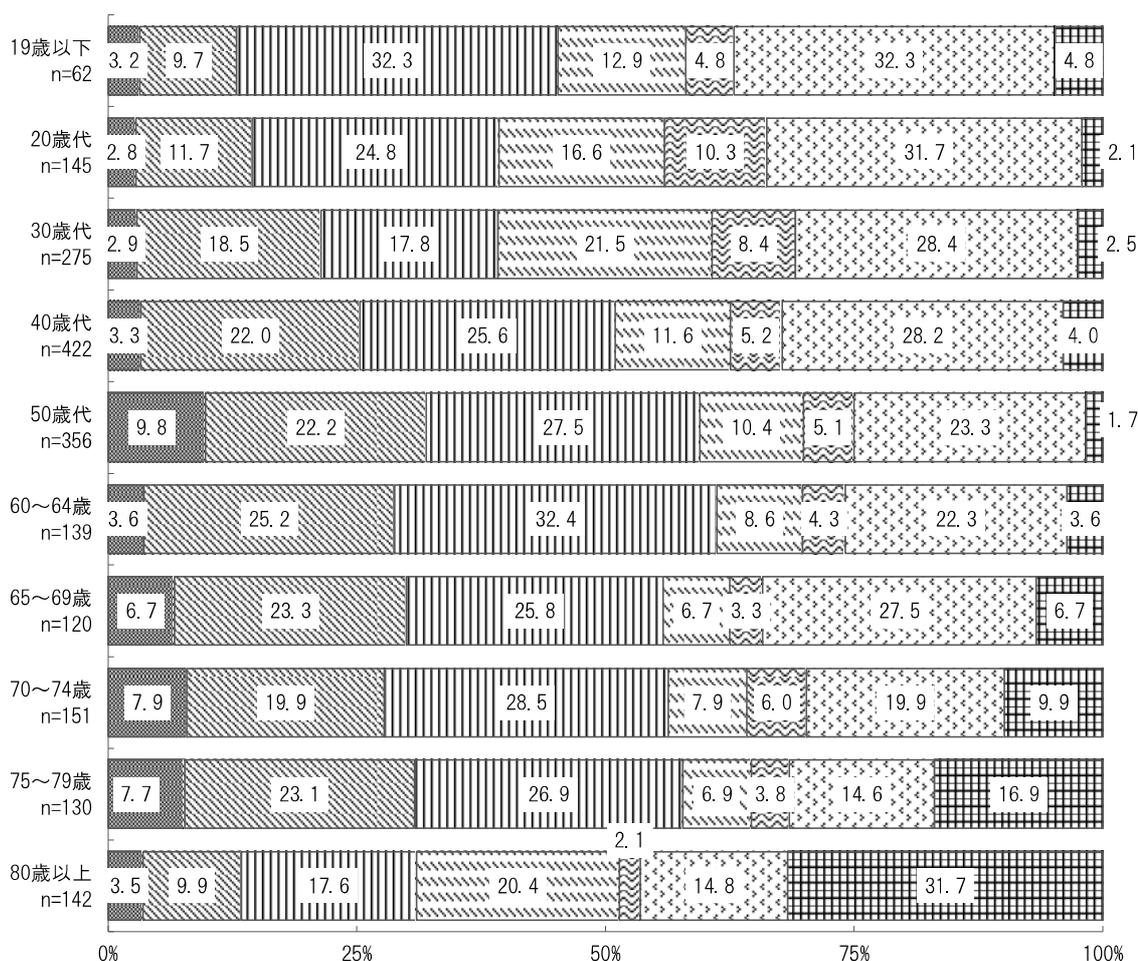
- 近所に住む者として、できる範囲で支援したい
- ▨ 直接的な支援はできないが、市役所等の関係機関に知らせる
- ▧ 支援をしたいが、何をすればいいのかわからない
- ▩ 支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない
- ▦ 支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい
- ▤ 余計なお世話になってしまうので支援はしない
- ▣ 無回答

(5)ひきこもりの人、その家族  
年代別

年代別でみると、30歳代から70歳代にかけて「直接的な支援はできないが、市役所等の関係機関に知らせる」、30歳代、80歳以上で「直接的な支援はできないが、市役所等の関係機関に知らせる」の割合が高くなっています。

また、19歳以下から60歳代にかけて「余計なお世話になってしまうので支援はしない」の割合が高くなっています。

■ 近所で困っているひきこもりの人、その家族（年代別）



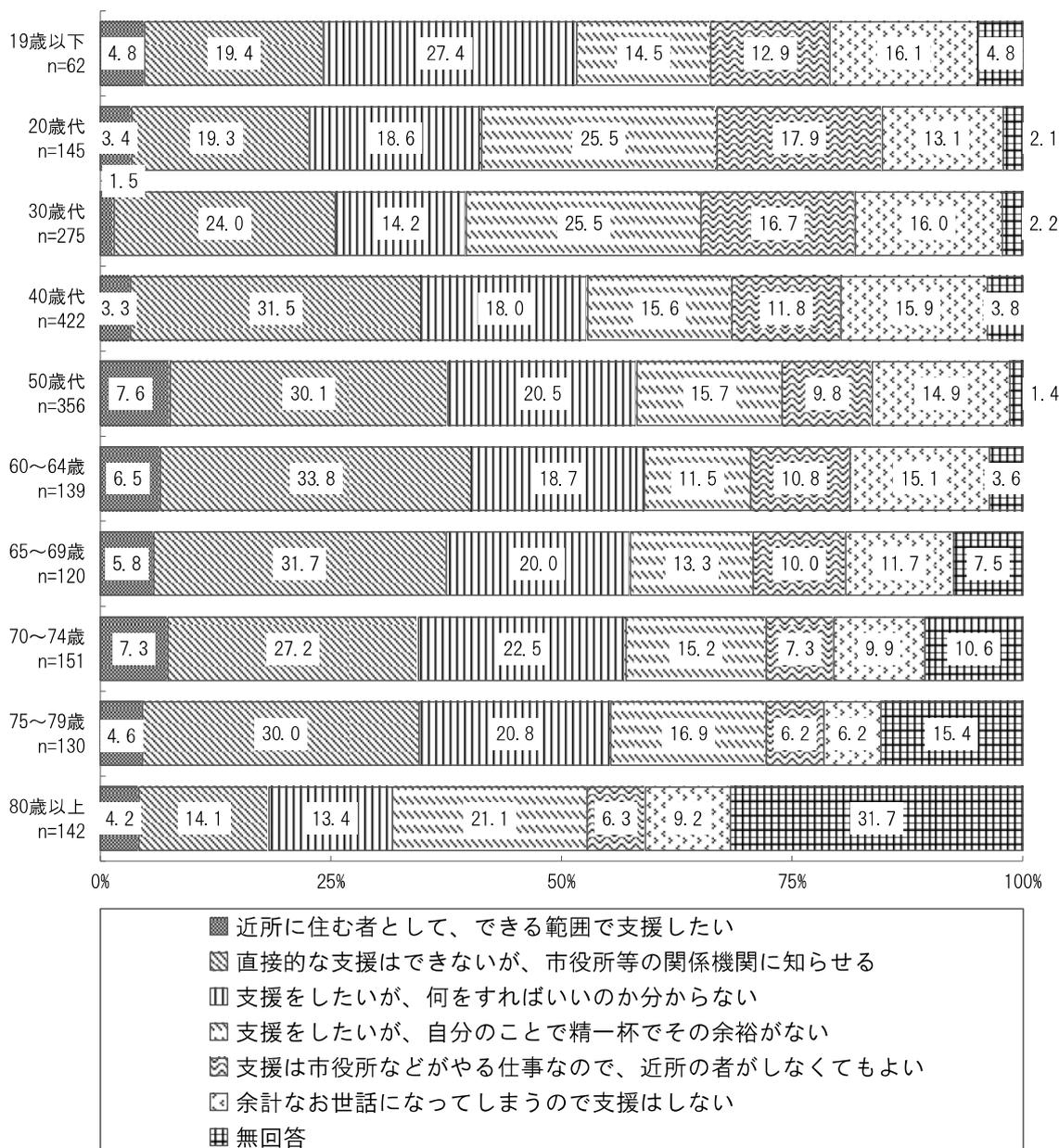
- 近所に住む者として、できる範囲で支援したい
- ▨ 直接的な支援はできないが、市役所等の関係機関に知らせる
- ▧ 支援をしたいが、何をすればいいのかわからない
- ▩ 支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない
- 支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい
- 余計なお世話になってしまうので支援はしない
- ▬ 無回答

(6)生活に困窮している人、また、その家族  
年代別

年代別でみると、40歳代から70歳代にかけて「直接的な支援はできないが、市役所等の関係機関に知らせる」、19歳以下で「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」、20歳代、30歳代で「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」の割合が高くなっています。

また、若い年代で「支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい」「の割合が高くなっています。

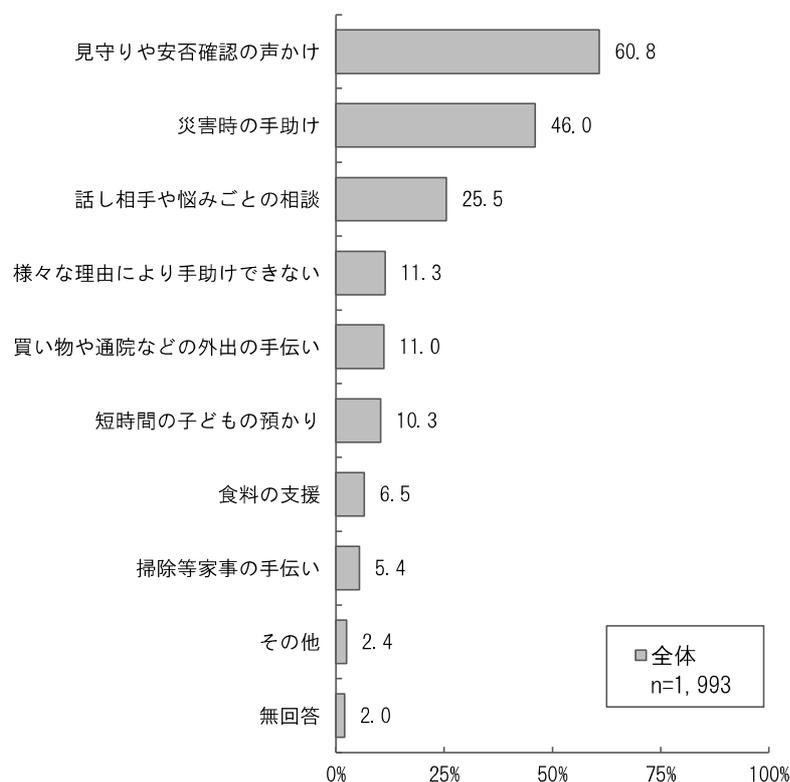
■ 近所で困っている生活に困窮している人、また、その家族（年代別）



問7 あなたは、隣近所に住む何らかの支援を必要としている家庭に対して、どのような手助けができると思いますか。【〇はあてはまるものすべて】

「見守りや安否確認の声かけ」(60.8%) が最も高く、次いで「災害時の手助け」(46.0%)、「話し相手や悩みごとの相談」(25.5%) となっています。

■ どのような手助けができるか (複数回答)

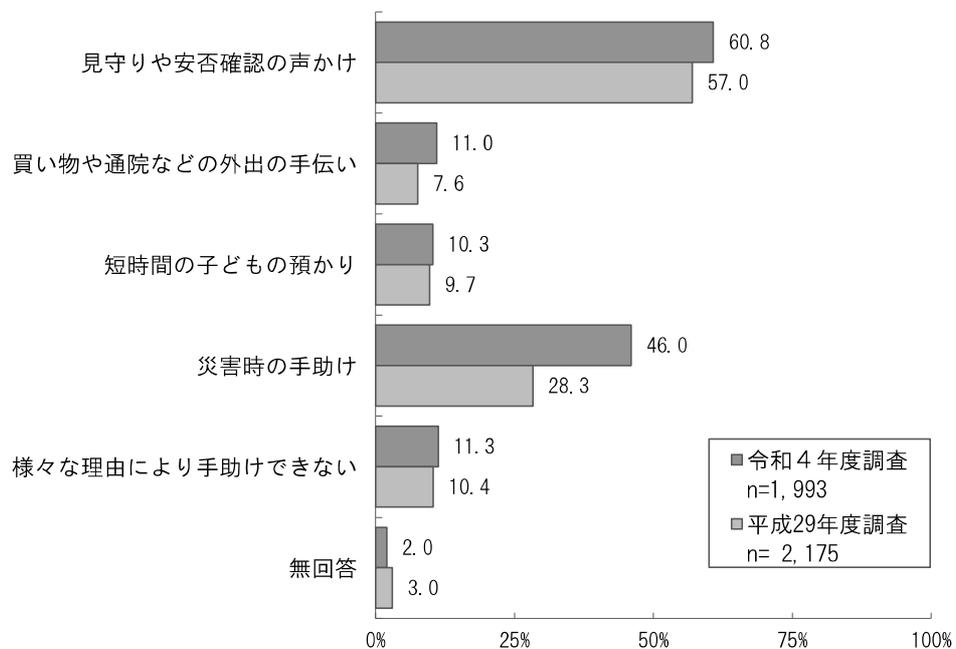


## 前回調査比較

平成29年度調査と比較すると、すべての設問で前回調査よりも割合が増加しています。  
特に「災害時の手助け」は17.7ポイント増加しています。

※前回調査と経年比較できる設問のみ掲載。

### ■ どのような手助けができるか

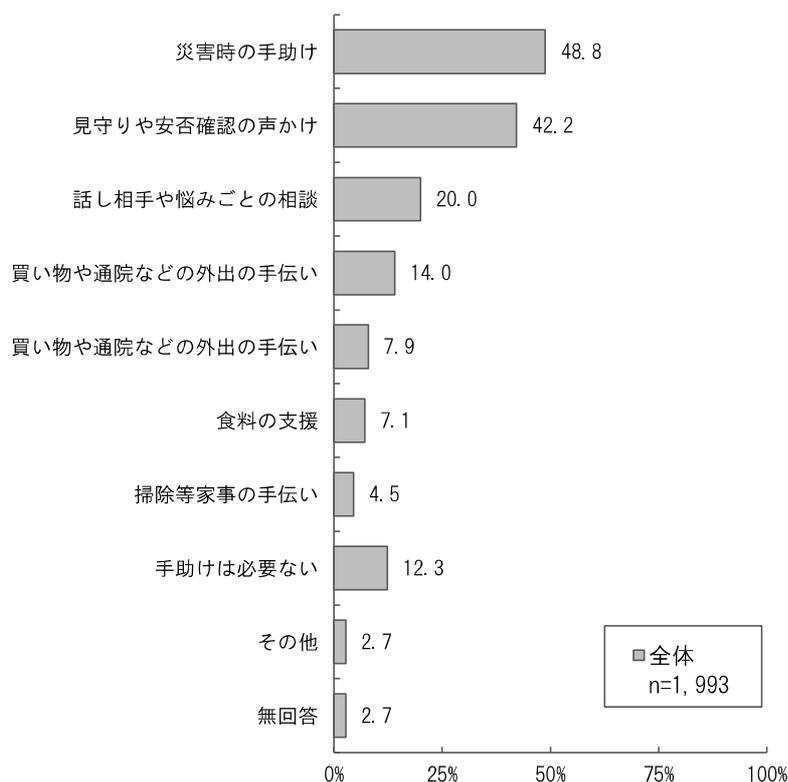


資料：平成30年度 長久手市地域福祉に関する市民意識調査 調査結果報告書

問8 あなたが、生活上の問題で手助けが必要なとき、近所の人にどのような手助けをしてほしいですか。【〇はあてはまるものすべて】

「災害時の手助け」(48.8%)が最も高く、次いで「見守りや安否確認の声かけ」(42.2%)「話し相手や悩みごとの相談」(20.0%)となっています。  
一方で、「手助けは必要ない」(12.3%)となっています。

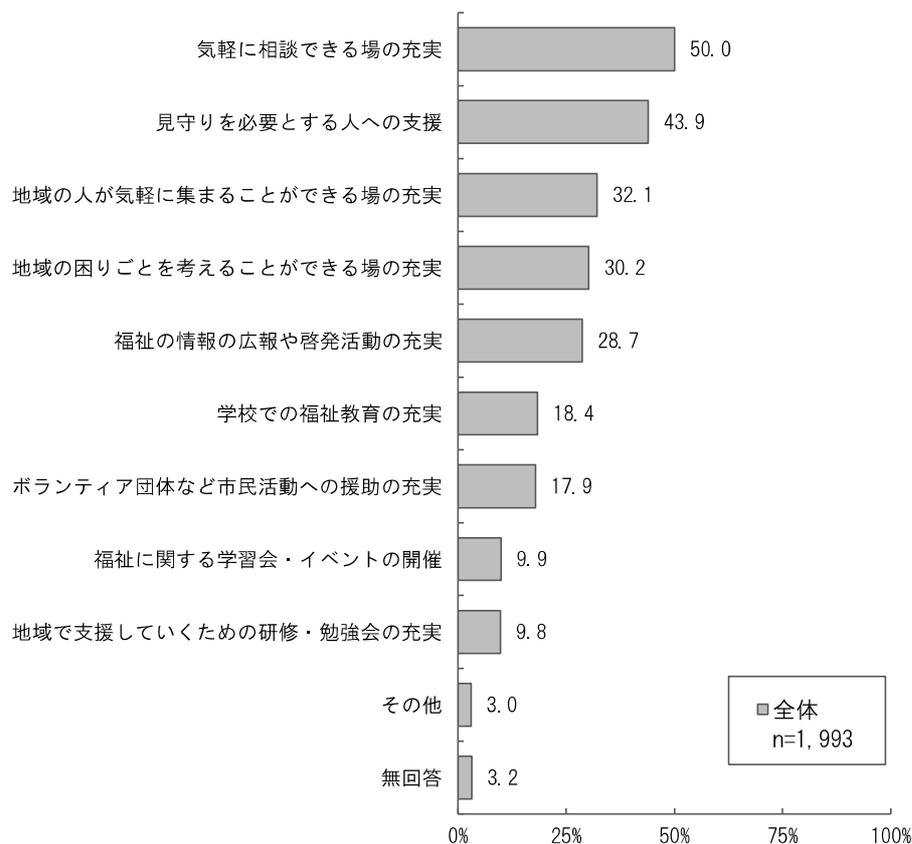
■ どのような手助けをしてほしいか（複数回答）



問9 あなたは、地域で安心して暮らしていくために、どのような地域のあり方が大切だと思いますか。【〇はあてはまるものすべて】

「気軽に相談できる場の充実」(50.0%)が最も高く、次いで「見守りを必要とする人への支援」(43.9%)、「地域の人気軽に集まることが出来る場の充実」(32.1%)となっています。

■ どのような地域のあり方が大切だと思うか（複数回答）



## 年代別

年代別でみると、19歳以下、60～64歳で「見守りを必要とする人への支援」、それ以外の年代で「気軽に相談できる場の充実」の割合が高くなっています。

また、若い年代で「学校での福祉教育の充実」の割合が高くなっています。

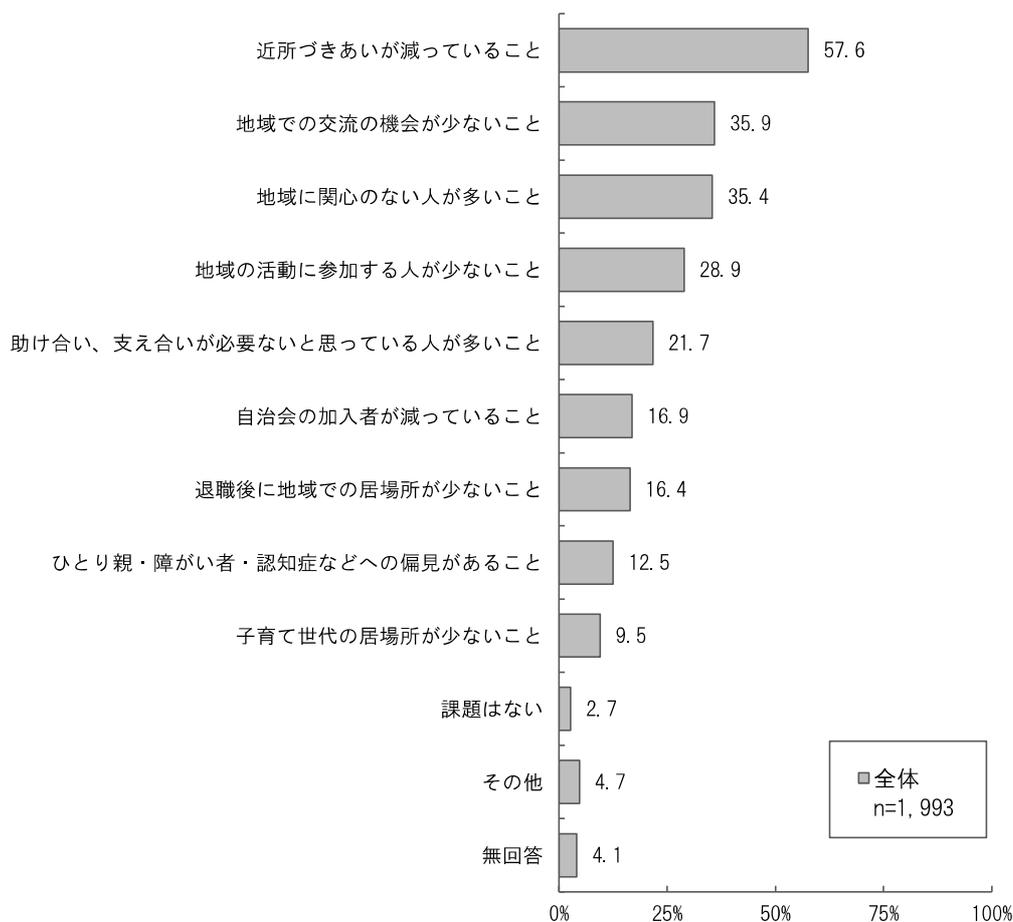
単位：(%)

	有効回答数(件)	地域の困りごとを考慮 ことができる場の充実	福祉の情報の広報や啓発 活動の充実	気軽に相談できる場の充実	ボランティア団体など 市民活動への援助の充実	地域で支援していくため の研修・勉強会の充実	地域の人々が気軽に集まる ことができる場の充実	学校での福祉教育の充実	福祉に関する学習会・ イベントの開催	見守りを必要とする人への 支援	その他	無回答
19歳以下	62	27.4	29.0	41.9	25.8	11.3	35.5	37.1	9.7	45.2	3.2	1.6
20歳代	145	35.2	27.6	44.1	17.2	10.3	30.3	26.9	9.7	33.1	4.1	3.4
30歳代	275	28.7	23.3	50.5	16.0	9.5	38.2	30.5	10.9	48.7	1.1	1.8
40歳代	422	27.0	28.4	50.9	16.4	8.3	29.1	21.8	11.1	44.3	5.2	1.2
50歳代	356	30.1	27.8	51.1	21.9	10.7	28.1	18.0	12.4	49.7	2.8	2.0
60～64歳	139	39.6	30.9	46.0	26.6	10.1	33.1	9.4	9.4	51.8	5.0	2.2
65～69歳	120	27.5	30.0	46.7	12.5	7.5	35.0	5.8	7.5	45.8	2.5	4.2
70～74歳	151	31.1	33.8	55.6	20.5	13.2	33.8	10.6	6.6	38.4	-	4.0
75～79歳	130	28.5	29.2	53.8	13.1	9.2	42.3	13.1	7.7	38.5	2.3	5.4
80歳以上	142	31.0	33.1	49.3	12.7	8.5	29.6	4.9	9.2	35.9	2.8	7.7

問 10 あなたは、地域の人々がお互いに力を合わせて、住みよい地域を実現していく上で課題となることはどのようなことだと思いますか。【〇はあてはまるものすべて】

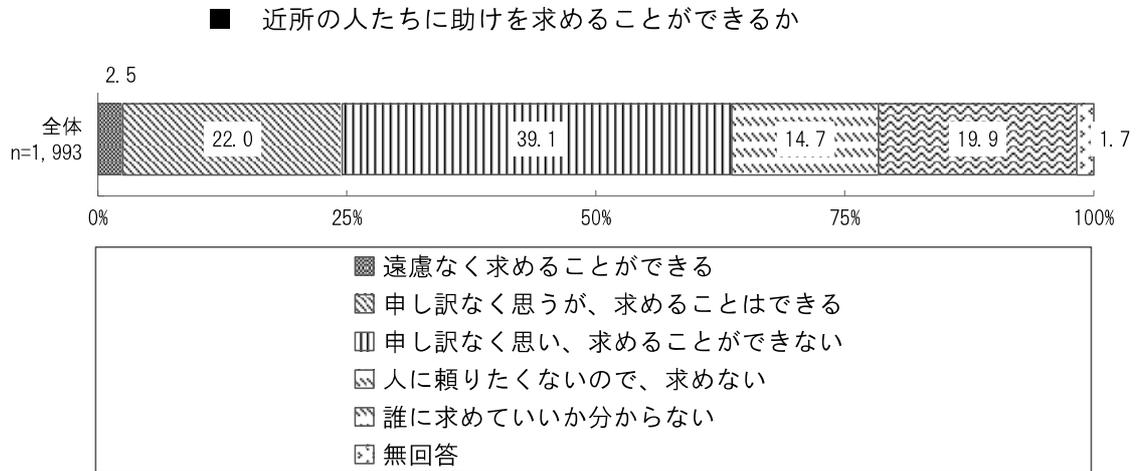
「近所づきあいが減っていること」(57.6%) が最も高く、次いで「地域での交流の機会が少ないこと」(35.9%) 「地域に関心のない人が多いこと」(35.4%) となっています。

■ 住みよい地域を実現していく上で課題となること（複数回答）



問 11 あなたは、生活上の問題で手助けが必要なとき、近所の人たちに助けを求めることができますか。

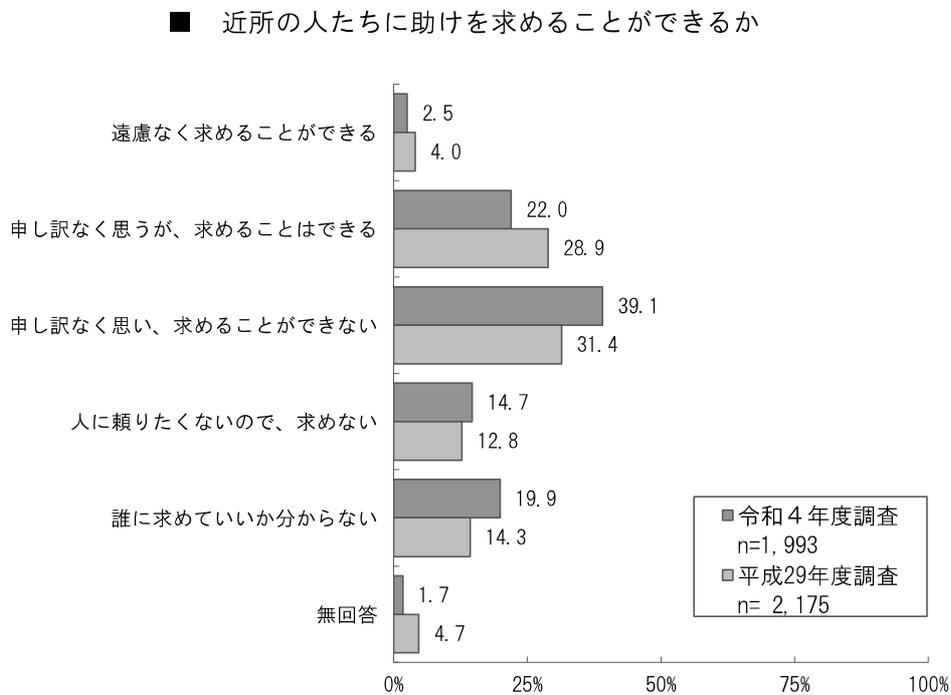
「申し訳なく思い、求めることができない」(39.1%)が最も高く、次いで「申し訳なく思うが、求めることはできる」(22.0%)、「誰に求めていいかわからない」(19.9%)となっています。



### 前回調査比較

平成29年度調査と比較すると、「申し訳なく思い、求めることができない」、「人に頼りたくないので、求めない」、「誰に求めていいかわからない」についての割合が増加しています。

※前回調査と経年比較できる設問のみ掲載。



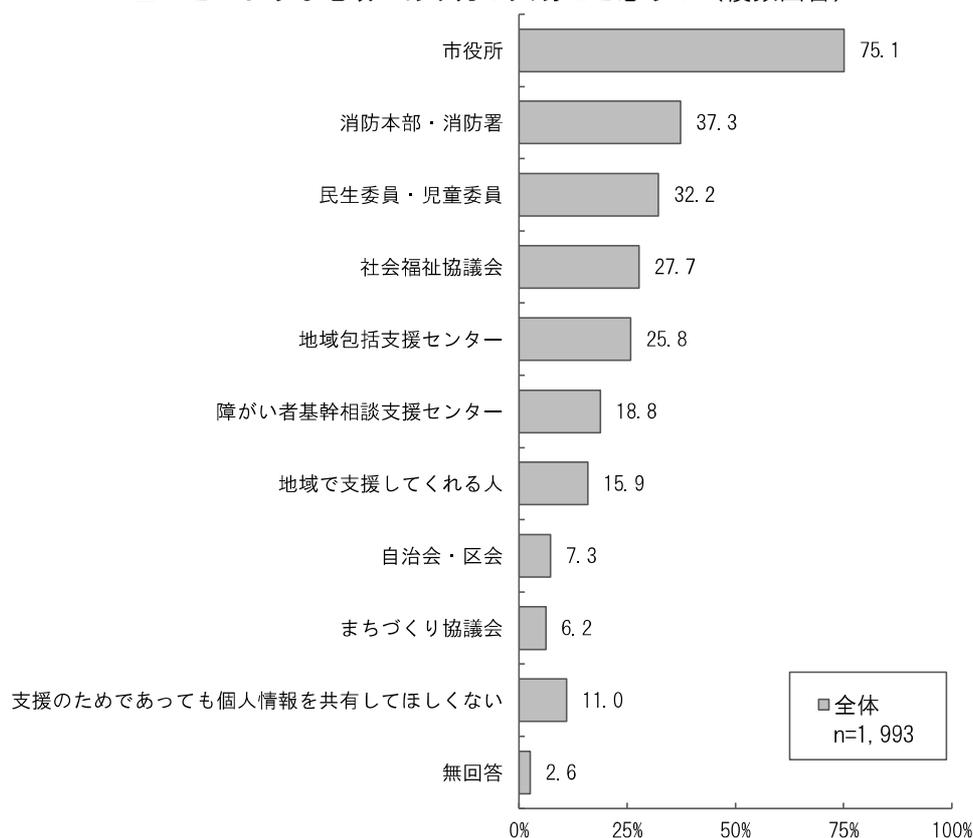
資料：平成30年度 長久手市地域福祉に関する市民意識調査 調査結果報告書

問 12 あなたは、自身の困りごとへの支援や福祉のサービス等の利用のために、守秘義務のある支援者間であなたの個人情報を共有することについて、下記のどの範囲なら良いと思いますか。  
【〇はあてはまるものすべて】

「市役所」(75.1%) が最も高く、次いで「消防本部・消防署」(37.3%)、「民生委員・児童委員」(32.2) %となっています。

一方で「支援のためであっても個人情報を共有してほしくない」(11.0%) となっています。

■ どのような地域のあり方が大切だと思うか（複数回答）



## 年代別

年代別でみると、すべての年代で「市役所」「消防署」の割合が高くなっています。

また、19歳以下から60歳代にかけて「消防本部・消防署」、19歳以下、60～64歳、70～74歳で「社会福祉協議会」、19歳以下で「まちづくり協議会」、「自治会・区会」の割合が高くなっています。

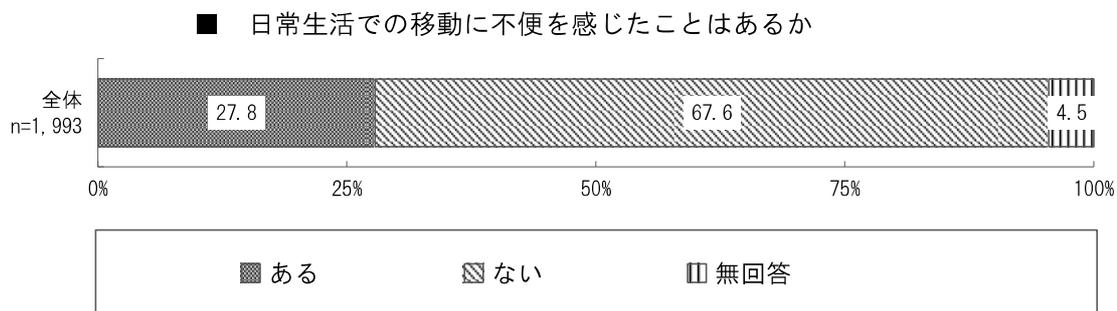
一方で、20歳代、50歳代、60歳代、80歳以上で「支援のためであっても個人情報共有してほしくない」の割合が、が高くなっています。

単位：(%)

	有効回答数 (件)	市役所	消防本部・ 消防署	民生委員・ 児童委員	地域で支援してく れる人	社会福祉協 議会	地域包括支 援センター	障がい者基 幹相談支援 センター	まちづく り協議会	自治会・ 区会	支援のため であっても 個人情報 共有して ほしくない	無回 答
19歳以下	62	79.0	45.2	37.1	21.0	30.6	21.0	27.4	12.9	12.9	9.7	1.6
20歳代	145	73.8	37.9	26.9	12.4	25.5	24.1	22.8	8.3	6.2	15.2	1.4
30歳代	275	85.5	49.1	32.0	15.3	28.0	24.7	23.3	8.0	9.1	8.4	1.1
40歳代	422	84.4	49.3	32.0	16.4	27.7	23.7	22.0	7.6	8.3	9.0	2.1
50歳代	356	75.6	36.0	33.4	16.0	29.8	28.4	20.8	6.5	5.9	11.0	2.8
60～64歳	139	74.8	41.0	33.8	12.2	33.1	32.4	20.9	5.0	5.0	14.4	0.7
65～69歳	120	63.3	30.8	23.3	13.3	20.0	24.2	12.5	3.3	5.0	15.0	3.3
70～74歳	151	66.9	24.5	34.4	19.9	30.5	25.2	13.2	6.0	7.3	9.9	1.3
75～79歳	130	65.4	18.5	29.2	16.9	23.1	28.5	11.5	3.1	9.2	8.5	4.6
80歳以上	142	62.0	17.6	40.1	18.3	28.2	26.8	7.0	1.4	4.9	13.4	2.8

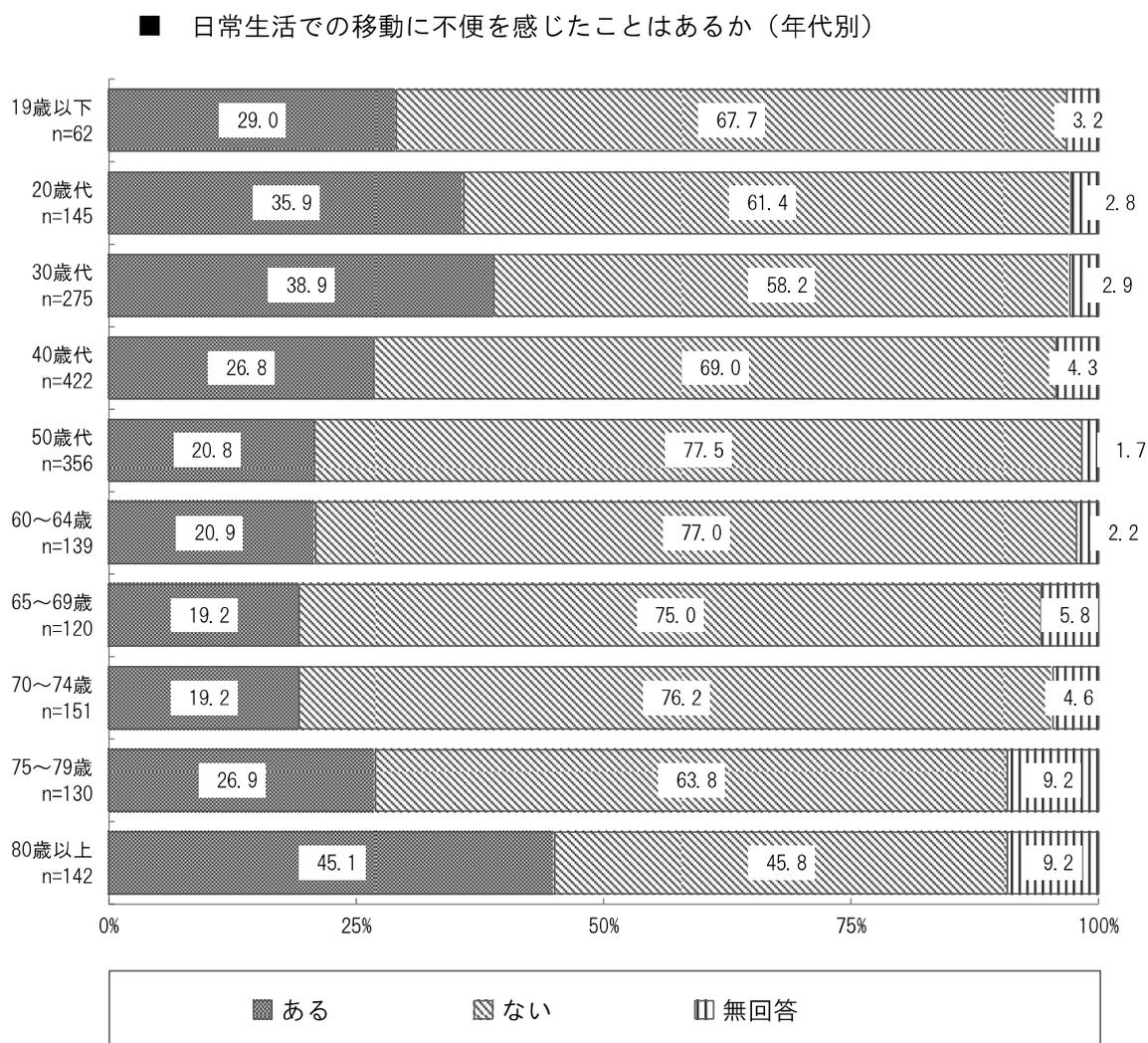
問 13 あなたは、日常生活での移動に不便を感じたことはありますか。

「ある」(27.8%)、「ない」(67.6%) となっています。



### 年代別

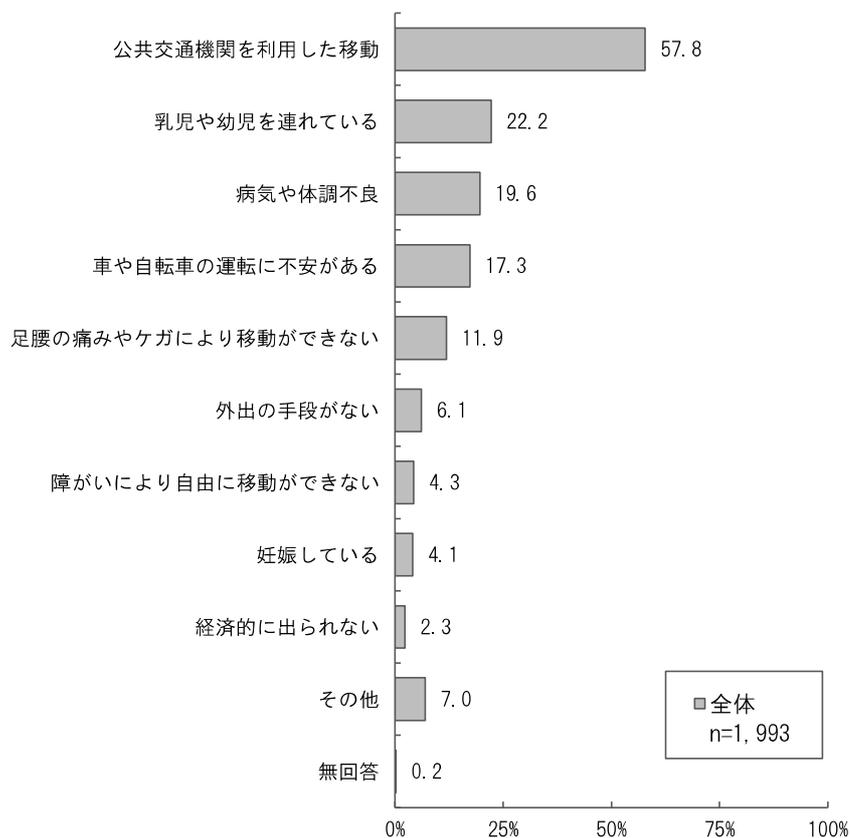
年代別で見ると、80歳以上で「ある」の割合が高くなっています。



問 13-1 問 13 で「1. ある」と回答した方にお聞きします。どのような場面ですか。  
【〇はあてはまるものすべて】

「公共交通機関を利用した移動」(57.8%) が最も高く、次いで「乳児や幼児を連れている」(22.2%)、「病気や体調不良」(19.6%) となっています。

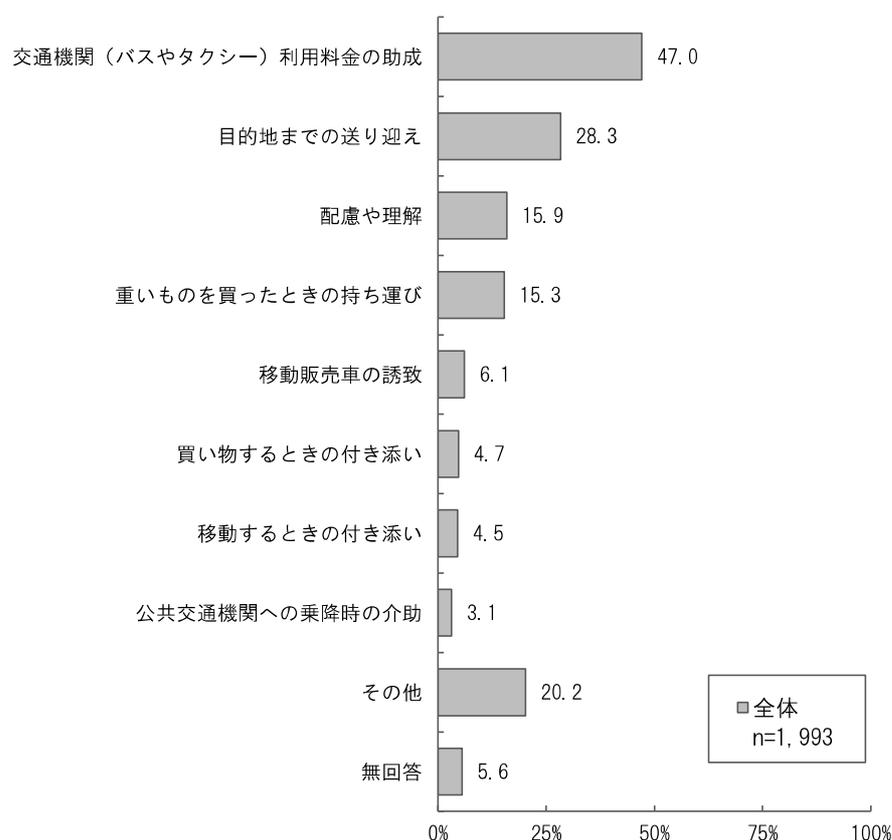
■ どのような場面で不便を感じたか (複数回答)



問 13-2 問 13 で「1. ある」と回答した方にお聞きします。どのような支援が必要と感じましたか。  
【○はあてはまるものすべて】

「交通機関（バスやタクシー）利用料金の助成」（47.0%）が最も高く、次いで「目的地までの送り迎え」（28.3%）、「配慮や理解」（15.9%）となっています。

■ どのような支援が必要と感じたか（複数回答）



## 年代別

年代別でみると、30歳代を除くすべての年代で「交通機関（バスやタクシー）利用料金の助成」、30歳代で「配慮や理解」の割合が高くなっています。

80歳以上で「目的地までの送り迎え」、「移動するときの付き添い」、65歳～69歳で「重いものを買ったときの持ち運び」の割合が高くなっています。

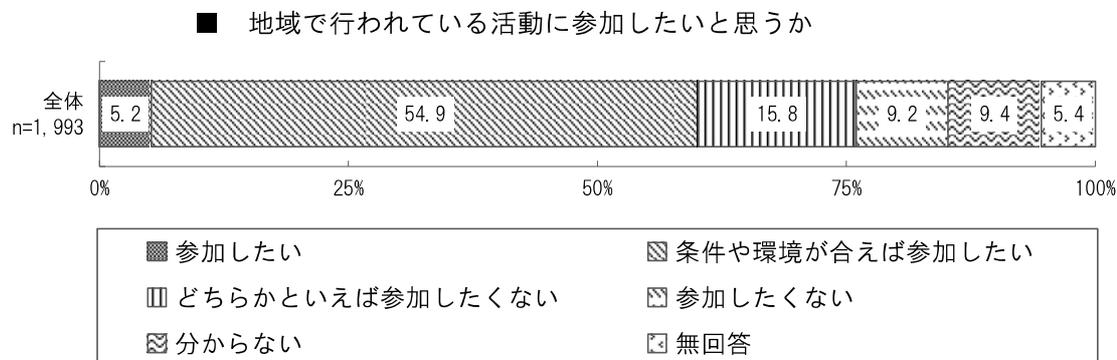
単位：（％）

	有効回答数 (件)	目的地までの送り迎え	移動するときの付き添い	買い物するときの付き添い	公共交通機関への乗降時の介助	重いものを買ったときの持ち運び	移動販売車の誘致	交通機関（バスやタクシー）利用料金の助成	配慮や理解	その他	無回答
19歳以下	62	22.2	5.6	5.6	5.6	5.6	-	55.6	16.7	22.2	-
20歳代	145	13.5	3.8	5.8	3.8	19.2	1.9	44.2	17.3	17.3	1.9
30歳代	275	26.2	5.6	7.5	5.6	16.8	2.8	36.4	38.3	23.4	4.7
40歳代	422	20.4	1.8	1.8	1.8	8.8	7.1	46.0	15.0	23.0	7.1
50歳代	356	36.5	2.7	4.1	2.7	12.2	4.1	41.9	8.1	27.0	5.4
60～64歳	139	34.5	6.9	3.4	3.4	17.2	10.3	48.3	3.4	20.7	3.4
65～69歳	120	26.1	4.3	4.3	-	26.1	13.0	56.5	13.0	17.4	4.3
70～74歳	151	27.6	-	-	-	17.2	3.4	51.7	6.9	20.7	6.9
75～79歳	130	22.9	2.9	2.9	-	20.0	11.4	60.0	2.9	17.1	11.4
80歳以上	142	51.6	12.5	9.4	4.7	21.9	10.9	59.4	7.8	4.7	6.3

問 14 あなたは、地域で行われている活動に参加したいと思いますか。

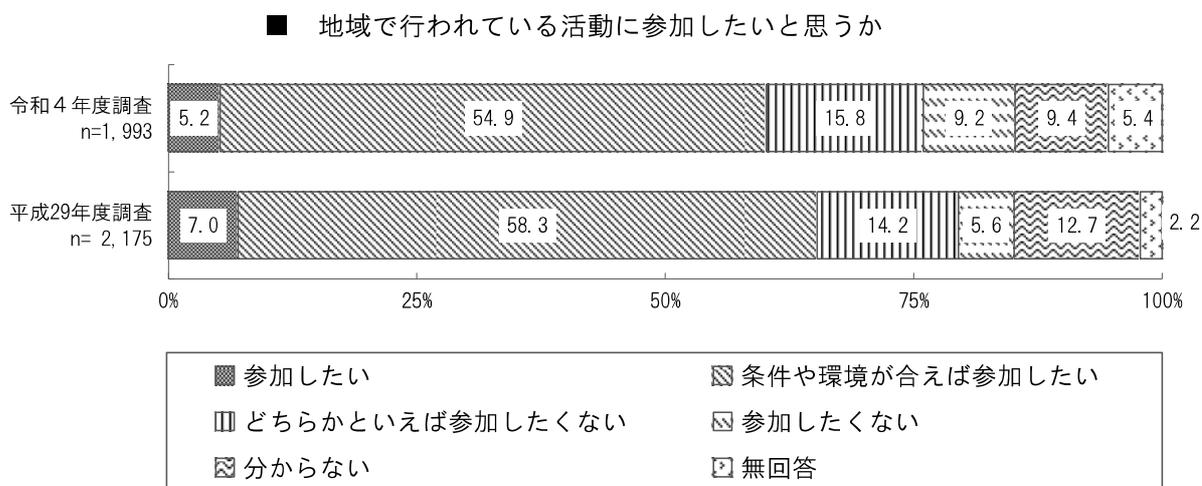
(現在参加している方は今後の意向としてお答えください。)

「条件や環境が合えば参加したい」(54.9%)が最も高く、次いで「どちらかといえば参加したくない」(15.8%)、「分からない」(9.4%)となっています。



### 前回調査比較

平成29年度調査と比較すると、「どちらかといえば参加したくない」、「参加したくない」についての割合が増加しています。

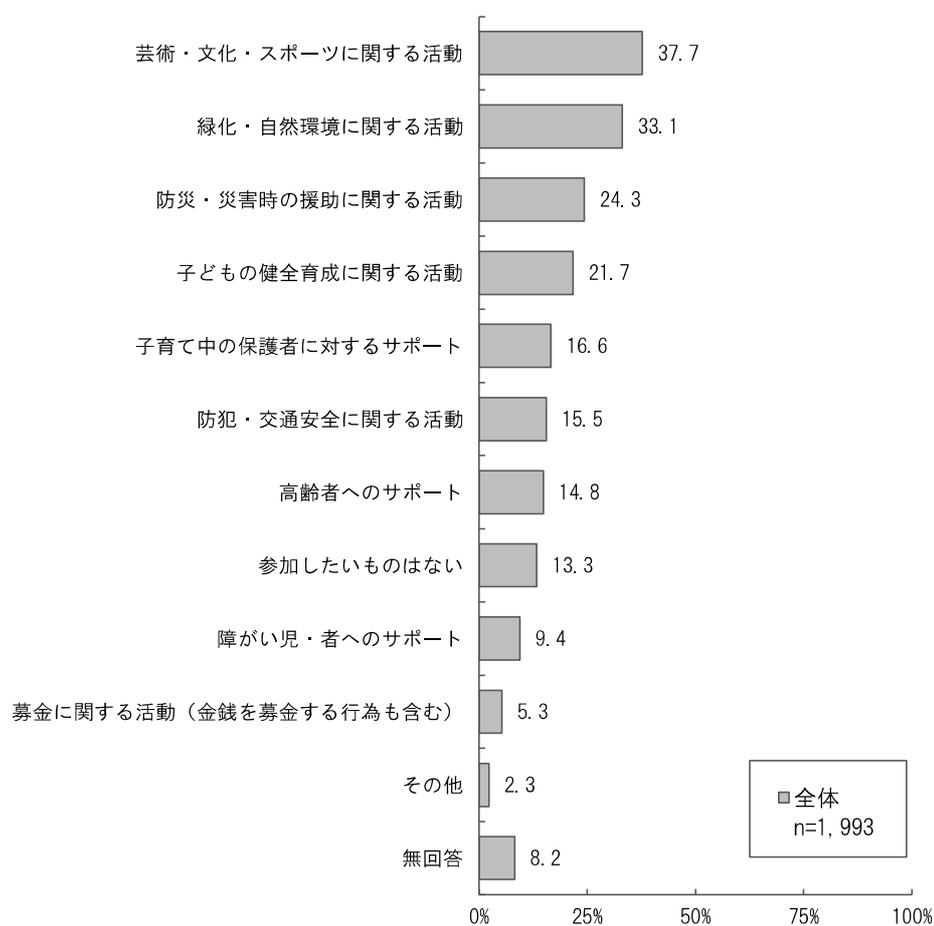


資料：平成30年度 長久手市地域福祉に関する市民意識調査 調査結果報告書

問 15 あなたが参加してもよいと思う活動はどんな活動ですか。【○はあてはまるものすべて】

「芸術・文化・スポーツに関する活動」(37.7%) が最も高く、次いで「緑化・自然環境に関する活動」(33.1%)、「防災・災害時の援助に関する活動」(24.9%) となっています。

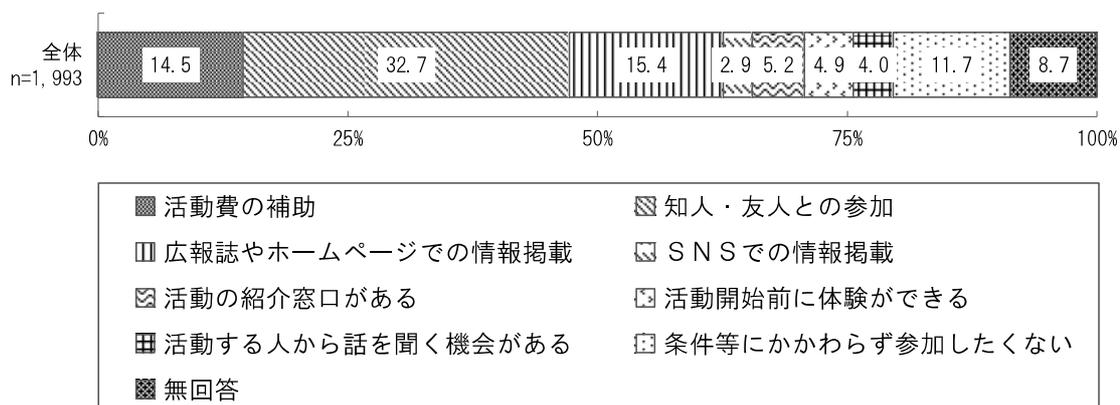
■ 参加してもよいと思う活動（複数回答）



問 16 あなたはどのようなきっかけや条件があれば、地域で行われている活動に参加しようと思いますか（現在すでに参加している方は、参加のきっかけや後押しになったものをお答えください。）。

「知人・友人との参加」(32.7%)が最も高く、次いで「広報誌やホームページでの情報掲載」(15.4%)、「活動費の補助」(14.5%)となっています。

■ どのようなきっかけや条件があれば、活動に参加しようと思うか

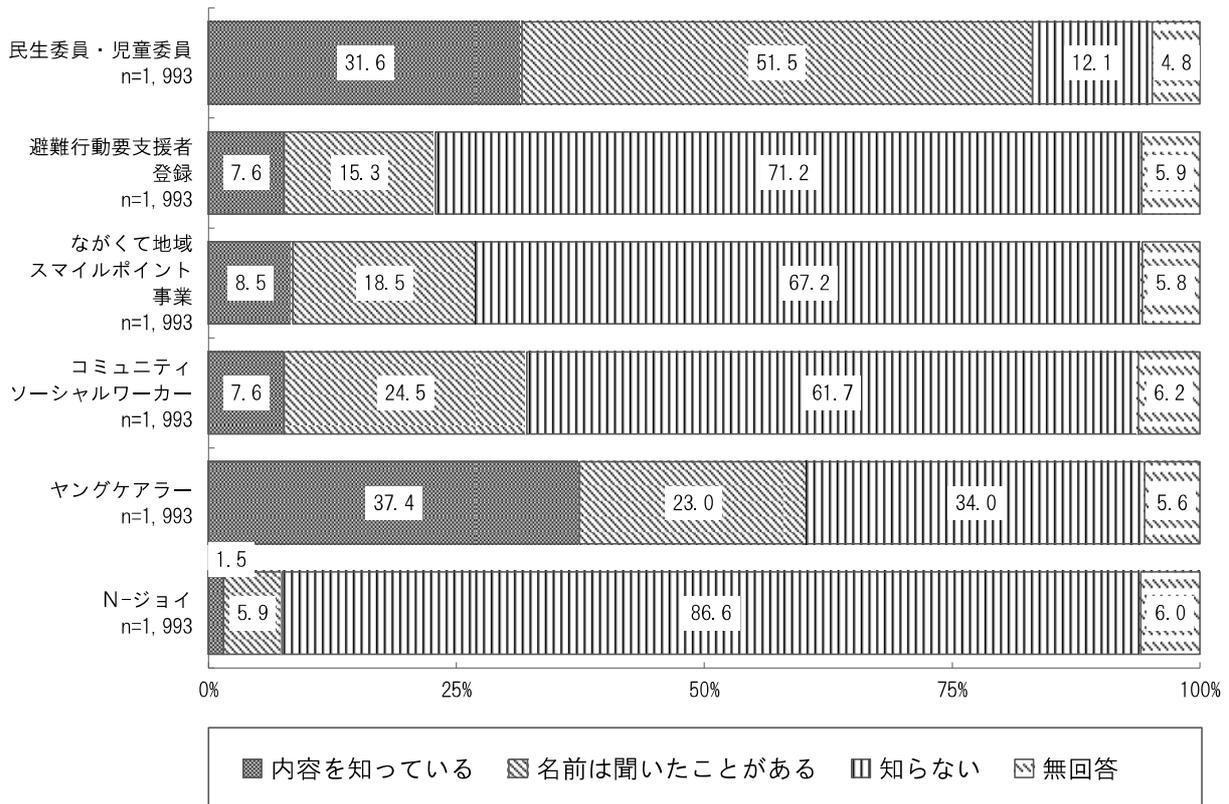


問 17 あなたは、以下の福祉に関わる制度や言葉について、どの程度知っていますか。  
【各制度や言葉について○は1つだけ】

民生委員・児童委員、ヤングケアラーで「内容を知っている」(31.6%・37.4%)の割合が高くなっています。

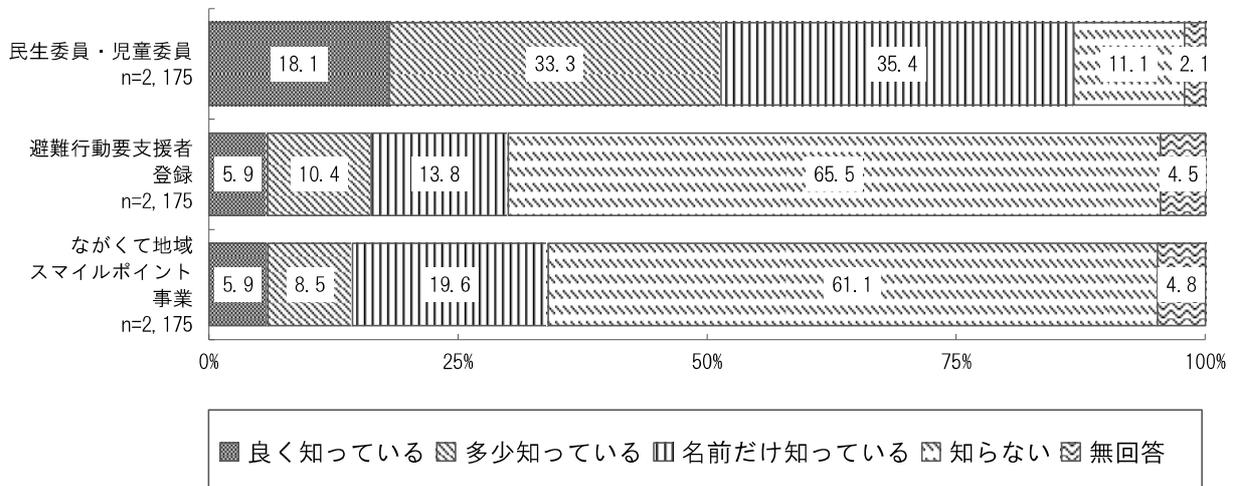
一方、避難行動要支援者登録、ながくて地域スマイルポイント事業、コミュニティソーシャルワーカー、N-ジョイで「知らない」(71.2%・67.2%・61.7%・86.6%)の割合が高く、6割を超えています。

■ 福祉に関わる制度や言葉についての認知度



前回調査比較(参考) ※前回調査と経年比較できる設問のみ掲載。

■ 福祉に関わる制度や言葉についての認知度



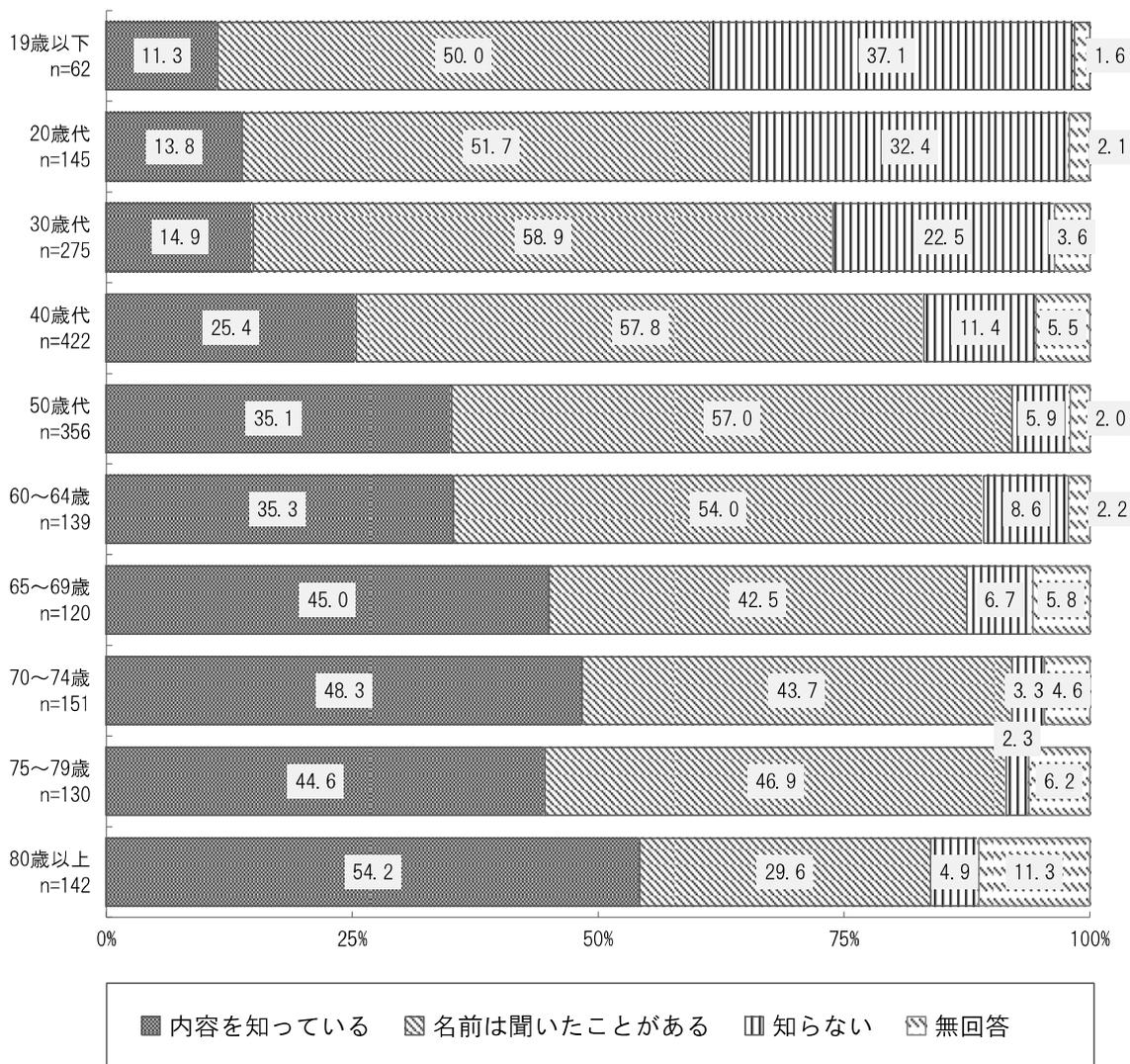
資料：平成30年度 長久手市地域福祉に関する市民意識調査 調査結果報告書

(1)民生委員・児童委員

年代別

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「内容を知っている」の割合が高くなっています。

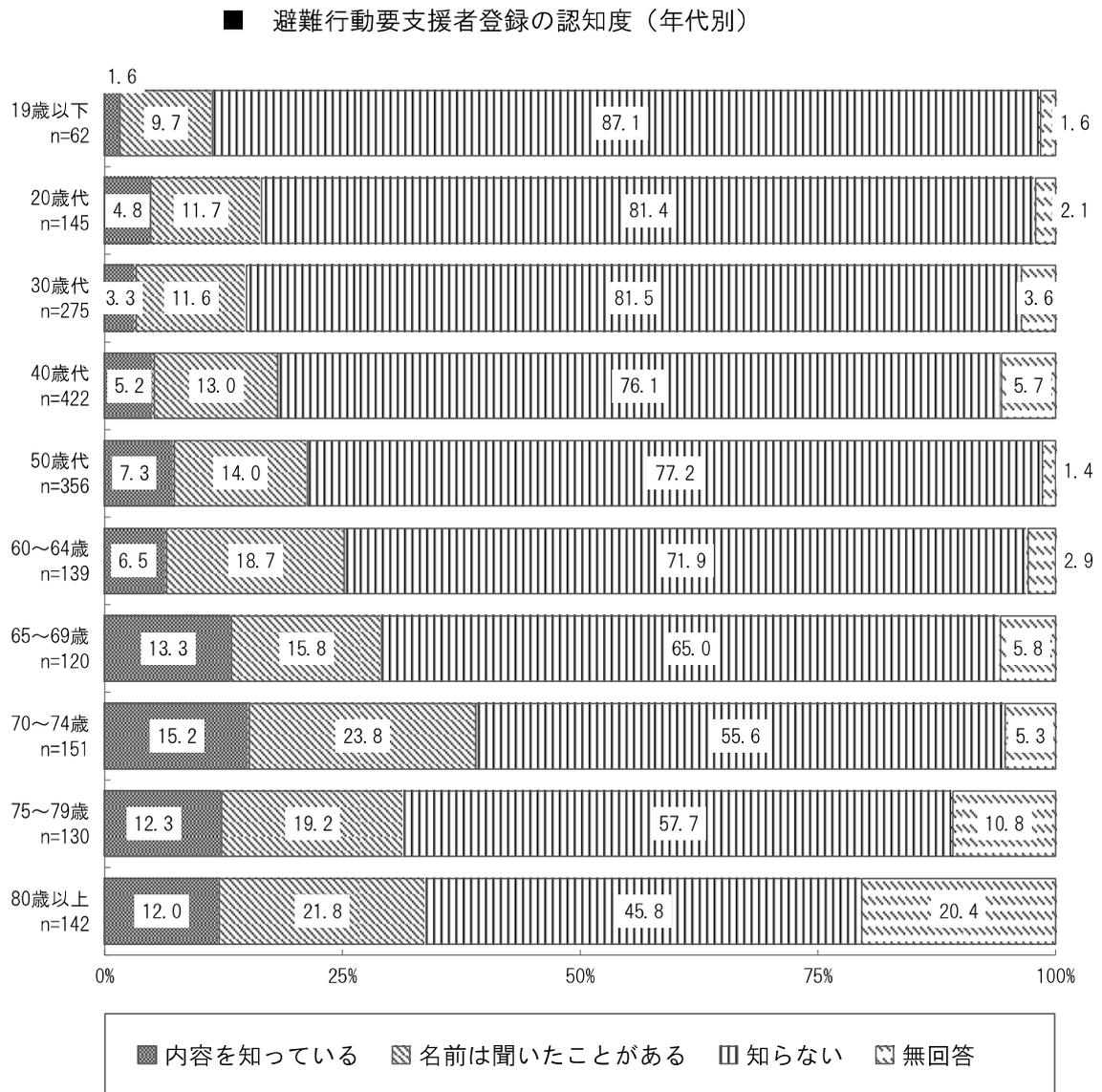
■ 民生委員・児童委員の認知度（年代別）



## (2)避難行動要支援者登録

### 年代別

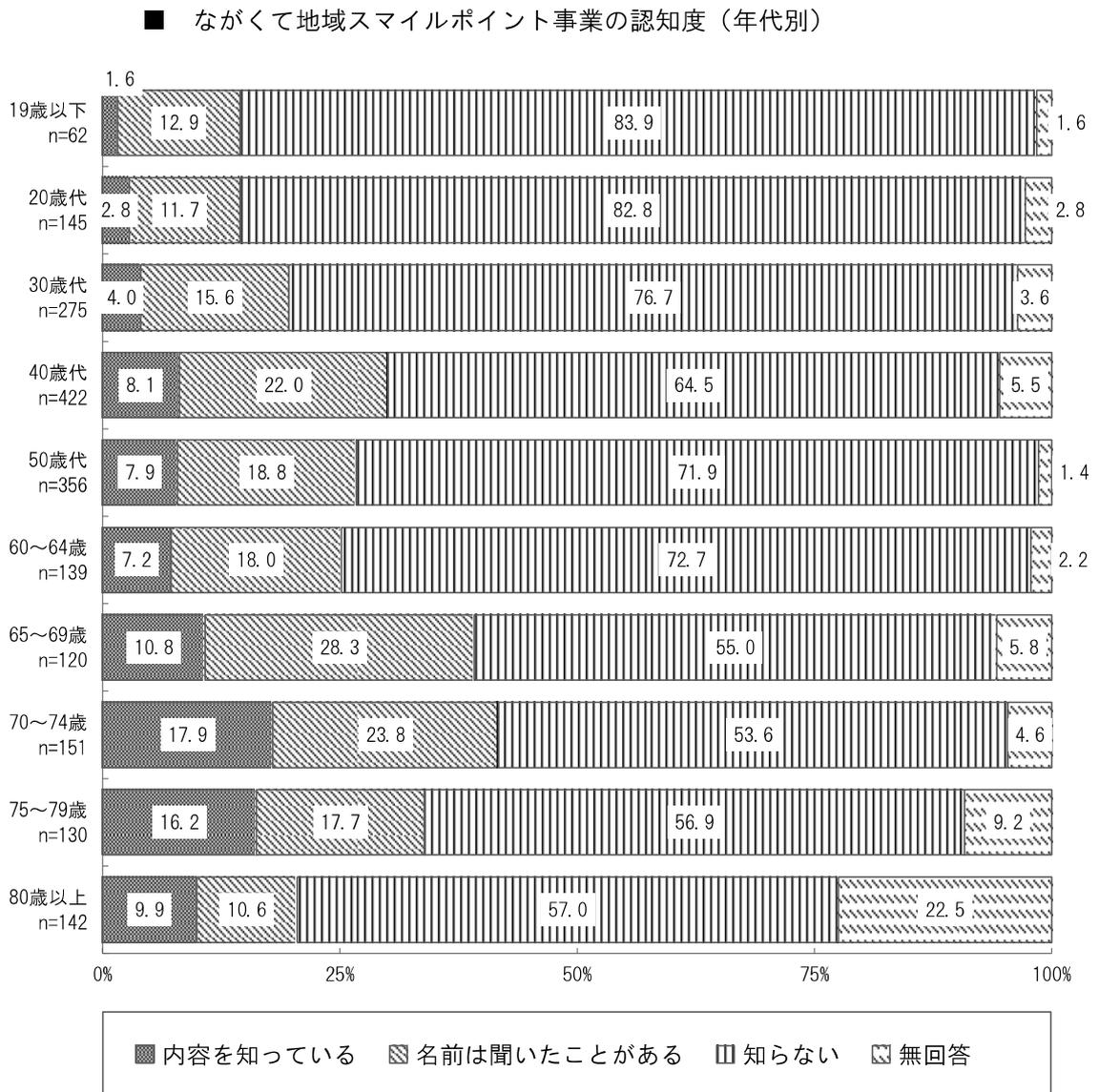
年代別でみると、年代が高くなるにつれ「内容を知っている」、「名前は聞いたことがある」の割合が高くなっています。



### (3)ながくて地域スマイルポイント事業

#### 年代別

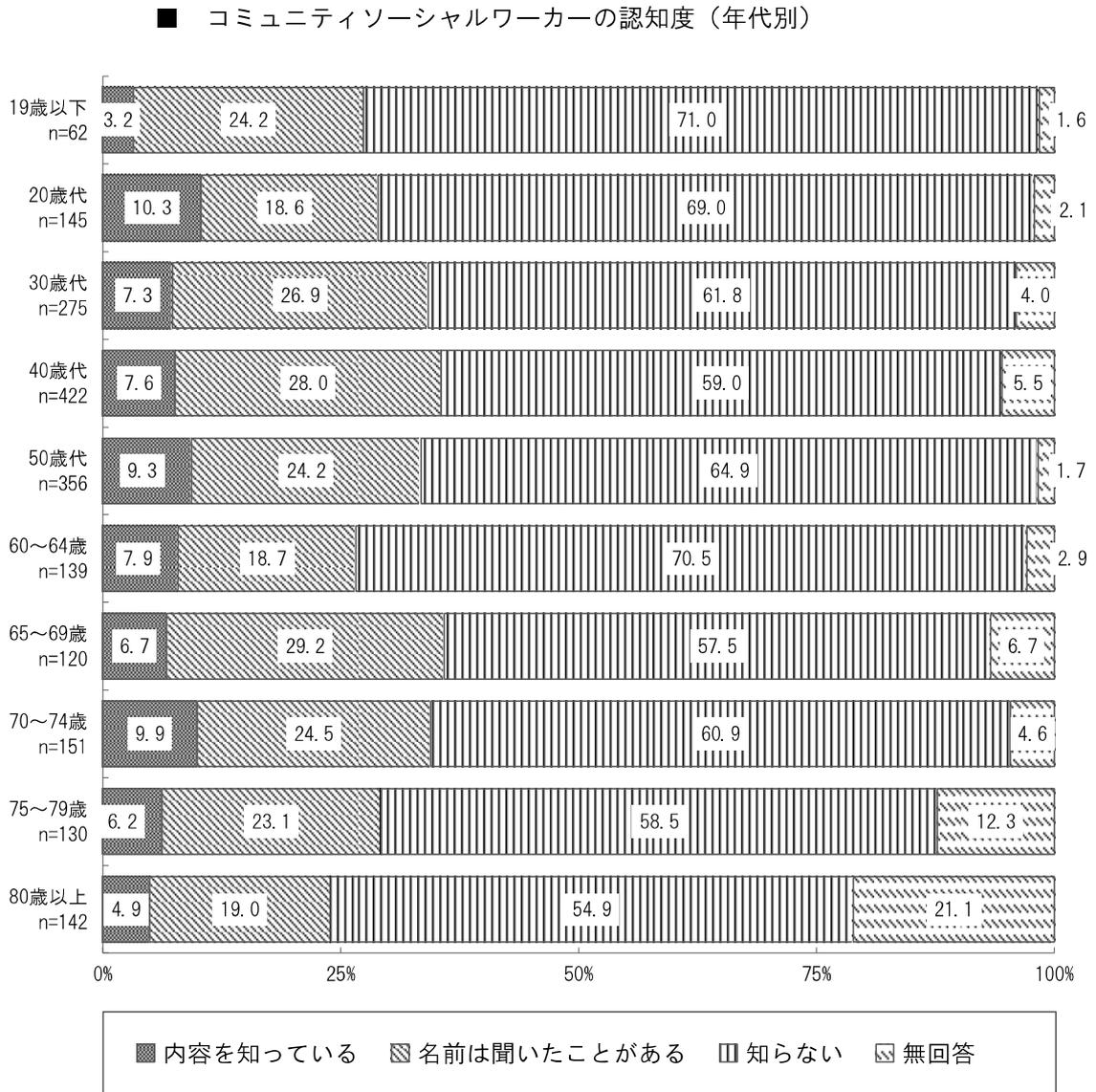
年代別でみると、70歳代で「内容を知っている」、30歳代から70歳～74歳にかけて「名前は聞いたことがある」の割合が高くなっています。



#### (4)コミュニティソーシャルワーカー

##### 年代別

年代別で見ると、すべての年代で「知らない」の割合が高く、5割を超えています。

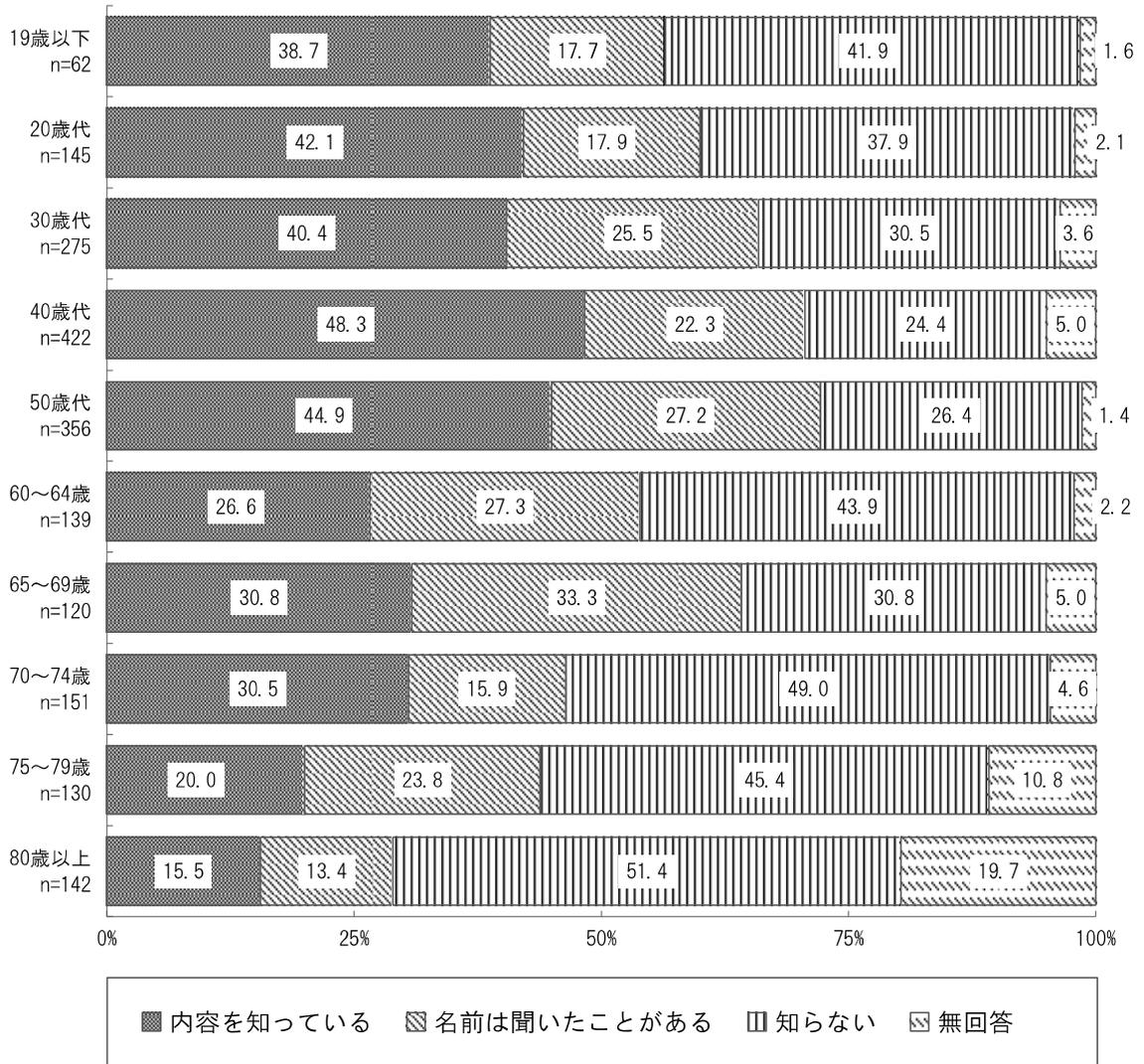


## (5)ヤングケアラー

### 年代別

年代別でみると、若い年代で「内容を知っている」の割合が高くなっています。

■ ヤングケアラーの認知度（年代別）

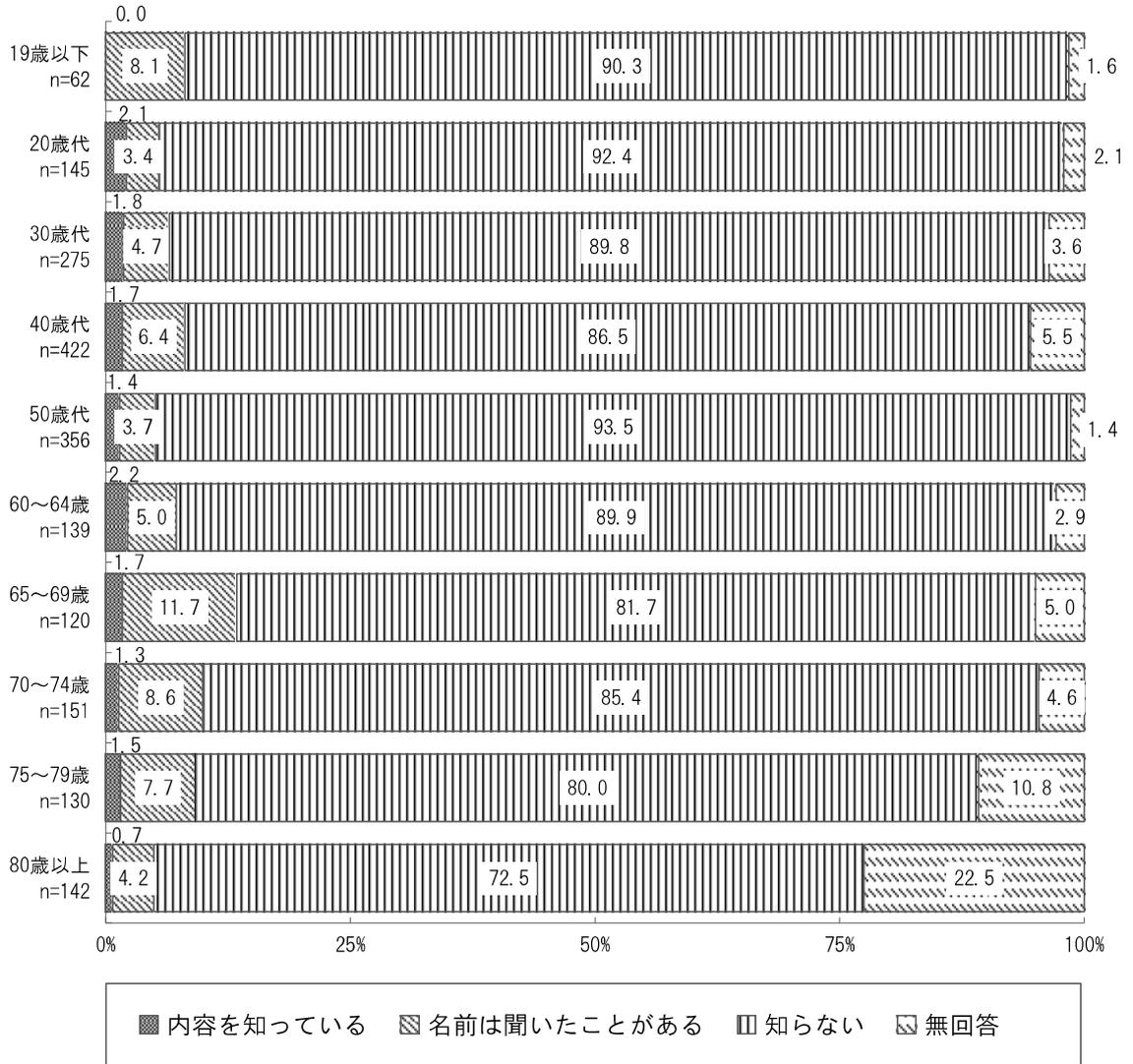


(6)N-ジョイ

年代別

年代別でみると、すべての年代で「知らない」の割合が高くなっています。

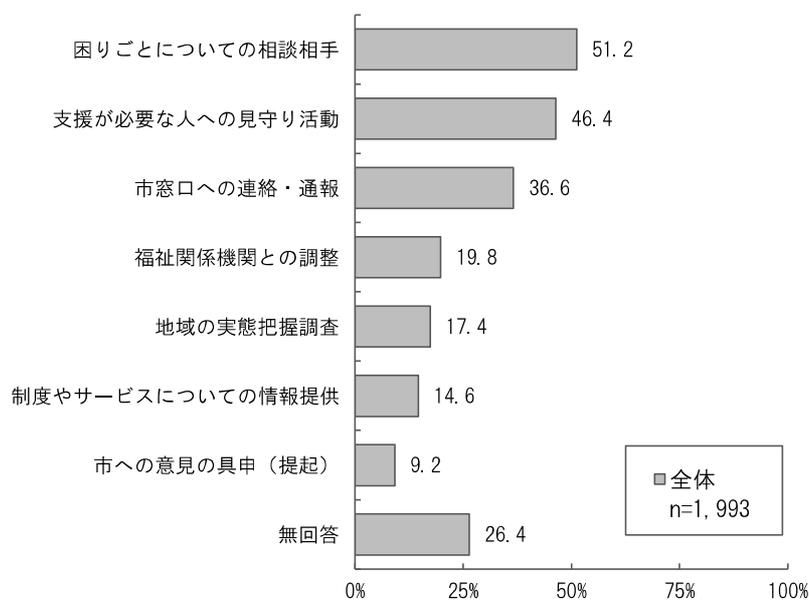
■ N-ジョイの認知度（年代別）



問 18 民生委員・児童委員が行っている主な活動について、知っているものはありますか。  
【〇はあてはまるものすべて】

「困りごとについての相談相手」(51.2%) が最も高く、次いで「支援が必要な人への見守り活動」(46.4%)、「市窓口への連絡・通報」(36.6%) となっています。

■ 民生委員・児童委員が行っている主な活動の認知度（複数回答）

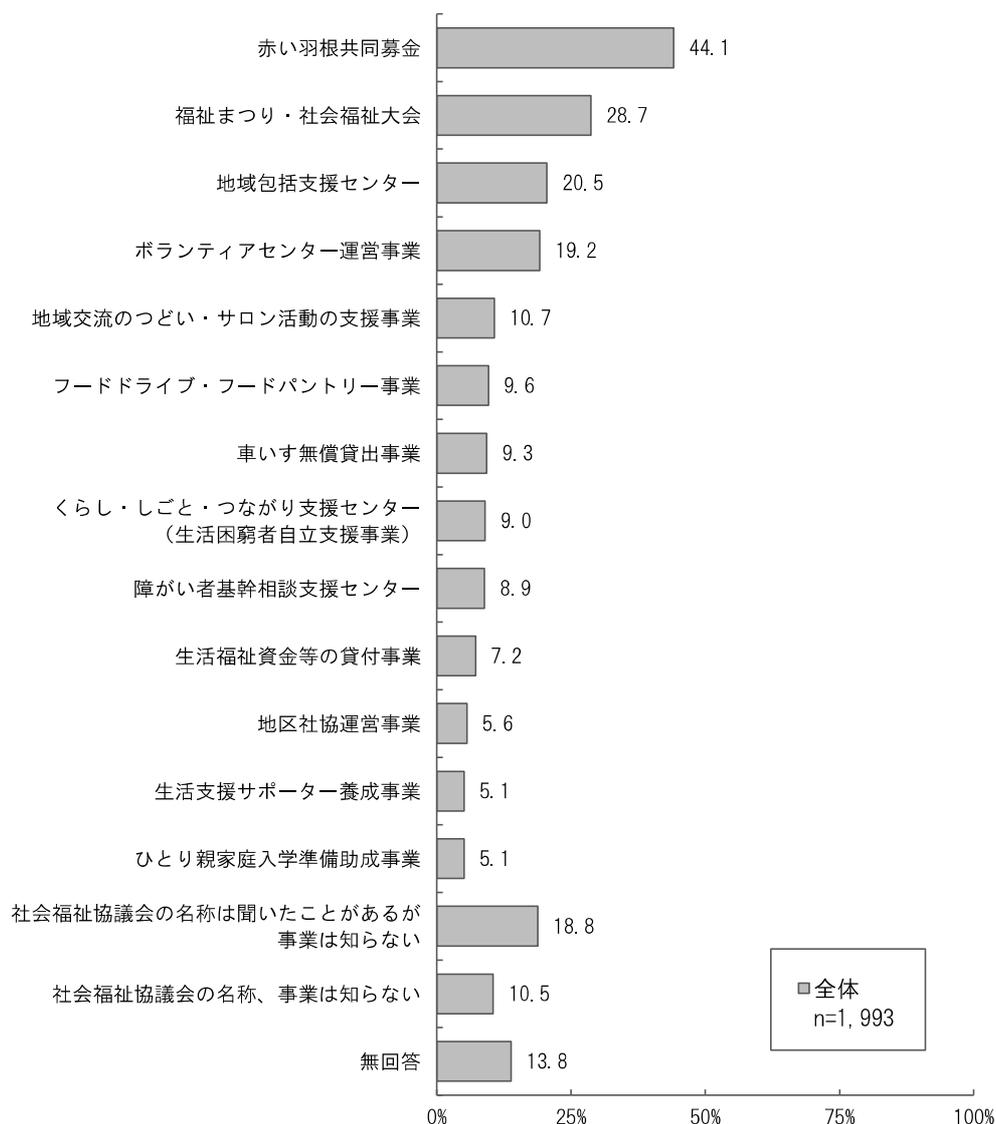


問 19 長久手市社会福祉協議会（社協）が行っている次の事業について、知っているものがありますか。【〇はあてはまるものすべて】

「赤い羽根共同募金」(44.1%) が最も高く、次いで「福祉まつり・社会福祉大会」(28.7%)、「地域包括支援センター」(20.5%) となっています。

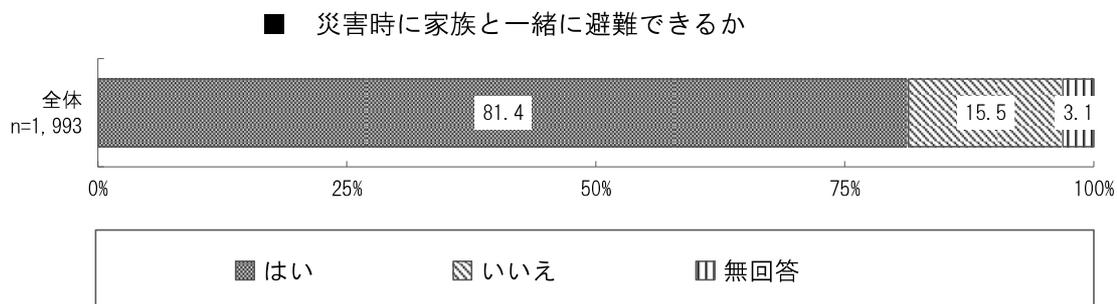
一方で、「社会福祉協議会の名称は聞いたことがあるが事業は知らない」(18.8%)、「社会福祉協議会の名称、事業は知らない」(10.5%) となっています。

■ 長久手市社会福祉協議会（社協）が行っている事業の認知度（複数回答）



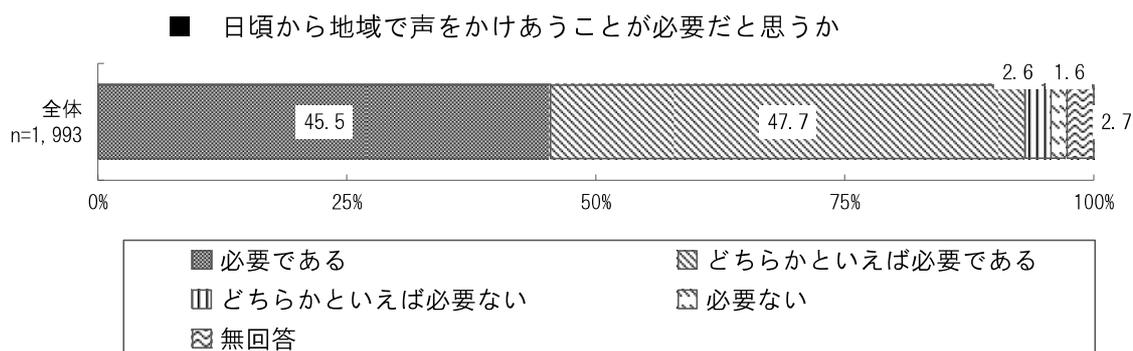
問 20 あなたは、災害時に家族と一緒に避難できますか。

「ある」(81.4%)、「ない」(15.5%)となっています。



問 21 災害時に自ら避難することが困難な方（要介護者、障がい者、難病患者、妊産婦等）を支援するために、日頃から地域で声をかけあうことが必要だと思いますか。

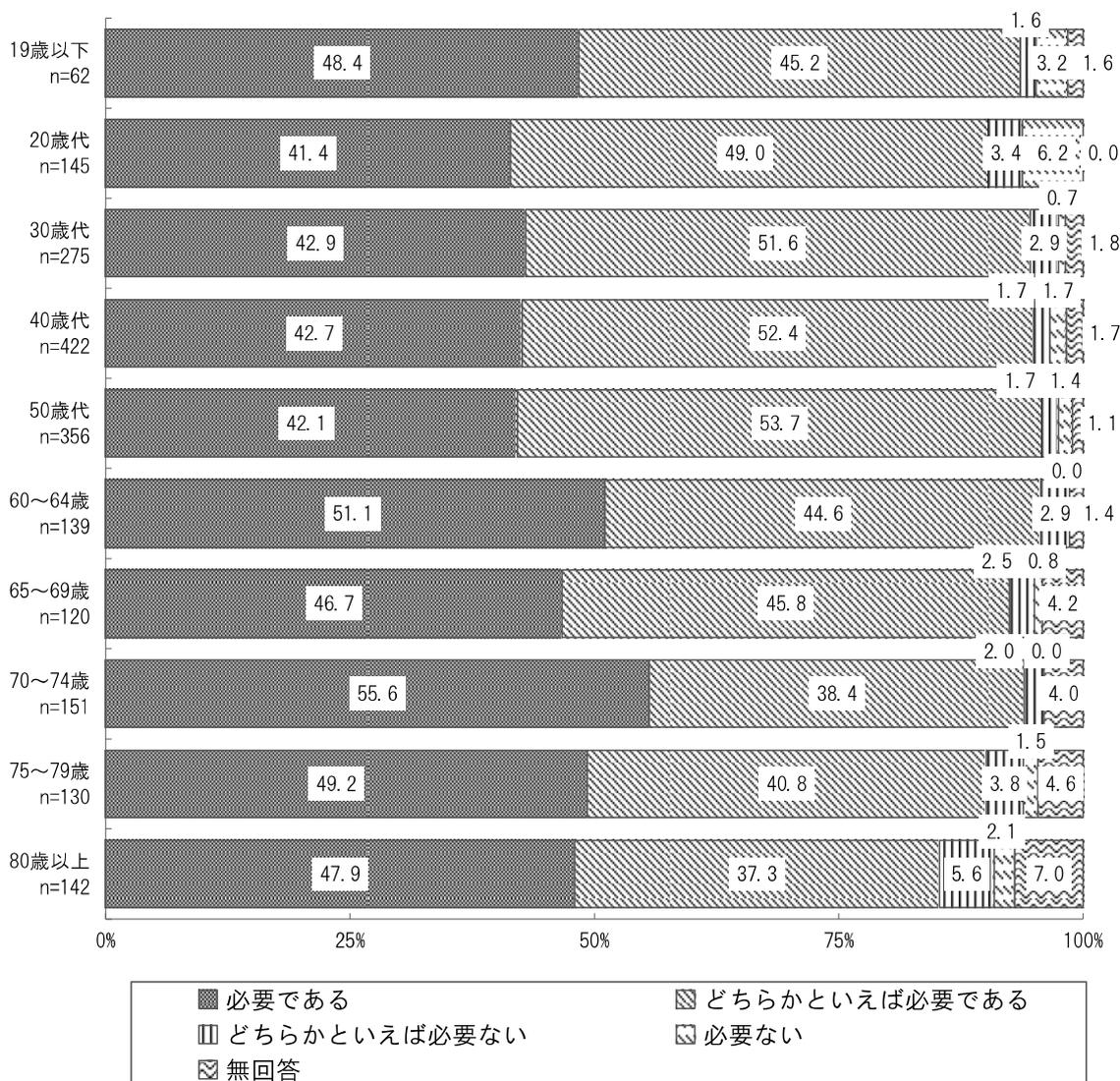
「必要である」と「どちらかといえば必要である」をあわせた割合が93.2%、「どちらかといえ  
ば必要ない」と「必要ない」をあわせた割合が4.2%となっています。



## 年代別

年代別で見ると、20歳代で「必要ない」の割合が高くなっています。

■ 日頃から地域で声をかけあうことが必要だと思うか（年代別）



## 2. 自殺対策に関する考え

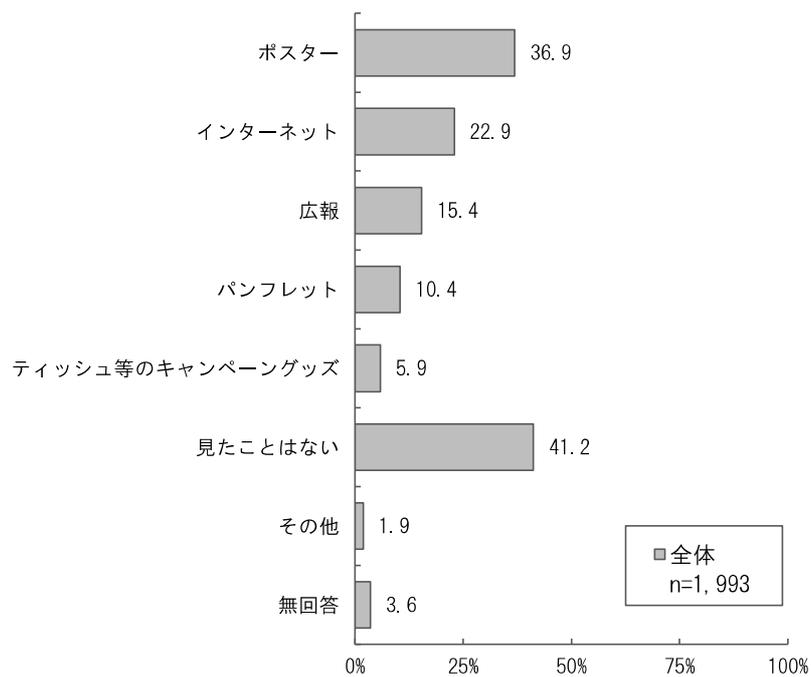
問 22 あなたはこれまで自殺対策に関する啓発物を見たことがありますか。

【〇はあてはまるものすべて】

「ポスター」(36.9%) が最も高く、次いで「インターネット」(22.9%)、「広報」(15.4%) となっています。

また、「見たことはない」(41.2%) となっています。

■ 自殺対策に関する啓発物を見たことがあるか（複数回答）



## 年代別

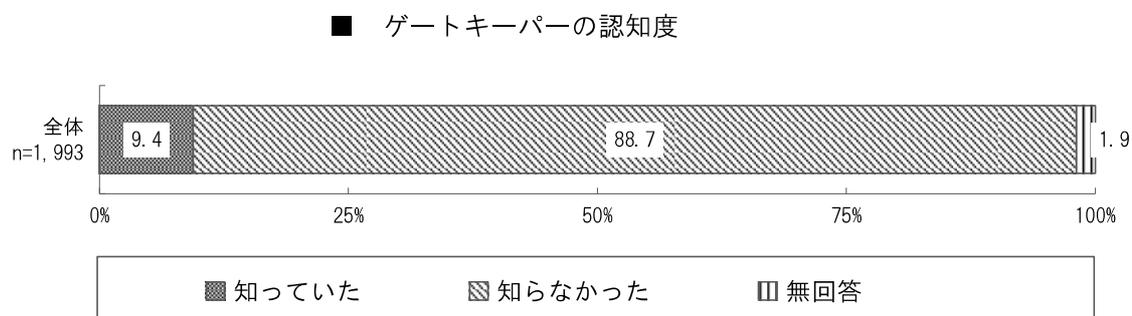
年代別でみると、若い年代では「ポスター」、「インターネット」の割合が高くなっています。一方で、50歳代から80歳以上にかけて「見たことはない」の割合が高くなっています。

単位：(%)

	有効回答数 (件)	ポスター	パンフレット	広報	インターネット	ティッシュ等の キャンペーングッズ	見たことはない	その他	無回答
19歳以下	62	54.8	8.1	9.7	38.7	17.7	21.0	-	-
20歳代	145	53.8	15.2	15.9	37.9	7.6	31.0	1.4	-
30歳代	275	51.6	11.6	14.9	35.6	8.0	30.5	1.5	1.8
40歳代	422	42.4	9.5	14.7	29.4	5.7	34.6	2.1	1.9
50歳代	356	28.1	9.3	14.6	19.9	4.8	48.9	3.7	2.0
60～64歳	139	28.8	10.8	14.4	23.7	3.6	46.0	2.9	2.2
65～69歳	120	31.7	9.2	17.5	12.5	5.8	50.8	0.8	4.2
70～74歳	151	26.5	9.3	15.9	12.6	2.6	49.7	0.7	7.9
75～79歳	130	24.6	11.5	16.9	4.6	6.9	56.2	0.8	6.9
80歳以上	142	23.9	10.6	19.7	3.5	3.5	47.2	2.1	10.6

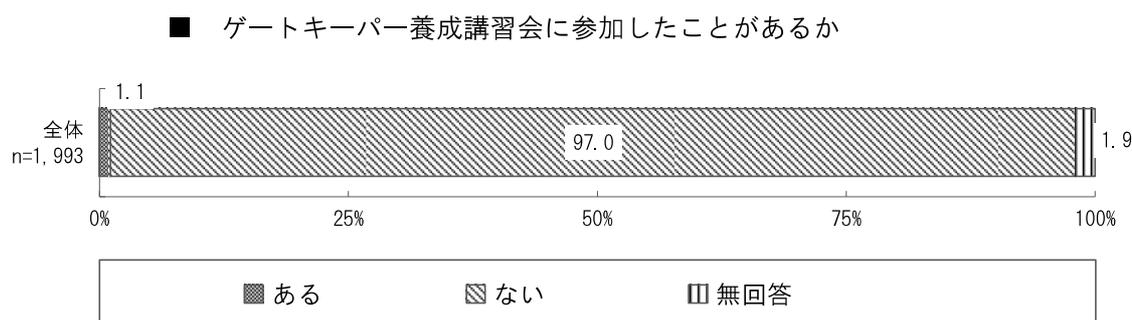
問 23 自殺の危険を示すサインや悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守ることができる人のことを「ゲートキーパー」と言います。あなたは、ゲートキーパーを知っていましたか。

「知っていた」(9.4%)、「知らなかった」(88.7%)となっています。



問 24 自殺対策に関する講演会やゲートキーパー養成講習会に参加したことがありますか。

「ある」(1.1%)、「ない」(97.0%)となっています。

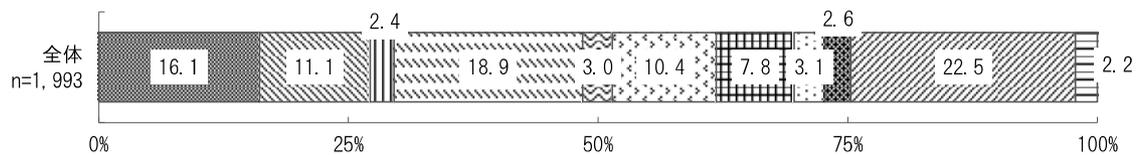


問 25 新型コロナウイルス感染症流行以降、あなたの心情や考えに変化がありましたか。

「感染防止対策を過剰に意識するようになり、ストレスを感じた」(18.9%)と最も高く、次いで「不安を強く感じるようになった」(16.1%)、「家族以外の人とのつながりが少なくなり、孤独を感じた」(16.1%)となっています。

一方で、「特に変化はなかった」(22.5%)となっています。

■ 新型コロナウイルス感染症流行以降の心情や考えの変化

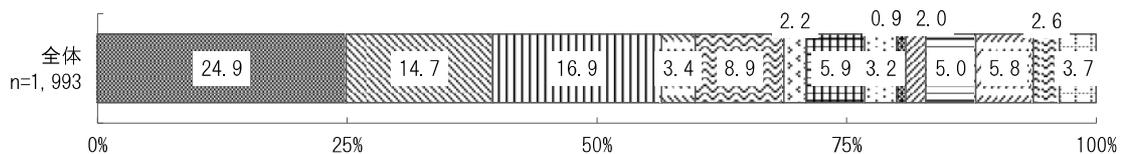


- 不安を強く感じるようになった
- ▨ 家族以外の人とのつながりが少なくなり、孤独を感じた
- ▨ 家族関係の悪化や家族との考え方の違いに悩まされるようになった
- ▨ 感染防止対策を過剰に意識するようになり、ストレスを感じた
- ▨ 家で過ごす時間が増え、家族関係にストレスを感じた
- ▨ 家で過ごす時間が増え、一緒に過ごす時間の大切さを再認識した
- ▨ 在宅勤務や時差出勤の機会が増え、自分や家族の働き方について考えるようになった
- ▨ みんなもつらくて不安なんだと思い、つらい気持ちが少し軽くなった
- ▨ その他
- ▨ 特に変化はなかった
- ▨ 無回答

問 26 あなたは、今後の自殺予防対策として効果的だと思うものは何ですか。

「相談窓口の周知」(24.9%)が最も高く、次いで「インターネット（SNS、チャット等）相談の体制整備」(16.9%)、「身近な場所（地域やコミュニティ）での相談しやすい体制整備」(14.7%)となっています。

■ 今後の自殺予防対策として効果的だと思うもの



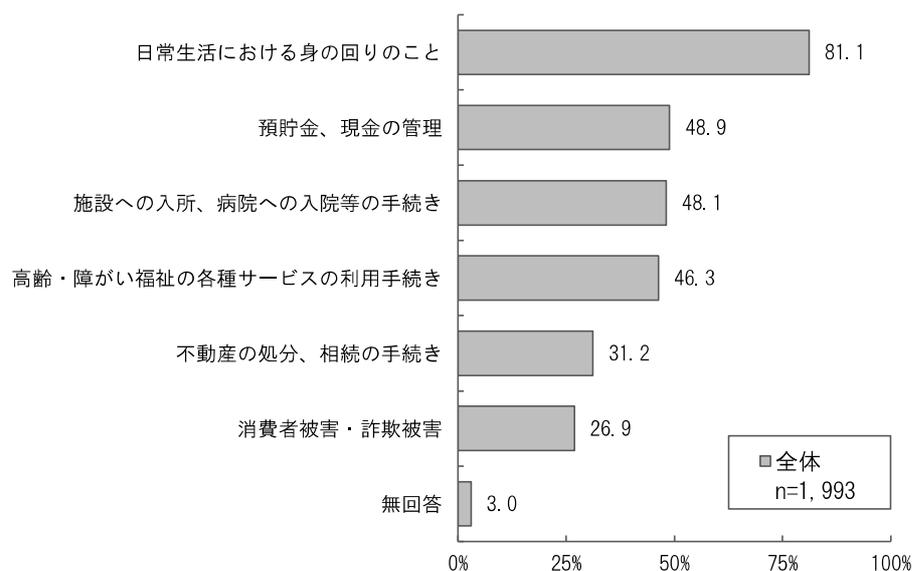
- 相談窓口の周知
- ▨ 身近な場所（地域やコミュニティ）での相談しやすい体制整備
- ▨ インターネット（SNS、チャット等）相談の体制整備
- ▨ ゲートキーパーの養成
- ▨ 学校における相談体制の充実（スクールカウンセラーの配置など）
- ▨ 教職員に対する普及啓発（研修会等）
- ▨ 家族等身近な人の見守りに対する支援
- ▨ 職場におけるメンタルヘルス対策の推進
- ▨ 自殺対策に関わる民間団体の支援
- ▨ 自殺予防に関する広報・啓発
- ▨ うつ病についての普及啓発
- ▨ 経済的困窮者に対する支援
- ▨ その他
- ▨ 無回答

### 3. 権利擁護・成年後見に関する考え

問 27 高齢、障がい等により、自身の判断能力に自信がなくなったときに、不安に思うことはどんなことですか。【○はあてはまるものすべて】

「日常生活における身の回りのこと」(81.1%)が最も高く、次いで「預貯金、現金の管理」(48.9%)、「施設への入所、病院への入院等の手続き」(48.1%)となっています。

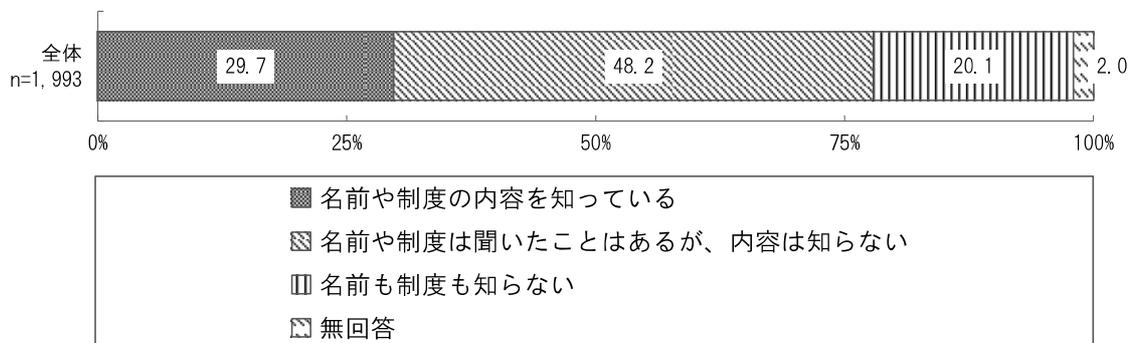
#### ■ 自身の判断能力に自信がなくなったときに、不安に思うこと（複数回答）



問 28 あなたは、成年後見制度についてどの程度知っていますか。

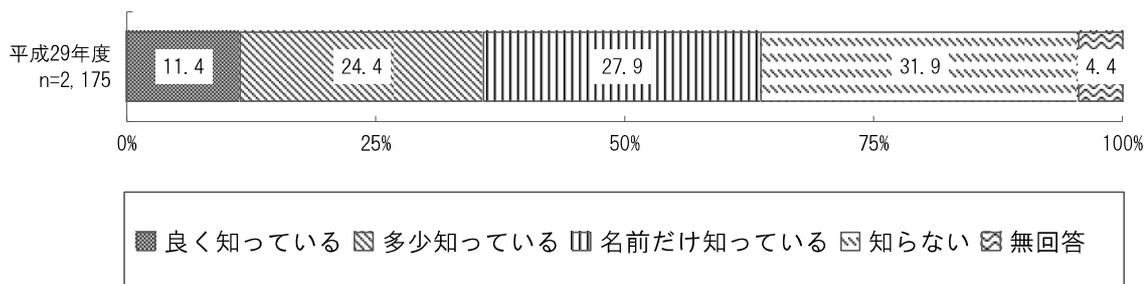
「名前や制度の内容を知っている」(29.7%)、「名前や制度は聞いたことはあるが、内容は知らない」(48.2%)、「名前も制度も知らない」(20.1%)となっています。

■ 成年後見制度についてどの程度知っているか



前回調査比較 (参考)

■ 成年後見制度についての認知度

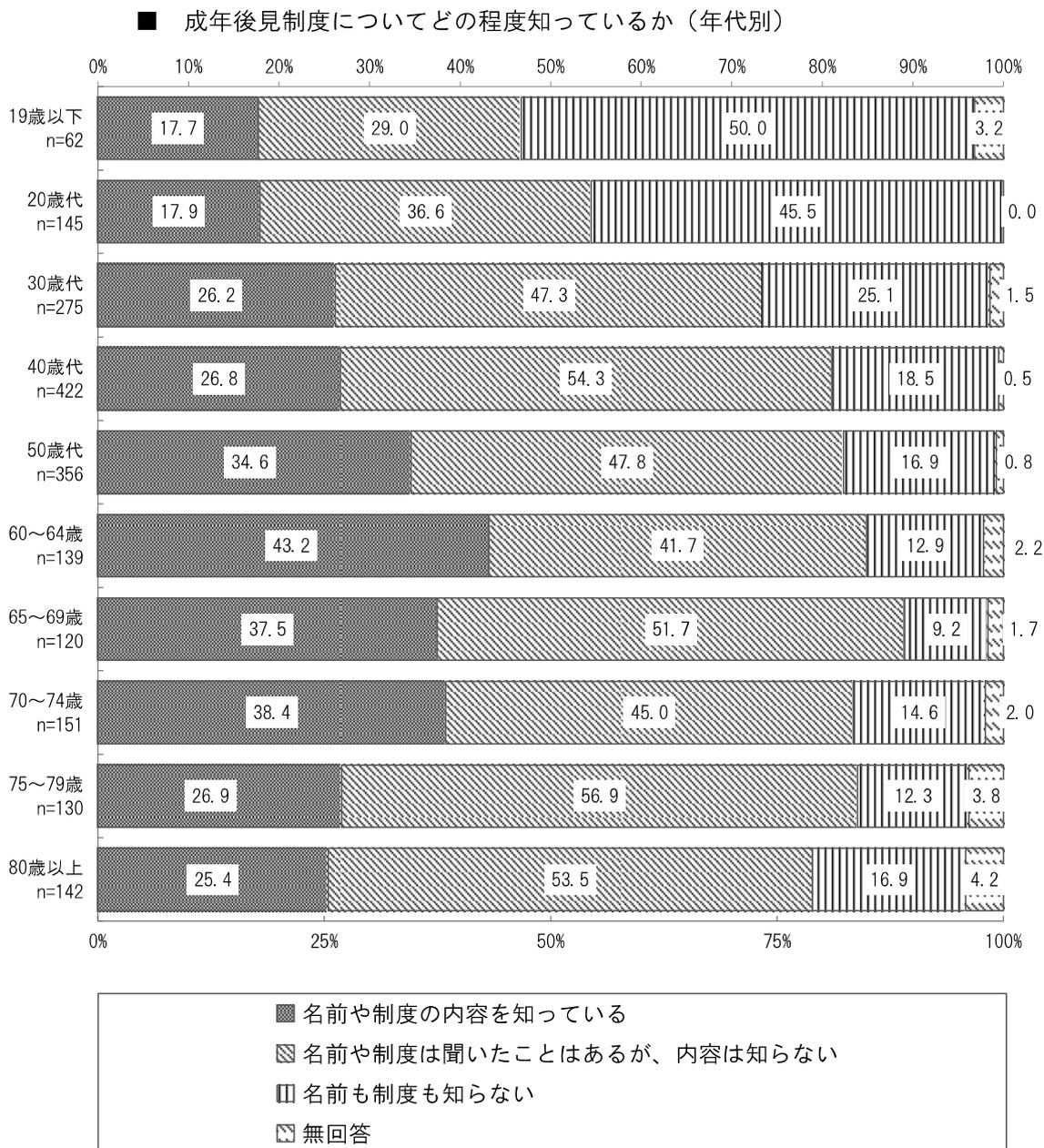


資料：平成 30 年度 長久手市地域福祉に関する市民意識調査 調査結果報告書

## 年代別

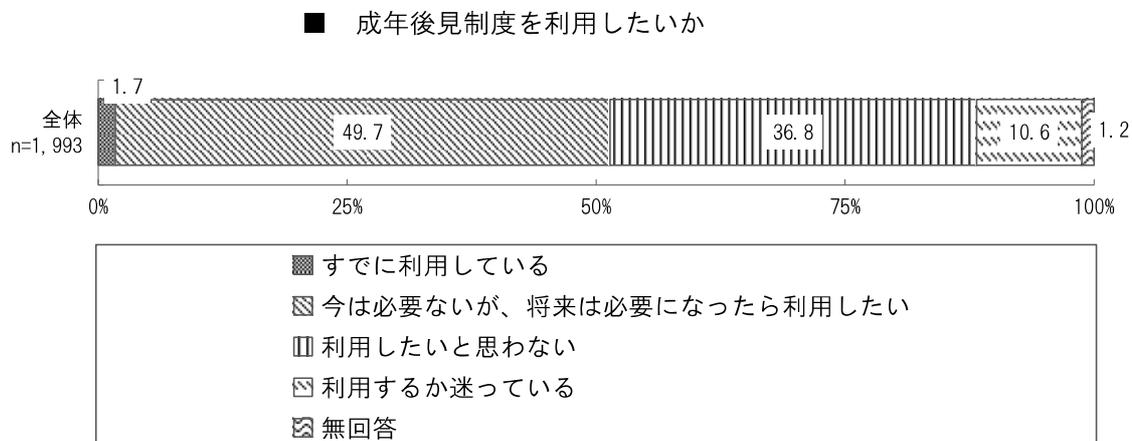
年代別で見ると、50歳代から60歳～64歳にかけて「名前や制度の内容を知っている」の割合が高くなっています。

また、19歳以下、20歳代で「名前も制度も知らない」の割合が高くなっています。



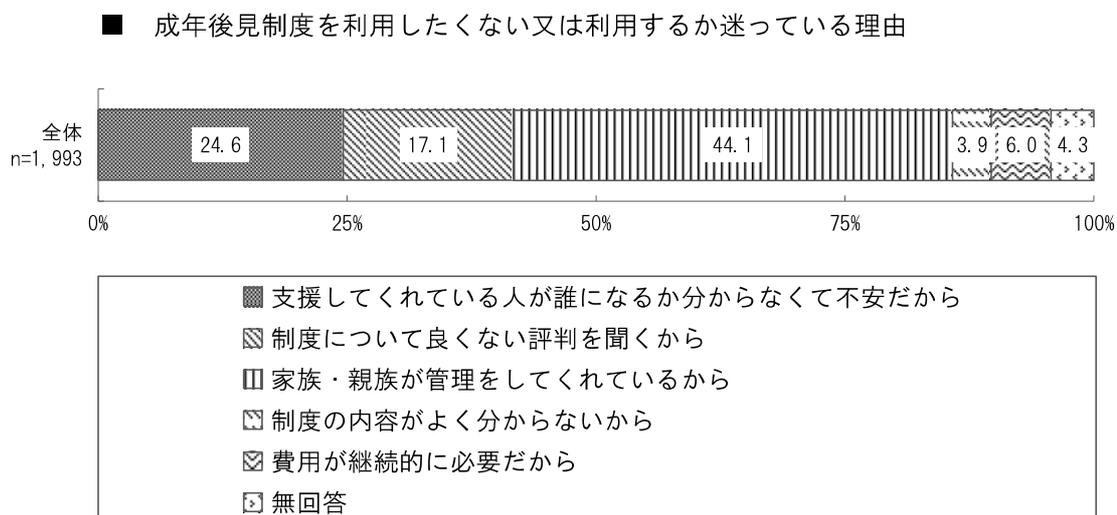
問 28-1 問 28 で「1. 名前や制度の内容を知っている」と回答した方にお聞きします。あなたは、成年後見制度を利用したいと思いますか。

「今は必要ないが、将来は必要になったら利用したい」(49.7%) が最も高く、次いで「利用したいと思わない」(36.8%) となっています。



問 28-2 問 28-1 で「3. 利用したいと思わない」「4. 利用するか迷っている」と回答した方にお聞きします。あなたが、成年後見制度を利用したくない又は利用するか迷っている理由を教えてください

「家族・親族が管理をしてくれているから」(44.1%) が最も高く、次いで「支援してくれている人が誰になるか分からなくて不安だから」(24.6%) 「制度について良くない評判を聞くから」(17.1%) となっています。



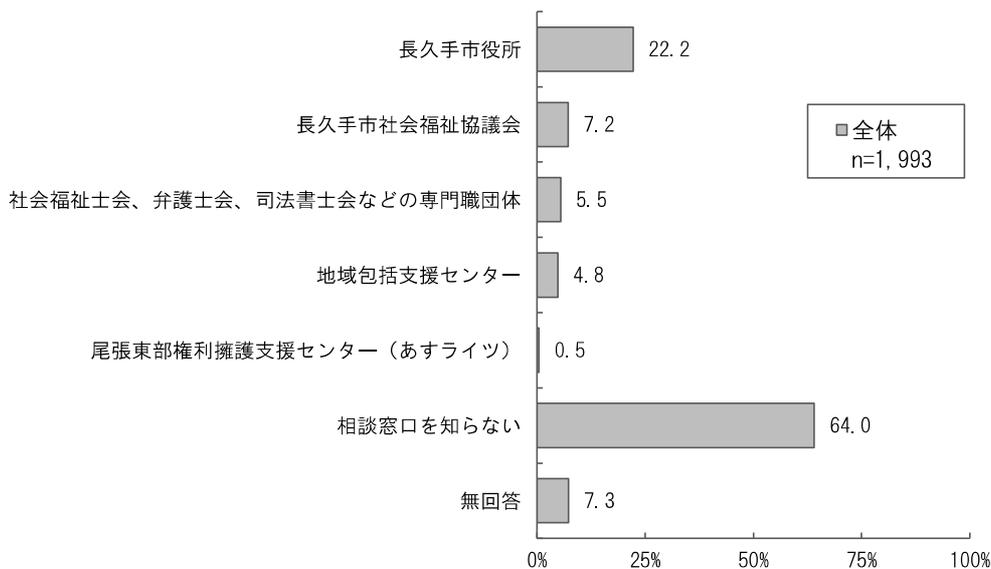
問 28-3 問 28 で「2. 名前や制度は聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した方にお聞きします。成年後見制度の利用に関する相談窓口として知っている場所はありますか。

【〇はあてはまるものすべて】

「長久手市役所」(22.2%)と最も高く、次いで「長久手市社会福祉協議会」(7.2%)となっています。

一方で、「相談窓口を知らない」(64.0%)となっています。

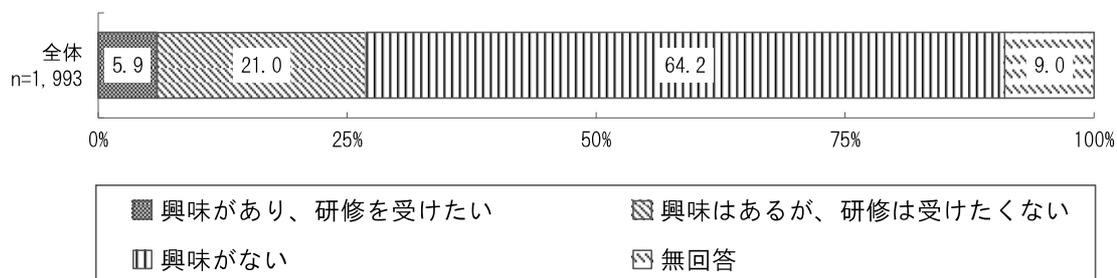
■ 成年後見制度の利用に関する相談窓口として知っている場所（複数回答）



問 29 研修を受けた市民が後見人になれる場合があります。あなたは、市民後見人について興味がありますか。

「興味がない」(64.2%)が最も高く、次いで「興味はあるが、研修は受けたくない」(21.0%)となっています。

■ 市民後見人に興味があるか

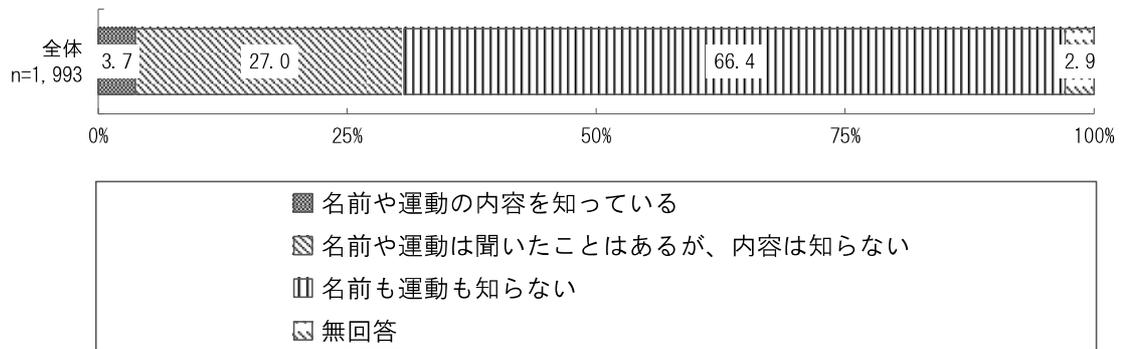


## 4. 再犯防止に関する考え

問30 あなたは、「社会を明るくする運動」についてどの程度知っていますか。

「名前や運動の内容を知っている」(3.7%)、「名前や運動は聞いたことはあるが、内容は知らない」(27.0%)「名前も運動も知らない」(66.4%)となっています。

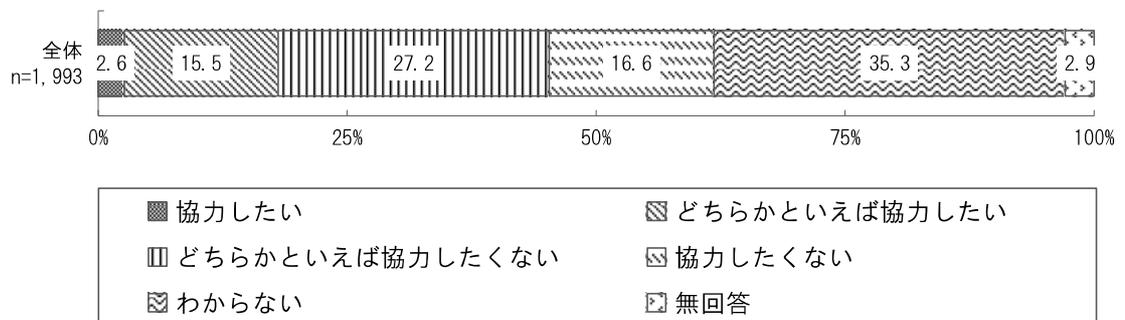
■ 「社会を明るくする運動」についての認知度



問31 あなたは、過去に罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思いますか。

「協力したい」と「どちらかといえば協力したい」をあわせた割合が18.1%、「どちらかといえば協力したくない」と「協力したくない」をあわせた割合が51.9%となっています。

■ 過去に罪を犯した人の立ち直りに協力したいか

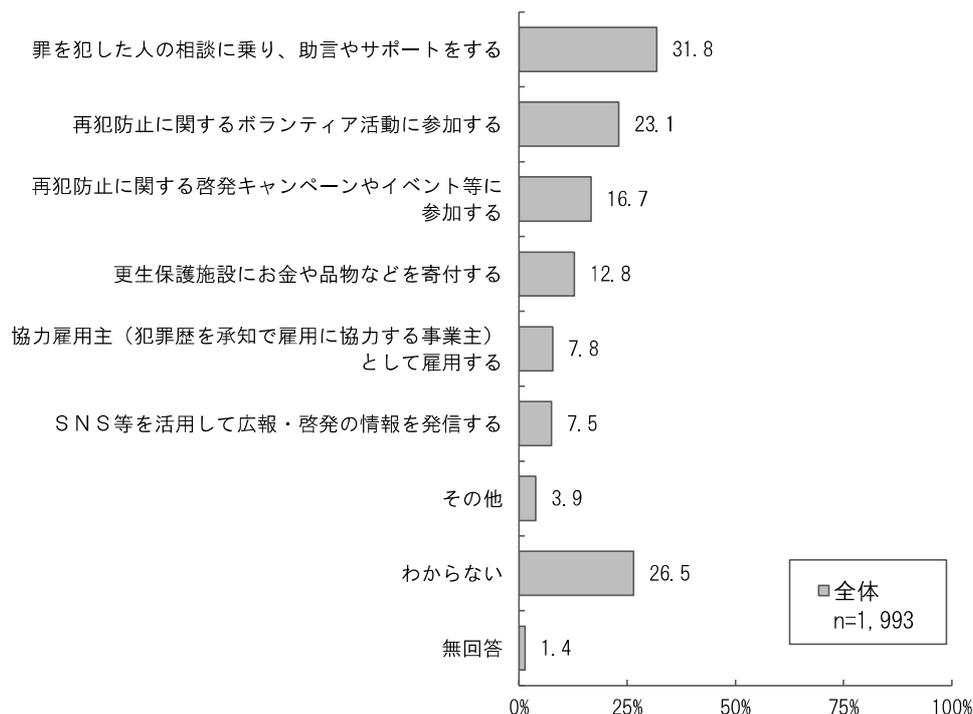


問 31-1 問 31 で「1. 協力したい」「2. どちらかといえば協力したい」と回答した方にお聞きします。どのような協力ができると思いますか。【〇はあてはまるものすべて】

「罪を犯した人の相談に乗り、助言やサポートをする」(31.8%) が最も高く、次いで「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」(23.1%)、「再犯防止に関する啓発キャンペーンやイベント等に参加する」(16.7%) となっています。

一方で、「わからない」(26.5%) となっています。

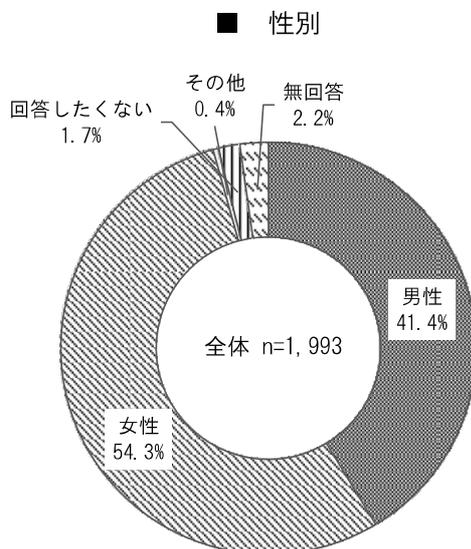
■ どのような協力ができると思うか（複数回答）



## 5. あなたご自身について

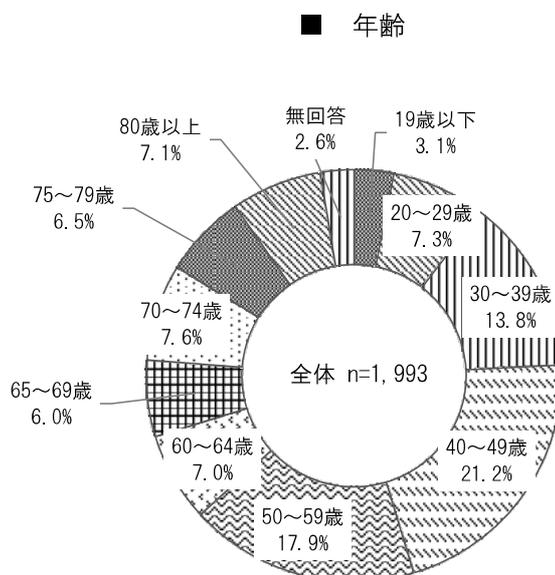
問32 あなたの性別は、次のうちどれですか。

「男性」の割合が41.4%、「女性」の割合が54.3%となっています。



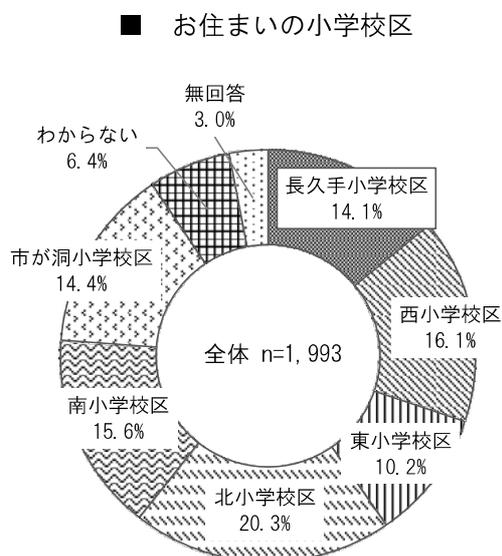
問33 あなたの年齢は、次のうちどれですか。

「40～49歳」(21.2%)が最も高く、次いで「50～59歳」(17.9%)、「30～39歳」(13.8%)となっています



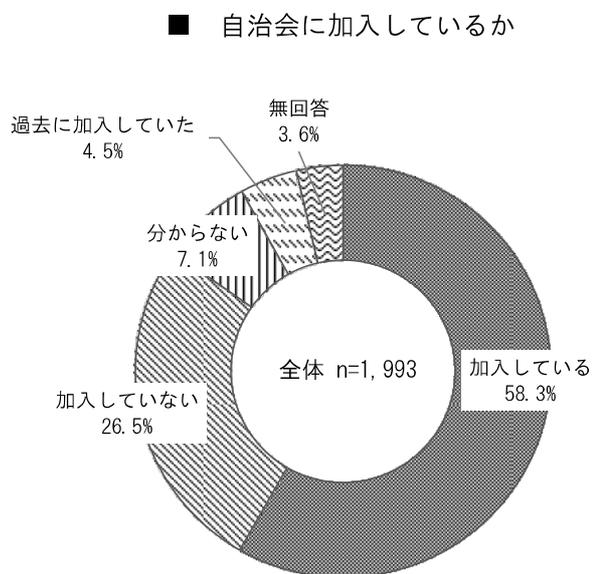
問 34 あなたのお住まいの小学校区はどこですか。

「北小学校区」(20.3%) が最も高く、次いで「西小学校区」(16.1%)、「南小学校区」(15.6%) となっています。



問 35 あなたは自治会に加入していますか。

「加入している」(58.3%) が最も高く、次いで「加入していない」(26.5%) となっています。



## 6. 長久手市の良いところや、まちづくりについてのご提案等（抜粋）

### 子育て・教育について

- ▶子どもの人数が増え、小学校教員が足りず1クラス37人と聞いている。長久手の公立に入れる不安がある。
- ▶子供がいても働ける環境づくりをもっと充実してほしい。（学校後に預ける場所等、所得制限の幅を広げてより多くの方が働きに行きやすくしてほしい）  
子育ての支援制度を増やしてほしい。
- ▶エコハウスがあり便利。児童館が狭くてがっかり、子供が走り回れない。イベントも少ない。（前の居住地の方が充実していた）
- ▶支援センターですが、市役所にしかないのもう一つほど欲しい。  
おもちゃが少なく譲り合っている。バラエティー豊かに増えたら助かります。  
保育園が認可・外ともに少ないので増やしてほしい。長久手には引っ越して間もない人が多く、子育てママは仕事をしていない人が多い。（仕事を辞めて引越しをしてきているので）そんな人が働きたいと思っても認可外しか預けられないが少なすぎて働くことを諦めざるを得ないのが現状。
- ▶子育てしやすいまちづくりにもう少し力を入れてほしい。たとえば第二子が生まれた時、第一子が三才未満だった場合保育園を退所せざるを得ないのはどうかと思う。
- ▶子供たちの通学路をもっと安全な通りにして欲しい。道路の幅が狭く、歩道柵がないところもあり怖く感じる場面もある。
- ▶保育料が高すぎて困る。
- ▶長久手南中学校の登下校時の見守り。（マナーがひどすぎる）
- ▶Nバスが子連れ無料。大型ショッピングモールがあり、赤ちゃんを連れていても安心して買い物できる。（オムツや授乳など）
- ▶名古屋のように学童が小学校内にあると安心で施設も活用できるので無駄がなくて良いと思う。ぜひご検討頂きたい。
- ▶図書館をもっと利用しやすくしてほしい。子供と一緒に本を読めるスペースの確保。勉強室については、集中しやすい環境や、席数を増やしてほしい。
- ▶あまりに急に人が増えすぎ、イメージばかりが先行して、保育所の数、学童クラブの数が追いついていないところが問題。
- ▶東小学校区は、子供の人数がどんどん増えていると思われるが、中学校が遠く安全面での心配もある。
- ▶大学がたくさんあるので、大学生が小学生、中学生、高校生に放課後、勉強や宿題を教えて下さる場があると助かる。2年前に引越してきましたが、とても住みやすく、学校の子供たちも良い子が多いと感じる。
- ▶長久手市は他の市町村と比較して子育て支援が遅れていると強く感じる。幼稚園の数も少なく、保育園にも入れず、他の市の幼稚園に通わせていますが、長久手市の人口が増えすぎているためバス運行に支障が出ています。幼稚園へ通わせている世帯でも働いている人は多く、しかし託児の施設整備が遅れていて困っている。

- ▶学校の通学カバンが重すぎて腰を痛めたことがある。カバンの重量を測ったら12kgもありました。教科書などもう少し軽くできませんか。毎日の通学がしんどくて、学校へ行くのが憂うつです。
- ▶子供を産んで仕事にすぐ復帰できる制度をもっと整えていただきたい。親や頼れる人が近くにおらず、熱が出たり怪我をして預かってもらえなくて大変だという方の話をよく聞く。
- ▶未就園児と母親が過ごせられる施設がもっとあれば。
- ▶行き渋りや不登校の子の居場所、N-ハウスだけではなく、各学区ごとに気軽に行ける居心地の良い場所を作ってあげてほしい。N-ハウスまで行くことが遠くて苦痛を感じる子もいる。各学校にフリースクール設置も考えてほしい。(別室登校の教室が居心地よさそうには見えないため)

### 公園、運動場、遊びの場等の整備について

- ▶緑化はいつも手入れされていて過ごしやすいです。公園にもっと小さな子供でも遊べる遊具を増やしてほしい。今は大きい子向けのものしかない気がします。
- ▶小さい子供が遊べる場所をもっと増やしてほしい。(児童館、公園以外で)安心、安全な屋内施設。
- ▶子育てをしていると、子供が遊べる場所(遊具や広場のある大きな公園)が少なく感じる。
- ▶長久手市内に思いっきり遊べる場所が必要。プレイパークのような公園があるとよい。
- ▶児童館以外で子供が遊べる施設があると良い。
- ▶モリコロパークにあってプールが無くなってしまい、コロナ禍で小学校のプール開放もなくなり、小学生の子供達は夏休みに日中猛暑で公園で遊ぶ事も出来ず、遊び場に困った。小学生の子供達が自転車でも行けるような場所にプールがあると大変有難い。
- ▶長久手は小さな公園は多いが、小学高学年以上で使える環境が少な過ぎる。
- ▶スポーツのできる場所(体育館)が少なくほとんど使えない。学校開放の日を増やす等の対策で体育館の利用については改善できるため、早急に対応してほしい。また南中のバスケットゴールもいつまでも壊れたままですが子供たちも使うため何よりも優先して直すべきでは。
- ▶運動施設を作ってほしい。

### 生活環境について

- ▶生活環境の向上を希望。特に下水道。
- ▶公園西駅周辺にお店が少なすぎる。食事や買物できる場所を増やしてほしい。
- ▶自然がまだまだ周辺に多くのどかである。また利便性があり今のところ不自由なく暮らすことができおり、ありがたいと思っている。
- ▶道の整備や地域差(開発地域の周辺のスーパー設置等の整備)をなくしてほしい。
- ▶自然が多く子育てに良い環境。名古屋に出やすく交通の便も良い。子育て、老人の福祉が充実している。感謝です。
- ▶公園や香流川等ウォーキングができ自然が残っている。リニモ利用で名古屋に行けて便利である。開発しすぎないように自然を残すことが大切である。
- ▶施設が比較的きれいな所や緑が多いのはとても良いところだと思う。

- ▶暗い所への街灯をもっと増やしてほしい。暗いところに入るとおかしな人が居るので。もっとパトロール回数を増やして安心なまちにしてほしい。
- ▶犯罪、不審者が多いようです。パトロールの強化をお願いしたい。
- ▶空き巣・不審者が多すぎる。警察・市・自治体によるパトロールを増やすべき。市内の雑草をきちんと駆除してほしい。
- ▶若いまちあり、緑が多い土地地域である。下町的な雰囲気街づくりもあって良いのではないだろうか。洗練された美しい、わかりやすい、見やすい街であると良いと思う。福祉・教育・医療が充実している。さらに継続できると良いと思う。
- ▶マンションや家屋建設ラッシュが続き、住民が一気に増えている事が懸念。ベッドタウン化しすぎると30-50年後の街の衰退もあり、道路整備も進んでいなく頭でっかちな街にならないか心配。
- ▶小さな子供たちが安全に安心して生活できるように、防犯や見守りを強化できるとありがたい。公園や緑が多く、とても暮らしやすい。

### 道路整備について

- ▶渋滞が多い。長久手に来てくれた人に不満を与える。
- ▶ジブリパークのオープンで渋滞を危惧していたが、思っていたよりスムーズでとても安心した。
- ▶人口や車が増えているのに道路に対する対策が遅いと感じる。
- ▶ジブリパークが出来て道が混むようになった。今後も臨時駐車場やシャトルバスを県にお願いして分散させてほしい。
- ▶モリコロパークなど作る前に、子供たちが安心して通学できるよう県道沿いなど歩道を作り、住みやすいまちにすべきである。
- ▶長久手北エリアに住んでいますが、歩道に段差が多い。歩道がないが車通りが多いところがとても多く、ベビーカー等での移動が大変。大きな通りはキレイにされていますが、狭くて古い道を整えてほしい。事故の多い交差点はいつも同じ。せめて点滅信号をつけるなど対策を取ってほしい。
- ▶交通量が増えたため、交通安全に力を入れる。
- ▶狭い歩道を自転車で通るのはやめて欲しい。
- ▶歩道の草が整備されていない場所があり、歩道が狭く通りにくくなっている。よろしければ、歩道や道路の整備を行うとよりよいまちになると思う。
- ▶マンション、住宅が新しく建ち、北小地区でも細い道の交通量の増加、スピードを出しながら抜けていく車に日々不安とストレスを感じている。また、子供さん方、ご年配の安全にも心配。

### 公共交通機関の整備について

- ▶リニモが安くなればもっと便利に利用しやすくなる。(どうしても地下鉄を比較して割高感があり利用しにくい)
- ▶リニモが活性化してほしい。リニモを8分に1本ではなく少なくとも5分に1本は来るようにしてほしい。

- ▶ 藤が丘まで行くのにリニモとバスがあるが、リニモは住宅街にはないし、バス停も少ないので不便。
- ▶ 緑が多く、自然豊かな環境に配慮しつつ、交通の不便を感じる事が少ないまちづくりを実現してほしい。
- ▶ 緑が多くて好きですが、自分も年齢を重ねてきて、この先交通手段が心配。Nバスの本数をもっと増やして沢山利用したい。まわりのお年寄りもバスの本数が少ないとよく聞く。せっかくNバスがあるのだから、もっとお年寄りが動きやすい不安のないまちにしてほしい。
- ▶ 免許証を返納してからの足としてもう少しNバスの本数を増やして欲しい。(有料は高齢者にはきつい)
- ▶ Nバス・福祉車両の充実を希望。免許を持たない高齢者や障がい者においては、移動手段がないため、Nバスの路線充実が必要だと思っている。乗り合いの軽車両など別の手段もあるかと思う。
- ▶ 住宅街の中にバス停を作るのは可能か？年齢層があがったら、バス停まで歩くのはとてもツライと思う。
- ▶ 高齢になり運転ができなくなった場合の移動について、何となく不安を感じる。
- ▶ 高齢化が進む中で、それぞれの取り組みや姿勢がしっかりしているので、Nバスのような地域と地域（市役所）自身と病院や商業施設などをつなぐ移動の手段がより充実していくと良いと思います。

## 自治会について

- ▶ 自治会に加入したいが、組には私の家しか入会する家がないので入れなかった。数年前には自治会がありました。
- ▶ 自治会加入を今春でやめた。役員ができるか不安で。自治会、加入、未加入で分けるのも地域分断の原因では。
- ▶ 現在、自治会に加入していますが、全く機能していない。回覧板が回ってきても期限が過ぎていたりして、ネットで配信したほうが早い。内容も特に重要なものもないように思える。特に高齢家庭はやめていく人が多くなってきている。現在退会を考えている。

## 交流について

- ▶ 地域の子供たち、お年寄りなどと交流できる機会があればいいなと思う。
- ▶ 子供から高齢者が集まれるセンターなどが各エリアにあることで、地域で支え合うことも可能になる。見守りもできる。
- ▶ 近所の人と付き合いたいと思うけれど、年があまりにも離れているので友達ができない。
- ▶ 街づくりについて。地域住民の交流が少しでもあると「いざ」というときに助け合うことができると思う。
- ▶ 長久手市には大学などもあり若い世代の方が多いと思うので、若い世代の方々と地域の高齢者の方や（子育て世代の方が）繋がれるような取組があるといいなと思う。
- ▶ 市内には大学が沢山あるので、交換留学生などを受け入れるホストファミリーの登録制度の様なものを、各大学と協力してやったらどうでしょう。

- ▶数年前に引越して来ました。長久手市に知り合いがいません。生活上困ったことはありませんが、地域の中にも知り合いができるといいなとは思いますが、消極的です。
- ▶市民の交流の場を増やしてほしい。
- ▶先日児童館でおばあさんからボタンつけなど簡単なソーイングを教えてもらえる機会があり、その時入園グッズを作るのが大変だと言う話をしたら、福祉の家で月1回集まっているから来たら教えてあげると言われました。料理やソーイング、昔の遊びなど、おじいさん、おばあさんが得意なことを教えて頂ける機会があると、子育て中のママたちは嬉しいし、助かると思うし、交流がふえていいなと思う。またそういった交流の中で、子育ての悩みを話したり、相談にのってもらったりできるかなと思う。
- ▶古くから市政を支えてきた住民が、固定資産税の増加などで長久手を離れていき、地域内の祭りなどの維持が難しくなっている。
- ▶「地域共生ステーション」などの役割はさらに重要なものとして利用される事を期待している。その為には地域のコミュニティー「町内会・老人会 etc」に出張して啓蒙してもらいたい。
- ▶大学生で居住地として定めておらず、地域について明るくない方も多と思う。そうした方々も交流がとれる企画など、積極的に今後も展開されていくといいと思う。
- ▶母親教室や育児教室が定期的に行われていて参加しやすい。その他にも色々なワークショップ等を行って頂いているかと思うが、文字だけではどのような雰囲気なのか、自分は参加して大丈夫なんだろうかということが分かりづらい。広報に写真を多く載せたり、SNSをもっと活用することでより多くの人（特に若い人）に周知できるのではと思う。
- ▶若年層の流入が多く、昔からおられる高齢層と若年層との融合が課題と感じる
- ▶高齢者がもっと楽しめるいろいろなサークルがあればと思う。
- ▶共働き世帯も多いためか、子ども会へ参加する子供もどんどん減少し、地域のつながりも減ってきているように思います。みんながもらうために行事に参加するのではなく、自らが人を楽しませることを考えていけたらいいなと思う。
- ▶活動参加意欲のある人を優先した制度も必要だが、興味のない人に活動が身近なものと感じる活動や制度の広報をしたほうがよいのでは。
- ▶一人暮らしでアパートにて生活しています。自宅には寝るために帰るような仕事中心の日々のため、近所の人顔も分からないほど交流は希薄。長久手は、若い方、家族が多くて活気を感じますが、独り者には生活しやすい地域だけれど、なんだか取り残されているようにも感じる。
- ▶地域で昔からやっているお祭りなど、新しく来た人たちも参加できるものがあれば知り合いも増えてよいと思う。

#### イベント開催について

- ▶若い世代が多いので、高齢者とのかわりが持てるようなイベントを増やしていただけたら、地域交流に繋がっていくのかなと思う。
- ▶地域の交流は少ないと感じる。市内で行われるイベントなどをもっと広く宣伝してほしい。

- ▶市が開催しているイベントは、子育て世代や子供向けのイベントが多いと感じる。それと同じくらい独身者などが参加しても不自然に思われないようなイベントなども考えていただけると助かる。
- ▶イベント開催の市民への周知がされていない。また、イベントも小規模のものが多く、ケーブルテレビで紹介されているものも高齢者が目立つ。若いまち長久手なのに、若い人のイベントが少ないように思う。文化の家を有効利用し、イベントの活性化を希望。
- ▶「ワークショップ」という名前だとハードル高く感じる。行こうという気になるには、結構心構えが必要。イベント感をメインにして、プラス地域のことなどを学べる場にしたほうがよい。
- ▶いつも同じようなワークショップが多く（市が主催するもの）、魅力を感じない。結局、同じ人しか参加しないので意味がない。
- ▶アパートやマンションの住人が、気軽に参加できるイベントがあるとよい。
- ▶いろいろなイベントがあって交流する場があっていいと思う。なかなか参加できないけれど、今後もこうした交流の場は作り続けて欲しいと思う。
- ▶最近長久手市内のイベントに参加したり話を聞いたりすると、非常に多くの方が、集まっていると感じる。コロナ対策でイベントを開けない期間が長く、多くの方が渴望しているのではないかと思う。楽しそうなイベントがあると、普段会わない人にあったり、行かない場所に行き、新しい情報を得る機会も増え、街が活性化すると思う。市は、多くの方が興味を持ち、リアルで交わるようなイベントを後押しするような政策をしてほしい。

#### ボランティアについて

- ▶ボランティアイベントが高齢者や親子を対象としているような気がして、学生の自分は参加していいのか迷ってしまう。
- ▶皆お互い助け合うことはよいことだという点では異論がないと思うが、ボランティア的になるとなかなか一歩はふみ出せないと思う。気軽に1時間でも参加できるような仕組みがあるといいのでは。
- ▶長年ボランティア活動に参加してきました。誰でも自由に参加できる受け入れ体制は、長久手はよいと思っている。

#### 地域資源の活用について

- ▶普段の生活の中では気づかない魅力に気がつくきっかけになると思うので、令和元年度に開催された「長久手フォトコンテスト」をまたやってほしい。また、近年町おこしのために短歌や俳句、川柳などを募集する大会を主催する市町村も多い。長久手市も文芸祭などを行ってはいかがか。
- ▶長久手に移り住んできた人たちが、長久手の歴史を学ぶ機会があると面白いと思う。
- ▶歴史的な場所であると思うので（古戦場など）もっとアピールしてほしいと思う。
- ▶自然と街のバランスが良い。文化的な所をもっと充実してほしい。

## 緊急時・災害時について

- ▶ 温暖化が止まらず、高齢化が進むことにより、ますます災害への対策の重要度が高まる  
ことが考えられる。事が起きてからの応急処置ではなく、事前からの予防、準備が災害  
規模の減少に役立つことになる。将来を見据えた目を持つことがますます必要。

## 福祉について

- ▶ 難病の認定など手続きがいろいろ必要だが、行政の窓口は色々と分かれていてデジタル  
化もされてなく、保健所へ行かなくてはいけない。→書類が足りない→役所へ行く→保  
健所へ行く、色々と回っている。
- ▶ 障害のある子どもが家にいます。長久手市の健診で見過ごされ、幼稚園の先生の指摘で  
発見されました。周りの障害児の親に聞いても、市の健診やたんぽぽ教室に通っていた  
という子も居ますが、意味がなかったと誰もが言います。社協の担当の方が全てやって  
くれました。保健師の役割が果たされていないと思う。
- ▶ うつの人は自ら訴えたり外に出て助けを求めたり出来ない。そこに至る前に助けが必  
要。病気になった人は気持ちが理解出来るけど、なってみないと気持ちは理解出来な  
い。うつから立ち直れたら、その人自身が助ける仕事として出来たら良い。
- ▶ 近所の同世代（就職氷河期世代）で医療や保育、福祉などを含め、地域（福祉）に役立  
てるのではないかという人材が、様々な理由で時間をもしくは知識をもてあましてい  
る。人材はあると思うので、活用してほしい。
- ▶ 障がい者の生活介護施設やグループホーム等の充実が必要では。現状はすでに定員等で  
市外の事業所を探す事になっている。住みなれた所にいられない。
- ▶ 高齢者や障がい者、子供2世代に関しては関心が強いが、現役世代の地域での居場所がな  
い。（子供がいないと関わりがなく、仕事、がある為、ボランティア等も出来ない）子供  
のいない現役世代はこのまちからは、関わりが無いとされているように思う。福祉のまち  
という言葉を多用しているが、介護予防に関する事業は、どんどん縮小されているよう  
に思う。介護になってからだけでなく、ならない為の施策をもっと考えてほしい。
- ▶ 私は車イスで買物をしていると、いつも親切な方が何かお手伝いしましょうかと声をか  
けて下さる。そのやさしさに元気をとうれしさに頑張っ、疲れているときにも元気が  
出て、御親切ありがとうございますと感謝の気持ちに成り、長久手市の方はいいかたばか  
りだなあと思う。
- ▶ 民生委員の選任について。前任者からの推薦で安易に決めるのではなく、市でよく審査  
して決めていただきたい。
- ▶ 助けを必要としている方を助けたい気持ちはありますが、損害賠償のリスクを考えると  
不安のほうが大きく、踏み出せない。
- ▶ 高齢者ケアはまだまだだと介護をしてみても実感している。先回りをしてアドバイスでき  
るケアマネジャーの育成と自立しながら、ケアもしてもらえるヨーロッパのケアハウス  
のような施設を増やしてほしい。

## 制度の活用について

- ▶病気になるでも最後まで自宅で過ごしたい。「緩和ケア訪問医」がいてほしい。家族は遠方に住み、体も悪くあてにできない。色々な手続きをしてくれる人（成人後見人）が長久手市に多くいてほしい。
- ▶私達夫婦には子供がいないので、成年後見人に興味がある。20年後くらいの話になると思っているが、自分たちが長久手で暮らすのか、他の土地で暮らすのか、そろそろ考える歳でもある。いろいろな制度の勉強ができる場があると良いと思う。
- ▶私の母は認知症になりました。安心メールなどは来ますが、もう少し市内での認知（理解）があるといいのと思う。どんどん認知症の人は増えると思うので、オレンジリング活動を小・中学校でも行い、自分のじじばばへの理解が広がると、思いやりのある地域になるのではと思う。

## 市の施策等について

- ▶色々な窓口が細かく分かれすぎていると思う。シームレス化を考えた窓口の再編と効率化が必要かと思う。
- ▶長久手市は若い世代が増えている。その割には若い人に対する政策が少ない。保育園・小学校が少ない。新興住宅から遠いなど。小学校を一時的に新設し、その学校を将来的には福祉施設とするなど考えれば長久手市の情勢に合わせたまちづくりになるのでは。
- ▶水道代が名古屋に比べてとても高い。ゴミ袋代の値上げをやめてほしい。子育て世代と子どもが明るく生活できるような長久手市になってほしい。
- ▶全ての問題を解決することは難しいので、まず長久手市の優先順位とその根拠を示すと良いのでは。「この街は、これを大切にしている街」という意識とそれに関する社会活動が紐づくと、行動につながる。（つながりやすい）また、啓発のみならず強いリーダーシップと継続的な活動が必要ではないか。
- ▶ジブリパークができ、全国から多くの方々が長久手市を訪れるにもかかわらず、長久手市内に入っても「歓迎感」が全く感じられない。近隣市町の方がよっぽどジブリを活用した街づくり、PRを考えて魅力づくりをしている。当エリアの連続照明のバナーに過去一度もフラッグが掲げられたことがない。長久手市PRをもっと行うべきと思う。ジブリが来ても生かされていないと思う。
- ▶50年後に老人ばかりの市にならないように、長期的目線で街づくりに期待している。
- ▶若い世代が多くほどほどに商業施設や社会インフラが整っており、とても住みやすい。高齢化に備えた住居・施設環境・労働環境と、過密化・過疎化しない都市計画があるといいと思う。
- ▶市民の健康作りにもっと力を入れてほしい。市民体育施設の充実。ウォーキングやサイクリングに関する環境整備（道路など）。
- ▶大きな商業施設やテーマパークを上手に利用して、市で行っている取り組みを知ってもらい仕組みが必要だと思う。良い取り組みをしても、一部の人しか知らない自己満足のものになるのはもったいない。知る機会が増えれば、参加する市民が増える。かたくなるしい行政っぽさを無くし、若者も参加できる工夫をお願いします。
- ▶子育てや高齢者福祉のまち街長久手として長久手市は有名ではあるが、それ以外の人、独身者や若い人も住みやすい街にしてほしい。常に子どもや高齢者にターゲットが集中しているように思える。

- ▶地域内、地区内で対応する課題があると思う。これについて市当局が前向きに対応策や解消策を指導してはどうか。
- ▶若い人が多くて活気がある。商業施設も充実してきて、今後更に発展できる街だと感じている。子供への支援も積極的で未来を育てるという視点からは賛同できるが、子育てを終了した&高齢者まではいかない我々世代に対しての補助等は感じられない。(コロナ対策としての給付なども)同じ様に生活をする為には、年々先への不安を考える様になってきている現実がある。
- ▶様々な取り組みがあり、広報もされているが、本当に困っている人の支えになっているかは疑問
- ▶子育て世代には優しい市とは感じるが、大人や一人暮らしなどの人たちにとってはあまり親切な感じではない。
- ▶治安がよく、便利な長久手市はとても住みよいまちではありますが、新しい分、地域のつながりが弱いと感じる。互いに助け合える長久手市になれば、もっと安心・安全な住みよいまちになってくれると思っている。
- ▶まちづくり→少数の特定の人たちが勝手に行っている印象。オープンになっていないと感じる。
- ▶長久手市は近年「日本一若い町」と盛んに取り上げられ、ジブリパークの開園などでますますその注目度は高まっているが、その一方で、市に住む若者の1人として市の実態にはやや疑問と感じている。「若者が参加する気がそもそもない」というのも間違いではありませんが、事実私のように若者でも市を考える者はいます。若者も若者だけでなく、全ての市民がこの市に生きていて住んでいて良かったと感じるのが、市の目指すところと仮にするのならば、市政に変化が必要だとも思う。「若者の声が」というより「若者が」市を作っていかなければいけない時代ではないのか。
- ▶私見だが「地域福祉」や「地域互助」という物そのものが信用できないと感じており、近所に住んでいる「地域の人々」とも信頼関係が築けていない。(必要を感じない)理由として「地域のコミュニティ」(自治会)等に今まで触れたことがなく、どんなものかを知らず、だがそれによって困った事態に陥ったことがないので、存在意義そのものに疑問すら感じる。また、「全ての人に役割のあるまち」というフレーズに対しても「何らかの義務を課されるのか」というのが正直な感想である。
- ▶自治会、連合会、まちづくり協議会の位置づけが分かりづらい。

## 情報について

- ▶インターネット、Blog、YouTubeなどのチャンネルをもっと活用すべき。インターネットにつなげられない貧困層へは、長久手市のフリーWi-Fiなどを提供するなど対策が有効だと思う。インターネットの使い方がわからない人には、教育を実施すべきだと思う。
- ▶日々の生活の中で中々市のホームページにアクセスしないので、LINEでお知らせしてもらえると情報を色々と便利なのでもっとLINE活用してほしい。
- ▶紙の広報誌は廃止し、メールマガジンやSNSなどネットで市の情報を発信してほしい。議会だよりは質疑が唐突で背景や経緯がよく分からないので、記載してほしい。
- ▶広報も読みますが、SNSでより情報を発信してほしい。

- ▶広報で知らせているからでは駄目。対象を絞った通知が必要。例えば、高齢者になっても老人会の案内すら来ない。

#### 相談窓口について

- ▶転入の方が多いのですが、困った時の相談窓口が分からないのではと思う。
- ▶市役所はいつ訪ねても感じが良く、雰囲気良く何でも相談しやすく助かっている。
- ▶何か困ったら「市役所に相談すればいい」と思っており、今のところ不安はないです。「日本一の福祉のまち」を実現するため努力している長久手市を、とても頼もしく思っている。
- ▶市でどんな事を相談できるのか？どんな事なら困った時力をかりれるのか不明。わかりにくいので、生きる老化の不安が多い。一人になった時生きていく生活に不安。考えたら不安で気が重い。考える余裕もない。
- ▶一つの窓口から色々な問題に対応した手続きが可能になるとすると、今までは「振り分け」が窓口の役割かと思いますが、それが「たらい回し」を作っていると思う。一つの窓口から各部署へリモートでつないでくれれば余計な回りなどは減るかと思うし、細分化され煩雑な書類は、発行部署へ発行の依頼をにかけていただけるとよい。

#### その他

- ▶色々な立場の方が多方向で活動していますが、統一を図るべきでは。
- ▶アンケートはインターネットで回答、提出できるとありがたい。
- ▶今回の調査書類にボールペンが同封されていましたが、筆記用具は各家庭の物を使えば良いと考える。
- ▶アンケートは紙じゃなくネットでやったほうがよい。
- ▶今回のアンケートでボールペンが入っていたが無駄。もったいない。▶スマホやPCがない人もいると思うので、紙で送らないといけないと思うが、QRコードがあればみんなやってくれると思う。



### Ⅲ 調査票

調査票貼り付け

長久手市  
地域福祉に関する市民意識調査  
調査結果報告書

令和5年3月発行  
長久手市役所 福祉部 福祉課

〒480-1196 愛知県長久手市岩作城の内 60 番地 1  
TEL : 0561-56-0553 FAX : 0561-63-2100